

Ⅱ：分担研究報告

研究 2

飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査（2024 年）

令和 6 度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

分担研究報告書

飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査（2024 年）

分担研究者：嶋根 卓也（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

研究協力者：水野 聡美（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

猪浦 智史（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

邱 冬梅（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

北垣 邦彦（東京薬科大学薬学部社会薬学研究室）

小出 彰宏（横浜薬科大学薬学部レギュラトリーサイエンス研究室）

富永 孝治（日本薬剤師会、日本学校保健会）

竹原 健二（国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部）

【研究要旨】

【目的】本研究の目的は、全国の中中学生における飲酒・喫煙を含めた薬物乱用に関連する実態を把握することである。調査結果は、青少年に対する各種対策を講じる上での基礎資料として関係機関に供する。本研究は、全国の中中学生を対象に継続的に実施しているわが国で唯一の薬物乱用の実態調査である。今回は 14 回目の実施となった。

【方法】調査対象は、都道府県単位で無作為（層別一段集落抽出法）に選ばれた計 244 校（公立校 225 校、私立校 17 校、国立校 2 校）の中学校における全在校生（想定生徒数 114,084 名）であった。調査期間は 2024 年 9 月から 12 月であり、各対象校内で、無記名の自記式調査（質問紙あるいはオンライン）を実施した。調査実施にあたっては、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会の承認を得た（承認番号 A2022-027）。

【結果】計 124 校（公立校 119 校、私立校 5 校）から調査協力が得られた（回収率 50.8%）。回答が得られた計 38,277 名のうち、除外基準に該当する 310 名を分析対象から除外し、残りの 37,967 名を分析対象とした。主な知見は以下の通りである。

1. アルコールの生涯経験率は 14.9%、過去 1 年経験率は 5.7%、ノンアルコール飲料の過去 1 年経験率は 8.2%であった（いずれも推定値）。
2. タバコの生涯経験率は 1.3%、過去 1 年経験率は 0.7%であった（いずれも推定値）。
3. 違法薬物の生涯経験率は、大麻 0.07%、有機溶剤 0.13%、覚醒剤 0.06%、危険ドラッグ 0.06%、いずれかの違法薬物 0.18%であった（いずれも推定値）。違法薬物の過去 1 年経験率は、大麻 0.04%、有機溶剤 0.08%、覚醒剤 0.03%、危険ドラッグ 0.03%、いずれかの違法薬物 0.11%であった（いずれも推定値）。すべての違法薬物の生涯経験率は、前回調査（2022 年）に比べて減少していた。
4. 過去 1 年以内の市販薬の乱用経験率は、全体 1.8%、男子 1.5%、女子 2.0%であった（推定値）。乱用した市販薬の入手先は、薬局・ドラッグストア等の実店舗（64.2%）が最も多く、家の常備薬から（33.3%）、友人・恋人・知人（3.6%）、インターネット（3.5%）と続いた。

【考察】いずれの違法薬物も生涯経験率が前回調査（2022 年）に比べて減少していた。新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、社会活動が正常化した後においても、中学生における

違法薬物の乱用リスクの減少が続いている可能性がある。ただし、違法薬物の生涯経験率が低下した一方で、薬物乱用を肯定する考え、特に大麻使用を肯定する考えが増加している点には注意が必要である。咳止め薬などの市販薬の乱用・依存症例が急増していることを背景に、本研究では中学生における市販薬の乱用経験を初めて調べた。過去1年以内に市販薬の乱用経験のある中学生は約55人に1人の割合であり、市販薬の乱用問題が全国的に広がっている可能性がある。市販薬の乱用経験のある中学生は、学校や家庭で孤立状態にあり、日常生活で様々な生きづらさを抱えているといった心理社会的な特徴を有することが明らかとなった。乱用した市販薬の主たる入手先は、薬局やドラッグストア等の実店舗であることから、未成年者に対する販売を慎重に行うことや、異変に気づいた際の声かけなどを徹底することが重要である。家の常備薬を入手先とする回答も一定数みられたことから、家庭内での医薬品の管理を保護者に求めていくことも重要となる。

A. 研究目的

本研究の目的は、全国の中学生における飲酒・喫煙を含めた薬物乱用に関連する実態を把握することである。得られた研究結果は、青少年に対する薬物乱用対策の立案・評価を行う際の基礎資料として供される。

本研究は、全国の中学生を対象とするわが国で唯一の薬物乱用に関する実態調査である。

「飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査」として、1996年より同一研究デザインに基づき、経年的に実施してきた¹⁻¹⁴⁾。ただし、2020年は、COVID-19パンデミックの影響で中止となった。今年度は、第14回目の全国調査となった。

B. 研究方法

1. 対象者およびサンプリング

調査対象は、全国から都道府県単位で無作為に選ばれた計244校の中学校における全在籍生徒であった（想定生徒数114,084名）。校種の内訳は、公立校225校、私立校17校、国立校2校であった。調査対象校の抽出には2024年版全国学校データ中学校（教育ソリューション株式会社）を用いて、層別一段集落抽出法により決定した。ここでいう集落とは各学校を指す。各都道府県から1校以上を抽出するため、各都道府県を層とし、中学生数に比例して抽出対象校数を決定した。抽出対象校数を決定するにあたり、調査時点において中学生数が最も少ない鳥取県を基準とした。鳥取県における中学生数

との比に従って、残りの都道府県における対象校数を決定した。小数点以下は切り上げとした。例えば、鳥取県の中学生数を基準とした比は、埼玉県が12.4、高知県が1.2となり、抽出される対象校数は、埼玉県13校、高知県2校となる。なお、各都道府県の対象校を2校以上確保するために、最終的に鳥取県の対象校数を2校とした。各都道府県の調査対象校は、抽出確率をもとに乱数を用いて無作為抽出した。その際の抽出確率は、各学校の生徒数に応じて定め、生徒数が多い学校ほど抽出確率が高くなるようにした。

2. 調査に関する事前通知および依頼

2024年6月、文部科学省担当課、都道府県教育委員会、対象校を所管する市区町村教育委員会に対して、本研究の実施に関する事前通知を文書で行った。教育委員会への通知後、各対象校に対しては、調査に関する依頼状、アンケート用紙のサンプル、調査協力の意向を確認するための用紙（返答フォーム）を郵送した。なお、返答フォームには、対象校の名称、都道府県名、校長先生（あるいは担当教員）の氏名、メールアドレスに加え、調査実施の意向（実施予定、検討中、協力辞退）、実施方法（調査用紙への回答、オンライン回答、未定）を記載していただき、メールあるいはFAXにて当センターまで返答を依頼した。調査実施にあたり、保護者向けの説明文書を作成し、学校のホームページに掲載するか、保護者宛てに通知を行うように依

頼した。

3. 調査の実施方法

調査実施期間は、2024 年 9 月から 12 月までであった。一部例外的に、学校の事情により 2024 年 8 月あるいは 2025 年 1 月に調査を実施した学校もあった。

本研究は、無記名の自記式調査によって実施した。調査の回答方法は、従来のアンケート用紙を使った質問紙調査（以降、質問紙回答と記載）と、学習用端末を用いたオンライン調査（以降、オンライン回答と記載）のどちらかを学校単位で選択できるようにした。今回、オンライン調査を取り入れた背景には、教育現場からのニーズが高まったことが影響している。文部科学省では、2019 年より GIGA スクール構想を進めており、学習用端末を活用した教育が提供される機会が増えている。本研究に対しても、学習用端末を用いた調査の実施を希望する学校が年々増加していることを受け、今年度の調査よりオンライン調査を取り入れた。オンライン回答は学校で使用する学習用端末に限定し、スマートフォン等の個人の端末での回答は認めなかった。なお、オンライン回答のシステムは、Google フォームを用いた。

2024 年 8 月以降、対象校の意向に応じて、質問紙回答の場合は、全生徒分の調査書類一式を郵送した。オンライン回答の場合は、対象校ごとに作られたフォームへの接続情報（URL）をメールで伝えた。その際、担当教員向けの調査実施マニュアルを併せて送付した。

調査の実施は、いずれの回答方法であっても、原則として学校内での集団実施として依頼した。具体的には、ホームルーム、保健体育や道徳などの教科の時間、総合的な学習の時間などを例示し、クラス単位での実施を依頼した。場合によっては、薬物乱用防止教室に併せて、学年単位あるいは学校単位での実施も認めた。質問紙回答の場合は、教室内でアンケート用紙と個人用封筒を配布し、各担当教員が調査の注意事項（別添のアンケート用紙の冒頭に記載）を読み上げてから回答するように依頼した。オン

ライン回答であっても、同様の手続きをとった。

具体的な注意事項としては、「アンケートは無記名であり、個人は特定されないこと」、「アンケートへの回答は自由意志に基づくものであること」、「答えたくない質問には答えなくても構わないこと」、「アンケートに協力しないことで成績が下がるなど、何らかの不利益が生じることはないこと」などが含まれる。調査への同意は、アンケート冒頭の同意確認欄に○を付けることで、同意を確認した。同意できない場合は、白紙のまま提出すること、無記名調査のため、アンケート提出後に同意を撤回することができない旨を記載した。以上の手続きにより、対象者が調査に協力することを拒否する権利を保障した。

アンケート回答後は、生徒自身でアンケート用紙を折りたたみ、個人用封筒に入れ、封をしてから提出させた。オンライン回答の場合は、ブラウザを各自閉じることで調査完了とした。アンケートの開封作業、インプット作業の一部は、外部業者に委託した。インプットされた電子データは、クリーニングルールに基づき、データのクリーニングを行った。

本研究は、国立精神・神経医療研究センターの倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号 A2022-027）。

4. 調査項目

調査項目は計 32 項目であった（別添アンケート用紙を参照）。

基本属性および生活に関する項目としては、性別、学年、朝食の摂食頻度、学校生活への満足度、大人不在下で過ごす時間、友人関係、親への相談頻度など 11 項目を尋ねた。今回の調査では、日常生活や学校生活での「生きづらさ」に関する質問を 1 問追加した。過去 1 年間を振り返り、「あなたは日常生活や学校生活など様々な場面で『生きづらさ』をどのくらい感じていますか？」という質問を行い、「かなり感じている、どちらかと言えば感じている、どちらかと言えば感じていない、まったく感じていない」の 4 件法で回答を求めた。

飲酒・喫煙に関する項目としては、アルコール・タバコの生涯経験、初回使用年齢、過去 1 年経験および使用頻度、過去 1 年以内のノンアルコール飲料の使用頻度など 7 項目を尋ねた。

薬物乱用に関する項目としては、有機溶剤・大麻・覚醒剤・危険ドラッグの 4 種類の薬物について、各薬物の生涯経験、過去 1 年経験、誘われ経験を尋ねた。また、薬物の入手可能性を 4 件法（絶対に不可能、ほとんど不可能、なんとか手に入る、簡単に手に入る）、薬物乱用に対する考えを 3 件法（使うべきではない、少々なら構わない、まったく構わない）で尋ねた。

今回の調査では、市販薬の乱用に関する項目を 2 問追加した。まず、過去 1 年以内の市販薬乱用経験の有無を尋ねた。乱用の対象となる市販薬として、咳止め薬、風邪薬、解熱鎮痛薬の 3 種類の医薬品カテゴリーを例示した。そして、乱用目的とは治療目的ではなく、「ハイになるために、気分をかえるために決められた量や回数を超えて使用すること」と意図的な過量服薬を想定した質問とした。次に、市販薬の乱用経験がある場合は、乱用に使った市販薬の入手先を尋ねた。回答選択肢は、「薬局・ドラッグストア等の実店舗で購入した」「インターネットで購入した」「友人・恋人・知人から譲り受けた」「家の常備薬から」「その他の方法で入手した」から構成され、複数回答可とした。

最後に薬物乱用の害に関する設問として、薬物依存、精神病状態、フラッシュバック、大麻使用による健康影響、市販薬乱用による健康影響など 8 項目の周知状況について尋ねた。また、友人や知り合いに薬物の乱用を誘われた際の断る自信（自己効力感）を 4 件法（大変ある、どちらかと言えばある、どちらかと言えばない、まったくない）で尋ねた。

5. 統計解析

回答の中に、論理的な矛盾や不備がある場合は、事前に作成したクリーニング・マニュアルに基づき、データ修正を行った。データ集計にあたり、一部の変数は再コーディングを行った。例えば、薬物の入手可能性に関する項目は、「絶

対不可能」および「ほとんど不可能」という回答を「入手できない」、「なんとか手に入る」および「簡単に手に入る」を「入手できる」として再コーディングした。また、薬物乱用に対する考えは、「少々なら構わない」および「まったく構わない」を「薬物乱用に対する肯定回答」として再コーディングした。違法薬物の使用経験に関する項目は、「過去 1 年以内に使った」を選択した場合、過去 1 年経験者とし、「過去 1 年以内に使った」「過去 1 年より前に使った」のいずれかを選択した者を生涯経験者と定義した。

アルコール、タバコ、薬物乱用の各経験率については、観測値および推定値の両方を算出した。観測値とは、今回得られた回答者全体を分母とした単純な百分率である。中学生全体、性別（男子、女子）、学年（1 年生、2 年生、3 年生）それぞれの経験率を算出し、経年データと合わせて記載した（表 2～13）。一部、表に対応するグラフも作成した（図 2～13）。

一方、推定値とは、サンプリングや回答状況を考慮し、重み付けをした値であり、母集団（日本の中学生全体）の特性値を標本データから統計学的に推測した値である。推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および 95%信頼区間を算出した。推定値についても中学生全体、性別（男子、女子）、学年（1 年生、2 年生、3 年生）それぞれの経験率を推計し、経年データと合わせて記載した（表 40～49）。ただし、経年データは現在のサンプリング方法を採用した 2010 年以降の推定値を記載した。推定値の算出方法および結果の解釈は 2020 年調査の報告書に記載した方法と同じである¹³⁾。一部、表に対応するグラフも作成した（図 14～21）。

クロス集計については、性別（男子、女子、その他・不明）、学年（1 年生、2 年生、3 年生）、過去 1 年以内の大麻使用経験（非経験群、経験群）、過去 1 年以内の市販薬乱用経験（非経験群、経験群）に分類し、すべての変数とのクロス集計を行った。なお、群間の有意差検定はカテゴリカル変数についてはカイ二乗検定を採用した。ただし、期待値が 5 未満のセルが全体

の20%を超える場合は、フィッシャーの直接確率法を採用した。

C. 研究結果

1. 回収結果

調査対象校244校のうち、計124校（公立校119校、私立校5校）から調査協力を得た。回収率は50.8%であった（図1）。調査を実施した124校のうち、質問紙回答は69校（55.6%）、オンライン回答は55校（44.3%）であった。また、調査を実施した124校のうち、24校は学年あるいは学級を限定した形で協力を得た。

表1に都道府県別の対象校数および実施校数（実施率）の状況を示した。各都道府県の実施率は0%（秋田県、福島県、福井県、島根県）から100%（岩手県、富山県、山梨県、和歌山県、鳥取県、山口県、徳島県、香川県、高知県、宮崎県）までばらつきがみられた。

計124校の調査協力校より、計38,277名の回答が得られた。これは想定生徒数の33.6%に該当する。ただし、データベース（全国学校データ）に掲載された生徒数と実際の在籍生徒数とは必ずしも一致しない可能性がある。回答が得られた38,277名のうち、白紙回答、一定以上の回答が得られていないケースなど除外基準に合致する310名を分析対象から除外し、残りの37,967名を有効回答とした。

「以下の結果は、特に記載がない場合は観測値を示し、推定値の場合はその旨を明記した。

2. 基本属性

基本属性・生活に関する結果を表14~17に示した。対象者の性別は、男子19,007名（50.1%）、女子18,462名（48.6%）、その他・不明397名（1.0%）、無回答・無効回答101名（0.3%）であった。学年は、1年生12,847名（33.8%）、2年生12,726名（33.5%）、3年生12,394名（32.6%）であった。

家庭生活に関する項目としては、起床時間は、ほぼ一定している（82.2%）、一定していない（17.6%）であった。就寝時間は、ほぼ一定している（61.0%）、一定していない（38.8%）であ

った。朝食の摂食頻度は、ほとんど毎日食べる（85.7%）、時々食べる（9.1%）、ほとんど食べない（5.0%）であった。大人不在の状態で過ごす時間（1日あたり）は、1~2時間未満（25.0%）が最も多く、ほとんどなし（24.9%）、1時間未満（22.1%）、2~3時間未満（15.8%）、3時間以上（11.8%）と続いた。悩み事の親への相談頻度は、どちらかと言えば相談する（35.5%）が最も多く、ほとんど相談しない（21.7%）、どちらかと言えば相談しない（21.2%）、よく相談する（20.9%）であった。

学校生活に関する項目としては、学校生活に対する満足度は、とても楽しい（45.1%）、どちらかと言えば楽しい（45.0%）、どちらかと言えば楽しくない（7.7%）、まったく楽しくない（1.8%）であった。友人関係は、親しく遊べる友人がいる（96.7%）、相談事ができる友人がいる（90.0%）であった。

生活上の「生きづらさ」については、まったく感じていない（35.7%）、どちらかと言えば感じていない（35.6%）、どちらかと言えば感じている（21.4%）、かなり感じている（6.4%）であった。生きづらさを「かなり感じている」とする回答は、男子（5.0%）に比べて女子（7.3%）が、1年生（6.1%）に比べて3年生（6.6%）が高い傾向が認められた。

3. アルコール

アルコールに関する結果を表10, 18~21, 42, 43, 47, 49に示した。アルコールの生涯経験率は、全体14.7%、男子16.9%、女子12.2%、1年生14.9%、2年生14.9%、3年生14.4%であった（表10）。過去1年経験率は、全体5.6%、男子6.7%、女子4.4%、1年生5.8%、2年生5.7%、3年生5.4%であった（表18, 19）。ノンアルコール飲料の過去1年経験率は、全体8.3%、男子8.9%、女子7.5%、1年生8.8%、2年生8.4%、3年生7.6%であった（表18, 19）。

推定値の結果を表47, 49に示した。アルコール使用の推定値は、生涯経験率14.9%、過去1年経験率5.7%、ノンアルコール飲料（過去1年）8.2%であった。

4. タバコ

タバコに関する結果を表 9, 22~25, 42, 43 に示した。タバコの生涯経験率は、全体 1.4%、男子 1.8%、女子 0.9%、1 年生 1.3%、2 年生 1.5%、3 年生 1.5%であった（表 9）。過去 1 年経験率は、全体 0.8%、男子 1.0%、女子 0.4%、1 年生 0.7%、2 年生 0.8%、3 年生 0.8%であった（表 22, 23）。

推定値の結果を表 48 に示した。タバコ使用の推定値は、生涯経験率 1.3%、過去 1 年経験率 0.7%であった。

5. 薬物乱用に関する項目

薬物乱用に関する結果を表 2~8, 11~13, 26~41, 44~46 に示した。薬物乱用の生涯経験率は、大麻 0.08%（男子 0.07%、女子 0.04%）、有機溶剤 0.14%（男子 0.16%、女子 0.07%）、覚醒剤 0.07%（男子 0.06%、女子 0.03%）、危険ドラッグ 0.07%（男子 0.08%、女子 0.02%）、いずれかの違法薬物 0.19%（男子 0.23%、女子 0.10%）であった（表 3-8）。

薬物乱用の過去 1 年経験率は、大麻 0.04%（男子 0.05%、女子 0.02%）、有機溶剤 0.08%（男子 0.08%、女子 0.05%）、覚醒剤 0.03%（男子 0.04%、女子 0.01%）、危険ドラッグ 0.03%（男子 0.04%、女子 0.01%）、いずれかの違法薬物 0.11%（男子 0.14%、女子 0.06%）であった（表 26）。

違法薬物の生涯経験率の推定値を表 44 に示した。大麻 0.07%（男性 0.08%、女性 0.04%）、有機溶剤 0.13%（男性 0.16%、女性 0.07%）、覚醒剤 0.06%（男性 0.05%、女性 0.03%）、危険ドラッグ 0.06%（男性 0.07%、女性 0.02%）、いずれかの違法薬物 0.18%（男性 0.22%、女性 0.10%）であった（表 44）。

違法薬物の過去 1 年経験率の推定値を表 45 に示した。大麻 0.04%（男性 0.05%、女性 0.02%）、有機溶剤 0.08%（男性 0.09%、女性 0.05%）、覚醒剤 0.03%（男性 0.03%、女性 0.01%）、危険ドラッグ 0.03%（男性 0.04%、女性 0.01%）、いずれかの違法薬物 0.11%（男性 0.13%、女性 0.06%）であった（表 45）。

薬物乱用に誘われた経験は、大麻 0.8%、有機溶剤 0.7%、覚醒剤 0.7%、危険ドラッグ 0.7%であった（表 11）。違法薬物の入手可能性について、「簡単に手に入る」「なんとか手に入る」という回答を合計した「入手できる」とする回答は、大麻 5.9%、有機溶剤 7.0%、覚醒剤 5.6%、危険ドラッグ 5.1%であった（表 12）。薬物乱用に対する考えについて、「少々なら構わない」「まったく構わない」という回答を合計した「薬物乱用に対する肯定回答」は、大麻 2.1%、有機溶剤 1.5%、覚醒剤 1.7%、危険ドラッグ 1.3%であった（表 13）。

6. 薬物乱用に関する知識

薬物乱用に関する知識の結果を表 34~37 に示した。「知っている」と回答した知識は、薬物依存症 88.7%、フラッシュバック 78.5%、大麻使用による認知・運動機能低下 84.9%、大麻の長期使用による記憶障害 77.2%、若年期からの大麻使用による依存症リスク 71.3%、大麻使用による学業への悪影響 79.9%、市販薬乱用による薬物依存症 76.6%、市販薬の過剰使用による急性中毒死 78.4%であった。薬物乱用の誘いを断る自信については、大変ある 76.0%、どちらかと言えばある 17.1%、どちらかとも言えない 2.6%、まったくない 3.0%であった（表 34）。

7. 市販薬の乱用について

市販薬の乱用経験に関する結果を表 38, 39, 46 に示した。過去 1 年以内の市販薬の乱用経験率は、全体 1.9%、男子 1.5%、女子 2.2%、1 年生 2.1%、2 年生 1.9%、3 年生 1.7%であった。乱用に使った市販薬の入手先は、薬局・ドラッグストア等の実店舗（64.2%）が最も多く、家の常備薬（33.3%）、友人・恋人・知人（3.6%）、インターネット（3.5%）と続いた（表 38, 39）。

市販薬の乱用経験率の推定値は、全体 1.8%、男子 1.5%、女子 2.0%、1 年生 2.1%、2 年生 1.8%、3 年生 1.6%であった（表 46）。

8. 大麻乱用経験の属性・生活上の特徴（表 16）
過去 1 年以内の大麻乱用経験者は、非経験者

に比べて男子の比率が高く（経験群 60.0%、非経験群 50.0%）、起床（経験群 40.0%、非経験群 17.6%）および就寝時間（経験群 66.7%、非経験群 38.8%）が一定しておらず、朝食をほとんど食べない（経験群 26.7%、非経験群 5.0%）という回答が多い傾向がみられた。

学校生活においては、学校生活がまったく楽しくない（経験群 26.7%、非経験群 1.8%）、親しく遊べる友人がいない（経験群 13.3%、非経験群 2.8%）、相談事のできる友人がいない（経験群 33.3%、非経験群 9.5%）といった回答が多い傾向がみられた。

家庭生活においては、悩み事があっても親にはほとんど相談しない（経験群 46.7%、非経験群 21.6%）、大人不在の状態で 1 日あたり 3 時間以上過ごす者が多い（経験群 33.3%、非経験群 11.8%）といった傾向がみられた。生きづらさを「かなり感じている」という回答（経験群 33.3%、非経験群 6.4%）は、非経験群に比べて経験群の方が高い傾向がみられた。

9. 市販薬乱用経験者の属性・生活上の特徴 （表 17）

過去 1 年以内の市販薬乱用経験者は、非経験者に比べて、女性の比率が高く（経験群 55.8%、非経験群 48.6%）、起床（経験群 29.4%、非経験群 17.4%）および就寝時間（経験群 50.1%、非経験群 38.5%）が一定しておらず、朝食をほとんど食べない（経験群 9.9%、非経験群 4.9%）という回答が多い傾向がみられた。

学校生活においては、学校生活がまったく楽しくない（経験群 7.2%、非経験群 1.7%）、親しく遊べる友人がいない（経験群 5.8%、非経験群 2.8%）、相談事のできる友人がいない（経験群 17.5%、非経験群 9.3%）といった回答が多い傾向がみられた。

家庭生活においては、悩み事があっても親にはほとんど相談しない（経験群 30.4%、非経験群 21.5%）、大人不在の状態で 1 日あたり 3 時間以上過ごす者が多い（経験群 17.8%、非経験群 11.7%）といった傾向がみられた。生きづらさを「かなり感じている」という回答（経験群

21.1%、非経験群 6.1%）は、非経験群に比べて経験群の方が高い傾向がみられた。

10. 経年的変化について

表 2～13 および図 2～13 にアルコール、タバコ、薬物乱用に関する経年的変化に関する結果を示した。これらはいずれも各調査で得られた値（観測値）であり、推計値ではない。推計値に関する経年的変化は図 14～21 に示した。こちらは、サンプリング等を考慮した重み付けを行った推計値である。

薬物乱用（大麻、有機溶剤、覚醒剤、危険ドラッグ）の生涯経験率は、いずれの薬物についても前回調査（2022 年）から減少した（図 2）。具体的には、大麻（2022 年 0.10%、2024 年 0.08%）、有機溶剤（2022 年 0.20%、2024 年 0.14%）、覚醒剤（2022 年 0.10%、2024 年 0.07%）、危険ドラッグ（2022 年 0.10%、2024 年 0.07%）、いずれかの薬物（2022 年 0.30%、2024 年 0.19%）であった。

アルコール、タバコの生涯経験率は、ほぼ横ばいで推移していた（図 9,10）。違法薬物を「入手できる」という回答は、前回調査からわずかに減少していた（図 12）。薬物乱用に対する肯定回答の割合は、いずれの薬物についても前回調査からわずかに増加していた（図 13）。

D. 考察

1. 調査の実施状況について

本研究は、青少年においてシンナー等の有機溶剤の乱用が社会問題化したことを背景に、1990 年に千葉県内の公立中学校を対象に実態調査を開始したことが原点となっている^{15,16}。1996 年より対象エリアを全国に拡大し、都道府県単位で無作為に抽出された対象校に対して全国的な疫学調査を開始した。本研究は、1996 年以降、COVID-19 パンデミックの影響により中止となった 2020 年を除き、経年的に隔年で実施してきた。そのため、本研究は、横断的な薬物乱用の現状を把握するだけでなく、同一研究デザインで繰り返し実施することで、わが国の中学生における薬物乱用の動向をモニタリ

ングする役割も担っている。

今年度の調査に協力をいただいた対象校の全生徒および教職員の皆様、そして対象校を管轄する各教育委員会に対し、この場を借りて心からお礼を申し上げたい。また、調査実施には至らなかったものの、検討いただいたすべての対象校にも感謝したい。

さて、今年度の回収率は 50.8%であった。これは 2022 年調査に比べて 10%以上低く、過去に実施された全国調査の中で最も低い回収率となった。調査協力が得られなかった背景には複数の要因が考えられる。第一に、調査項目の内容に関する理由が考えられる。特に違法薬物の乱用経験は、無記名調査とはいえ、過去の犯罪行動を掘り起こすことになり、「寝た子を起こすな」と調査への協力を拒む学校が一定の割合で存在する。とはいえ、違法薬物の使用実態を調べることで自体を主たる目的とする本研究を実施する上で、これは避けがたい課題といえる。本研究の成果が青少年の薬物問題に対する対策を講じる上での基礎資料となること、調査に回答すること自体が薬物乱用防止に対する意識を高めるきっかけとなること、そして調査への参加は誰でも拒否できるといった任意性を繰り返し伝え、引き続き理解を求めていく必要がある。

第二に、学校行事が忙しく、外部からの調査を受ける余裕がないという理由が考えられる。2023 年 5 月、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行してから、多くの学校行事は平時に戻り、対面での行事が確実に増えている。実際、調査への協力意向を事前に示していたものの、日常の業務が多忙のため、結果として実施に至らなかった学校もみられた。また学校長などの管理職からしてみれば、働き方改革との兼ね合いで、各教員の負担を必要以上に増やしたくないという本音も垣間見える。教育現場の負担を少しでも軽減する方法として、今年度からオンライン調査を導入した。オンライン調査を導入することで、調査用紙の配布や回収、発送作業といった調査実施に関わる事務的な作業を省略することが可能となる。今年度、半数近

くの学校がオンラインでの回答を希望していることから、現場のニーズは高いと考えられる。今後、調査手順をさらに見直し、教育現場へのさらなる負担軽減を検討していきたい。

2. 違法薬物の経験率について

コロナ禍に実施された 2022 年調査では、いずれの違法薬物の生涯経験率についても 2018 年から減少していることを報告した。今回の 2024 年調査では、生涯経験率のさらなる減少が認められた。本研究では、大麻、覚醒剤、有機溶剤、危険ドラッグの 4 種類の薬物乱用経験を調べているが、我々が過去に実施したどの調査よりも低い生涯経験率となった。コロナ禍においては、さまざまな社会的活動が制限されていた中で、違法薬物の使用に誘われる機会や、入手する機会が減少した結果として、生涯経験率が低下したと考えられる。そして、今回の調査では、さらなる減少がみられたことから、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、社会活動が正常化した後においても、中学生における違法薬物の乱用リスクは減少が続いている可能性がある。

青少年における物質使用状況の変化は米国でも報告されている。青少年における薬物使用のモニタリング調査として知られているモニタリング・ザ・フューチャー (Monitoring the Future survey, MTF) では、COVID-19 パンデミックに伴う一斉休校やソーシャルディスタンスに関する変化が始まった 2020 年から 2021 年にかけて、ほぼすべての薬物使用率が劇的に減少したことを報告している¹⁷⁾。その後、2022 年調査¹⁸⁾でも減少は維持され、2024 年調査¹⁹⁾では、ほとんどの薬物において減少が継続し、数十年ぶりに薬物使用率が最も低いという結果となり、薬物使用のリスク低下に寄与した要因に対する研究の必要性が強調されている。

3. 大麻使用を肯定する考え

違法薬物の生涯経験率が低下した一方で、薬物乱用に対する肯定回答はわずかに増加している点には注意が必要である。本研究では、薬

物乱用に対する意識を 3 件法で尋ね、「少々なら構わない」と「まったく構わない」の合計を肯定回答とした。いずれの薬物についても、前回調査に比べてわずかな増加が確認されたが、特に大麻に対する肯定回答が、他の違法薬物に比べて高いことが明らかとなった。

青少年の薬物乱用に対する考えの背景としては、ピアの影響、SNS を含むインターネットの情報、海外における大麻の規制を取り巻く変化など、様々な背景要因が影響を与えていると考えられる。今後、大麻に対する肯定的な考えの背景要因について分析するとともに、肯定的な考えが、実際に大麻使用にどの程度影響を与えるのかについても検討していくことが必要であろう。

4. 市販薬乱用の広がりについて

鎮咳薬や風邪薬といった市販薬を過量服薬し、急性中毒や依存症となるケースが増加していることを背景として、本研究では中学生における市販薬の乱用経験、乱用した市販薬の入手方法、市販薬乱用に関連する健康被害の知識について調べた。

中学生における市販薬の乱用経験率（過去 1 年以内）は、1.8%と推計された。これは約 55 人に 1 人の割合に該当する。この結果は、市販薬の乱用が全国の中学校に広がっている可能性を示唆している。2021 年に全国の高校生（全日制課程）を対象に実施した実態調査²⁰⁾によると、高校生全体の市販薬の乱用経験率は 1.6%と推計されており、本研究のデータはこれに近似している。市販薬の乱用経験率には性差がみられ、男子生徒（1.5%）に比べて、女子生徒（2.0%）が高い傾向があった。市販薬の乱用が、男性よりも女性に多いという傾向は、高校生調査、一般住民調査²¹⁾、精神科医療施設調査²²⁾でも報告されており一貫性のある結果と言える。

市販薬の乱用経験を持つ中学生の特徴として、起床時間や就寝時間が一定ではない、朝食の欠食が多いなど、生活習慣上の乱れや偏りがみられた。また、学校生活においては、親しい友人がおらず、学校生活に満足していないとい

った特徴がみられた。さらに家庭生活においては、悩み事があっても親には相談せず、大人不在の状態で過ごす時間が長いといった特徴がみられた。つまり、市販薬の乱用経験のある中学生は学校でも家庭でも孤立しており、安心できる居場所がない姿が浮き彫りになっている。日常生活や学校生活での「生きづらさ」については、市販薬の乱用経験のある中学生のうち、26%が「どちらかと言えば感じている」、21%が「かなり感じている」と回答していることから、市販薬乱用の背後に何らかの「生きづらさ」が関係しているというこれまでの指摘を裏付けるような結果となった。市販薬の乱用問題のある中学生の早期発見、早期介入という観点では、乱用リスクのある生徒の特徴を踏まえた上で、関わりを持つことが重要であろう。

市販薬の入手方法としては、「薬局・ドラッグストア等の実店舗」での購入が最も多かった。現在、厚生労働省では「濫用等のおそれのある医薬品」として、コデイン、ジヒドロコデインなどの 6 成分を指定し、これらの成分を含有する市販薬を販売する際には、原則として一人 1 個までの販売に制限している。また、若年者に販売する際には、氏名や年齢を確認するなどの対策がとられている。未成年者に対してこれらの医薬品を販売する際には、乱用や依存のリスクに注意しながら慎重に行うことや、異変に気づいた際の声かけなどを徹底することも重要である。

2025 年 1 月に厚生労働省が公表した「薬機法等制度改正に関するとりまとめ」によれば、「濫用等のおそれのある医薬品」の販売方法を厳格化するための取り組みとして、20 歳未満への大容量製品または複数個の販売を禁止するとともに、小容量製品であっても、対面またはオンラインでの販売を義務付けるべきという案が記載されている。一方、「家の常備薬」を入手経路とする回答も一定の割合でみられたことから、家庭内での医薬品管理を徹底することの重要性を保護者に周知することが求められる。

E. 結論

いずれの違法薬物も生涯経験率が前回調査（2022 年）に比べて減少していた。新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、社会活動が正常化した後においても、中学生における違法薬物の乱用リスクの減少が続いている可能性がある。ただし、違法薬物の生涯経験率が低下した一方で、薬物乱用を肯定する考え、特に大麻使用を肯定する考えが増加している点には注意が必要である。

咳止め薬などの市販薬の乱用・依存症例が急増していることを背景に、本研究では中学生における市販薬の乱用経験を初めて調べた。過去 1 年以内に市販薬の乱用経験のある中学生は約 55 人に 1 人の割合であり、市販薬の乱用問題が全国的に広がっている可能性がある。市販薬の乱用経験のある中学生は、学校や家庭で孤立状態にあり、日常生活で様々な生きづらさを抱えているといった心理社会的な特徴を有することが明らかとなった。乱用した市販薬の主たる入手先は、薬局やドラッグストア等の実店舗であることから、未成年者に対する販売を慎重に行うことや、異変に気づいた際の声かけなどを徹底することが重要である。家の常備薬を入手先とする回答も一定数みられたことから、家庭内での医薬品の管理を保護者に求めていくことも重要となる。

謝辞

本調査の実施にあたり、快くご協力をいただきました各対象校の関係者の皆様、教育委員会の皆様、そして調査にご回答いただきました生徒の皆様に、心から感謝いたします。

また、アンケート用紙の開封からデータ入力までの委託業務を担当していただきました株式会社マイ・ビジネスサービス. の皆様にもお礼を申し上げます。

F. 参考文献

- 1) 和田清, 勝野眞吾, 尾崎米厚, ほか: 中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究. 平成 8 年度厚生科学研究費補助金麻薬等対策総合研究事業「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」研究報告書第 1 分冊 薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究 (2), pp21-60, 1997.
- 2) 和田清, 中野良吾, 尾崎米厚, ほか: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成 10 度厚生科学研究費補助金医薬安全総合研究事業「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」研究報告書, pp19-83, 1999.
- 3) 和田清, 菊池安希子, 尾崎米厚, ほか: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成 12 度厚生科学研究費補助金医薬安全総合研究事業「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」研究報告書, pp15-76, 2001.
- 4) 和田清, 畢穎, 尾崎米厚, ほか: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成 14 度厚生労働科学研究費補助金医薬安全総合研究事業「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」研究報告書, pp19-86, 2003.
- 5) 和田清, 近藤あゆみ, 高橋伸彰, ほか: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成 16 度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「薬物乱用・依存等の実態とその社会的影響・対策に関する研究」研究報告書, pp17-87, 2005.
- 6) 和田清, 近藤あゆみ, 尾崎米厚, ほか: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成 18 度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「薬物乱用・依存等の実態と乱用・依存者に対する対応策に関する研究」研究報告書, pp17-91, 2007.
- 7) 和田清, 嶋根卓也, 尾崎米厚, ほか: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成 20 度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス

- 総合研究事業「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究」研究報告書, pp15-85, 2009.
- 8) 和田清, 小堀栄子, 嶋根卓也, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「薬物乱用・依存の実態把握と再乱用防止のための社会資源等の現状と課題に関する研究」研究報告書, pp17-87, 2011.
 - 9) 和田清, 水野奈津美, 嶋根卓也, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「薬物乱用・依存等の実態把握と薬物依存症者に関する制度的社会資源の現状と課題に関する研究」研究報告書, pp17-83, 2013.
 - 10) 和田清, 邱冬梅, 嶋根卓也, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業『『脱法ドラッグ』を含む薬物乱用・依存の実態把握と薬物依存症者の「回復」とその家族に対する支援に関する研究」研究報告書, pp17-93, 2015.
 - 11) 嶋根卓也, 大曲めぐみ, 北垣邦彦, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「危険ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」総括: 分担研究報告書. pp15-74, 2017.
 - 12) 嶋根卓也, 猪浦智史, 北垣邦彦, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状態等のモニタリング調査と薬物依存者・家族に対する回復支援に関する研究」総括・分担研究報告書. pp19-73, 2019.
 - 13) 嶋根卓也, 猪浦智史, 立森久照, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」総括・分担研究報告書. pp15-39, 2021.
 - 14) 嶋根卓也, 猪浦智史, 北垣邦彦, ほか: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 令和 4 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究(研究代表者: 嶋根卓也)」総括・分担研究報告書. pp11-76, 2023.
 - 15) Wada, K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and background life style of users. *Addiction* 88: 89-100, 1993.
 - 16) 和田清: 中学生における有機溶剤乱用の実態とその生活背景—1992 年千葉県調査より—. *学校保健研究* 43:26-38, 2001.
 - 17) NIDA. 2021, December 15. Percentage of adolescents reporting drug use decreased significantly in 2021 as the COVID-19 pandemic endured. Retrieved from <https://nida.nih.gov/news-events/news-releases/2021/12/percentage-of-adolescents-reporting-drug-use-decreased-significantly-in-2021-as-the-covid-19-pandemic-endured> on 2023, March 17
 - 18) NIDA. 2022, December 15. Most reported substance use among adolescents held steady in 2022. Retrieved from

- <https://nida.nih.gov/news-events/news-releases/2022/12/most-reported-substance-use-among-adolescents-held-steady-in-2022> on 2023, March 17
- 19) NIDA. 2024, December 17. Reported use of most drugs among adolescents remained low in 2024. Retrieved from <https://nida.nih.gov/news-events/news-releases/2024/12/reported-use-of-most-drugs-among-adolescents-remained-low-in-2024> on 2025, February 20
 - 20) 嶋根卓也、ほか. 厚生労働省依存症に関する調査研究事業「薬物使用と生活に関する全国高校生調査（2021）」、令和4年度研究報告書, 2022.
 - 21) 嶋根卓也, 水野聡美, 猪浦智史, ほか: 薬物使用に関する全国住民調査（2023年）. 厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「薬物乱用・依存状況の実態把握のための全国調査と近年の動向を踏まえた大麻等の乱用に関する研究（研究代表者：嶋根 卓也）」令和5年度総括・分担研究報告書, 国立精神・神経医療研究センター, 東京, 2024, pp8-156.
 - 22) 松本俊彦, 宇佐美貴士, 船田大輔, ほか: 全国 of 精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」総括・分担研究報告書, pp77-140, 2023.
- ## G. 研究発表
1. 論文発表（原著・総説・書籍）
 - 1) Usami T, Okita K, Shimane T, Matsumoto T. Comparison of patients with benzodiazepine receptor agonist-related psychiatric disorders and over-the-counter drug-related psychiatric disorders before and after the COVID-19 pandemic: Changes in psychosocial characteristics and types of abused drugs. *Neuropsychopharmacol Rep* 44(2):437-446. 2024.
 - 2) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Matsumoto T: Psychosocial characteristics of the general population who habitually use hypnotics: Results from a national survey on drug use among the Japanese. *Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports*, 9:3(3):e208 2024.
 - 3) Mizuno S, Inoura S, Matsumoto T, Shimane T: Characteristics of drinking habits of people who overdose on over-the-counter drugs: Insights from a nationwide Japanese survey. *Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports*, 2024.
 - 4) Kyan R, Kamijo Y, Kohara S, Takai M, Shimane T, Matsumoto T, Fukushima H, Narumi S, Chiba T, Sera T, Otani N, Iwasaki Y. Prospective multicenter study of the epidemiological features of emergency patients with overdose of over-the-counter drugs in Japan. *PCN Rep*. 15:3(3):e225. 2024.
 - 5) Omiya S, Shimane T, Takagishi Y, et al. Gender differences in the effect of trust on substance abuse severity among incarcerated stimulant offenders in Japan. *Neuropsychopharmacology Reports* 45(1): e12517
 - 6) 喜多村 真紀, 嶋根 卓也, 高橋 哲, 小林美智子, 大伴 真理恵, 鈴木 愛弓, 松本俊彦: 薬物使用のトリガーとしての月経前症状を持つ女性の特徴—覚醒剤使用のメリット・デメリットに焦点を当てて—. *女性心身医学* 28(3): 349-356, 2024.
 - 7) 高橋 哲, 鈴木 愛弓, 近藤 あゆみ, 服部真人, 小林 美智子, 喜多村 真紀, 嶋根 卓

- 也. 覚醒剤事犯受刑者における自殺念慮の生涯経験率とその関連要因の検討. 自殺予防と危機介入 44(1): 82-89, 2024.
- 8) 助友裕子、市瀬雄一、細川佳能、大浦麻絵、嶋根卓也、ほか. 高等学校 2 年生のがんリスク認知の関連要因：がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルに基づく全国調査データの解析、日本公衆衛生学会雑誌 2025 (in press)
 - 9) 嶋根卓也：保健室から考えるオーバードーズをする子への対応. 心とからだの健康 28(9)：18-23, 2024.
 - 10) 嶋根卓也：薬物使用—市販薬の過剰服薬（オーバードーズ）. 小児内科 56(9)：1409-1412, 2024.
 - 11) 嶋根卓也：市販薬のオーバードーズの理解と薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会雑誌 60(10)：1072-1076, 2024.
 - 12) 嶋根卓也：市販薬乱用の理解とゲートキーパーとしての薬剤師. ファルマシア 60(11)：1045-1049, 2024.
- ## 2. 学会発表
1. 嶋根卓也：「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 第 127 回日本小児学会学術集会, モーニング実践講座, 2024.4.20.
 2. 嶋根卓也：「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 日本社会薬学会 社会薬学フォーラム 2024, 2024.4.28.
 3. 嶋根卓也：「濫用等のおそれのある医薬品」の販売制度の現状と課題. シンポジウム「市販薬過量服用の現状とその対策」第 8 回日本臨床・分析中毒学会 総会・学術集会, 神奈川, 2024.5.10.
 4. 嶋根卓也：(ランチョンセミナー)「助けて」が言えない子どもたち：急増する市販薬のオーバードーズの背景と対応を考える. 第 8 回日本臨床・分析中毒学会 総会・学術集会, 神奈川, 2024.5.10.
 5. Shimane T. Children Who Can't Say "Help": The Increasing of Over-the-Counter Drug Overdose in Japan. 2024 Drug Treatment Systems and Recidivism Prevention Symposium, Taiwan (Jiayi), 2024.5.30.
 6. Shimane T. Children Who Can't Say "Help": The Increasing of Over-the-Counter Drug Overdose in Japan. Bali Psychiatric Center, Minister of Health and Welfare, Taiwan (Bali), 2024.5.31.
 7. 嶋根卓也：(シンポジウム) 大麻乱用による健康被害と断るスキル：有効な、有効ではない予防教育. 第 57 回日本薬剤師会学術大会, 埼玉, 2024.9.23.
 8. 水野聡美, 堤史織, 片山宗紀, 新田慎一郎, 大野昂紀, 安間尚徳, 塩澤拓亮, 嶋根卓也, 松本俊彦, 高野歩：(シンポジウム) ハーム・リダクションに基づく支援の導入・普及に関する研究：グループインタビュー調査の実施背景と研究方法の説明. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
 9. 堤史織, 片山宗紀, 新田慎一郎, 水野聡美, 大野昂紀, 塩澤拓亮, 安間尚徳, 嶋根卓也, 松本俊彦：(シンポジウム) アルコール・薬物使用問題の経験がある当事者の視点からみるハーム・リダクションに基づく支援において重要な要素. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
 10. 片山宗紀, 堤史織, 新田慎一郎, 水野聡美, 大野昂紀, 塩澤拓亮, 安間尚徳, 嶋根卓也, 松本俊彦, 高野歩：(シンポジウム) “大きな理想をもって、本当のハーム・リダクションを目指して”—アルコール・薬物の家族の視点から. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
 11. 新田慎一郎, 水野聡美, 堤史織, 片山宗紀, 大野昂紀, 塩澤拓亮, 安間尚徳, 嶋根卓也, 松本俊彦, 高野歩：(シンポジウム)

- ム) “支援者の立場から考える”ハーム・リダクションに基づく支援における重要な要素. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
12. 嶋根卓也, 片山宗紀, 榊原幹夫: (シンポジウム) 市販薬の乱用・依存とゲートキーパーとしての薬剤師. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
 13. 新田慎一郎, 嶋根卓也: (シンポジウム) 覚醒剤依存症のゲイ・バイセクシュアル男性における支援ニーズ. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
 14. 嶋根卓也: (シンポジウム 39) 市販薬のオーバードーズとさりげない「おせっかい」-ゲートキーパーとしての薬剤師-. 第 34 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2024.11.3.
 15. 嶋根卓也, 猪浦智史, 喜多村真紀, 松本俊彦: 「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 九州, 2024.4.1.
 16. 引土絵未, 嶋根卓也, 小高真美, 秋元恵一郎, 加藤隆, 大吉努, 山村りつ, 吉野美樹: 依存症者の就労支援に関する研究: ハローワークを対象とした依存症者の就労に関する実態および意識調査. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
 17. 喜多村真紀, 高田雅弘, 江藤不二子, 首藤誠, 嶋根卓也: X (旧 Twitter) 上の『OD レポ』解析を通じた市販薬過量服薬の現状把握と予防啓発の検討. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
 18. 喜多村真紀, 嶋根卓也, 水野聡美, 松本俊彦: 「トー横キッズ」における物質使用関連問題と支援に関する研究. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
 19. 水野聡美, 猪浦智史, 松本俊彦, 嶋根卓也: 市販薬乱用と飲酒の関係: 薬物使用に関する全国住民調査の結果から. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
 20. Tooru Nemoto, Mariko Iwamoto, Emiko Kamitani, Min Zhengv, Takuya Shimane: Marijuana and Other Substance Use Behaviors among Japanese Nationals Temporarily Staying in the U.S. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
 21. 嶋根卓也, 水野聡美, 猪浦智史, 邱冬梅: 一般住民における市販薬乱用の経験率の推計: 薬物使用に関する全国住民調査 2023 より. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
 22. Takuma Ofuchi, Takuya Shimane, Toshihiko Matsumoto: The Role of Spirituality in Methamphetamine Abstinence Among Japanese Participants in 12-Step and DARC Programs. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
特許取得、実用新案登録、その他特になし

＜図表に関する注意事項＞

本研究の図表において、原則として「無回答・無効回答」を分母に含めた状況で割合を計算している。ただし、経年変化など一部のデータについては、「無回答・無効回答」を分母から除いた形で割合を計算しているものがあり、その場合は図表の下部に注釈を付けた。また、クロス集計における有意差検定は、無回答・無効回答を除外して計算した。
無回答：答えていない場合、無効回答：回答に不備がある場合

以下の図表データには、観察値と推定値のデータが混在しているため注意が必要である。観測値とは、今回得られた回答者全体を分母とした単純な百分率である。一方、推定値とは、サンプリングや回答状況の考慮し、重み付けをした値であり、母集団（日本の中学生全体）の特性値を標本データから統計学的に推測した値である。推定値の算出には、R（ver. 4.4.1）、survey（ver. 4.4-2）を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表1. 都道府県別にみた対象校数および実施校数（回収率）の状況

都道府県	対象校数	実施校数	協力率(%)	都道府県	対象校数	実施校数	協力率(%)
北海道	9	6	66.7%	滋賀	3	1	33.3%
青森	2	1	50.0%	京都	5	4	80.0%
岩手	2	2	100.0%	大阪	15	4	26.7%
宮城	4	3	75.0%	兵庫	10	4	40.0%
秋田	2	0	0.0%	奈良	3	1	33.3%
山形	2	1	50.0%	和歌山	2	2	100.0%
福島	4	0	0.0%	鳥取	2	2	100.0%
茨城	6	3	50.0%	島根	2	0	0.0%
栃木	4	2	50.0%	岡山	4	1	25.0%
群馬	4	2	50.0%	広島	6	4	66.7%
埼玉	13	6	46.2%	山口	3	3	100.0%
千葉	11	6	54.5%	徳島	2	2	100.0%
東京	22	10	45.5%	香川	2	2	100.0%
神奈川	16	6	37.5%	愛媛	3	1	33.3%
新潟	4	2	50.0%	高知	2	2	100.0%
富山	2	2	100.0%	福岡	10	5	50.0%
石川	2	1	50.0%	佐賀	2	1	50.0%
福井	2	0	0.0%	長崎	3	1	33.3%
山梨	2	2	100.0%	熊本	3	1	33.3%
長野	4	3	75.0%	大分	4	3	75.0%
岐阜	4	3	75.0%	宮崎	3	3	100.0%
静岡	7	5	71.4%	鹿児島	4	3	75.0%
愛知	15	4	26.7%	沖縄	4	3	75.0%
三重	4	1	25.0%	全体	244	124	50.8%

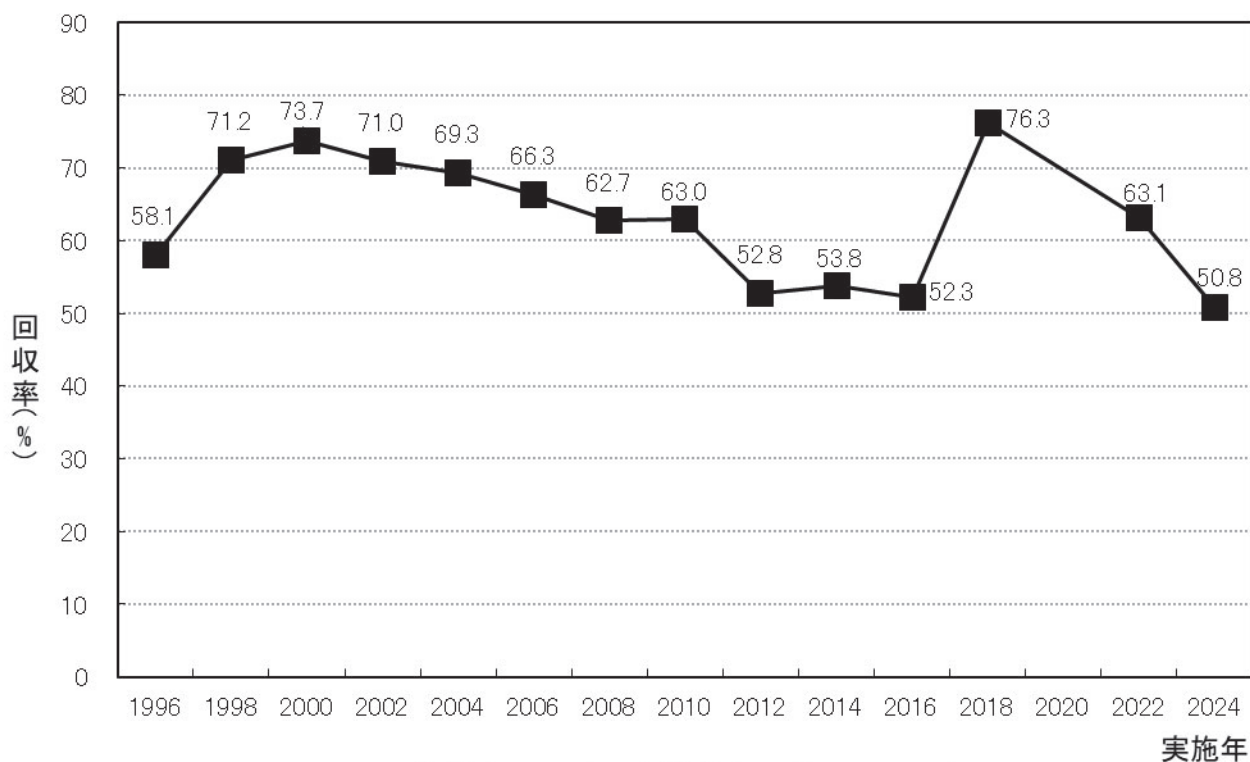


図1. 対象校数に対する実施校数の割合(回収率)
(1996-2024年)

表2. 違法薬物乱用の生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	大麻	有機溶剤	覚醒剤	危険ドラッグ	いずれかの違法薬物
1996	0.51	1.07	0.33	—	1.41
1998	0.67	1.34	0.50	—	1.76
2000	0.44	1.27	0.39	—	1.54
2002	0.51	1.23	0.43	—	1.56
2004	0.49	1.13	0.46	—	1.38
2006	0.44	0.86	0.42	—	1.16
2008	0.34	0.79	0.31	—	1.02
2010	0.33	0.68	0.32	—	0.90
2012	0.24	0.52	0.22	0.21	0.77
2014	0.19	0.72	0.23	0.19	0.98
2016	0.28	0.45	0.25	0.24	0.50
2018	0.35	0.48	0.30	0.30	0.55
2022	0.10	0.20	0.10	0.10	0.30
2024	0.08	0.14	0.07	0.07	0.19

生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。
 2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。
 測定されていない場合にはハイフン(—)とした。
 危険ドラッグは2012年より調査項目に加えた。

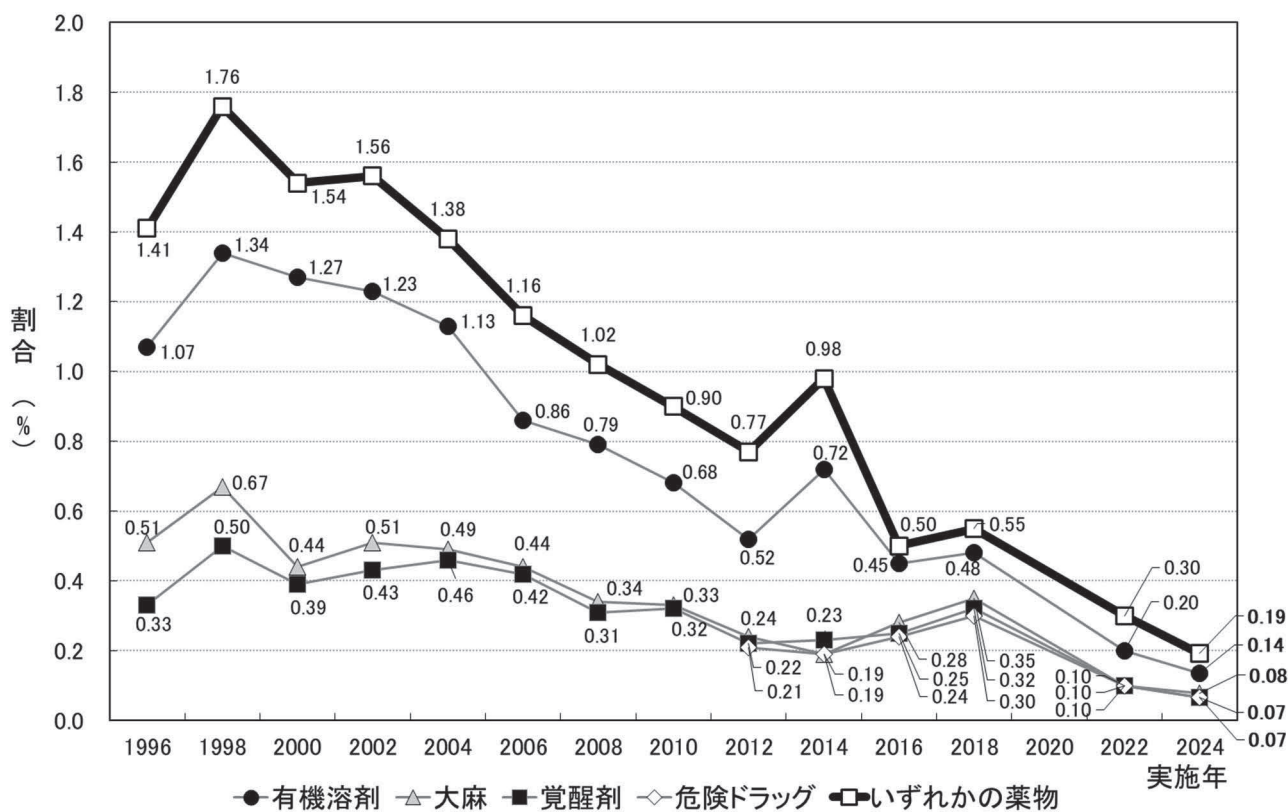


図2. 違法薬物別の生涯経験率の推移(1996-2024年)

表3. いずれかの違法薬物の生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	1.8	1.5	1.8	2.2	1.0	0.9	1.0	1.0	1.5	1.3	1.5	1.7	108	54,136
1998	2.3	1.8	2.1	2.9	1.2	1.2	1.1	1.3	1.8	1.5	1.6	2.2	148	71,245
2000	2.0	1.7	2.0	2.3	1.1	1.0	1.0	1.2	1.5	1.4	1.5	1.8	140	61,481
2002	1.8	1.7	1.9	1.9	1.3	1.2	1.4	1.3	1.6	1.5	1.7	1.6	149	61,668
2004	1.7	1.4	1.5	1.9	1.2	1.1	1.2	1.2	1.4	1.2	1.3	1.6	147	64,314
2006	1.4	1.3	1.4	1.6	0.9	0.8	0.8	1.1	1.2	1.1	1.1	1.3	138	55,387
2008	1.3	1.0	1.2	1.7	0.8	0.7	0.6	1.0	1.0	0.8	0.9	1.4	133	51,515
2010	1.1	0.9	1.1	1.2	0.7	0.6	0.8	0.8	0.9	0.7	1.0	1.0	121	46,570
2012	1.0	0.9	0.9	1.2	0.6	0.4	0.5	0.7	0.8	0.7	0.7	1.0	124	53,462
2014	1.3	1.3	1.4	1.3	0.6	0.5	0.6	0.6	1.0	0.9	1.0	1.0	129	54,451
2016	0.7	0.5	0.6	1.0	0.3	0.4	0.2	0.3	0.5	0.4	0.4	0.7	126	52,185
2018	0.7	0.5	0.8	0.8	0.4	0.3	0.5	0.3	0.6	0.4	0.7	0.6	183	70,410
2022	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.3	154	53,088
2024	0.23	0.27	0.33	0.08	0.10	0.14	0.10	0.07	0.19	0.23	0.23	0.11	124	37,967

「全体」とは、男子、女子、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

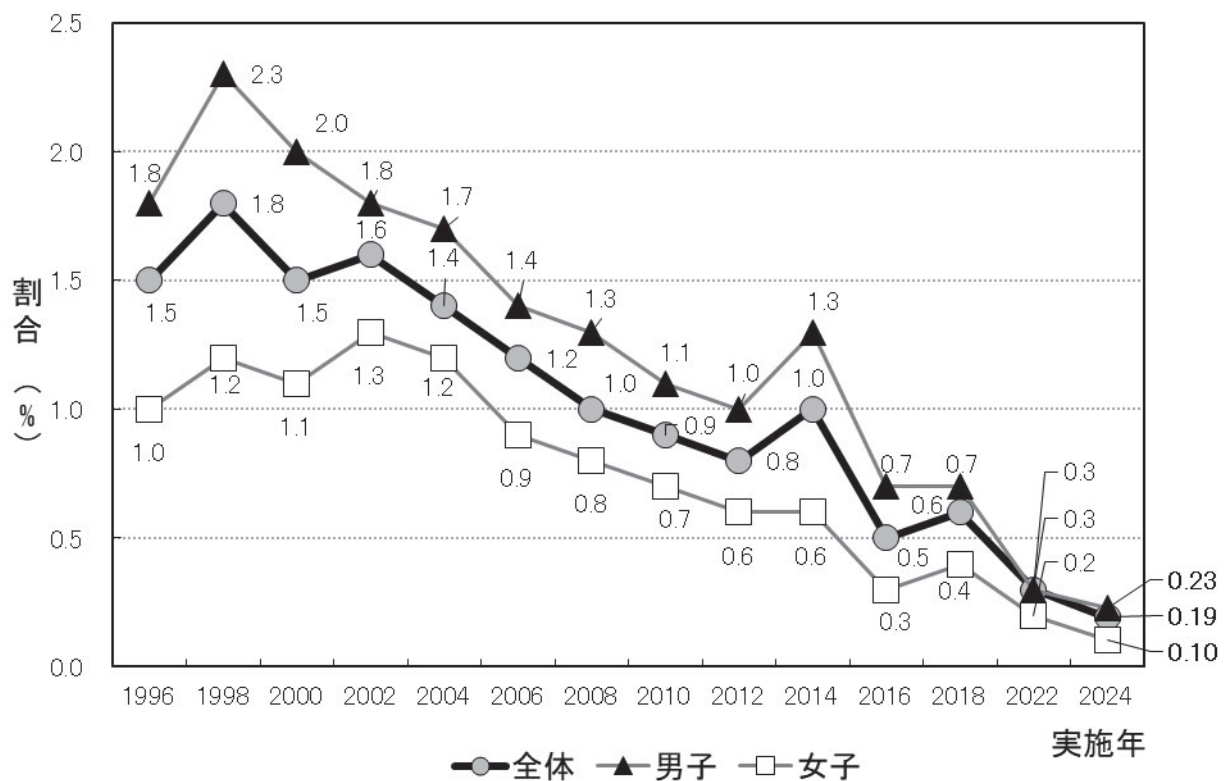


図3. いずれかの違法薬物の生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表4. 大麻、覚醒剤および危険ドラッグの生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	0.8	0.5	0.8	1.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	0.7	0.8	108	54,116
1998	1.0	0.9	1.0	1.2	0.5	0.5	0.5	0.6	0.8	0.7	0.8	0.9	148	71,245
2000	0.8	0.6	0.7	0.9	0.4	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5	0.6	0.6	140	61,481
2002	0.8	0.6	0.9	0.8	0.5	0.4	0.6	0.6	0.7	0.5	0.8	0.7	149	61,668
2004	0.7	0.5	0.8	0.8	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6	0.7	147	64,610
2006	0.7	0.6	0.7	0.8	0.4	0.3	0.3	0.6	0.6	0.5	0.5	0.7	138	55,627
2008	0.5	0.4	0.5	0.7	0.3	0.2	0.2	0.5	0.4	0.3	0.4	0.6	133	51,751
2010	0.6	0.4	0.6	0.7	0.3	0.2	0.3	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	121	46,760
2012	0.4	0.3	0.3	0.5	0.2	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.4	124	53,824
2014	0.4	0.3	0.4	0.4	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	129	54,943
2016	0.5	0.3	0.4	0.7	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.3	0.4	126	52,193
2018	0.5	0.4	0.5	0.6	0.3	0.1	0.4	0.2	0.4	0.3	0.5	0.4	183	70,433
2022	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	154	53,085
2024	0.12	0.17	0.14	0.05	0.05	0.05	0.07	0.05	0.11	0.13	0.12	0.08	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2022年調査より、危険ドラッグ乱用の生涯経験率を含んだ数値を示した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(—)とした。

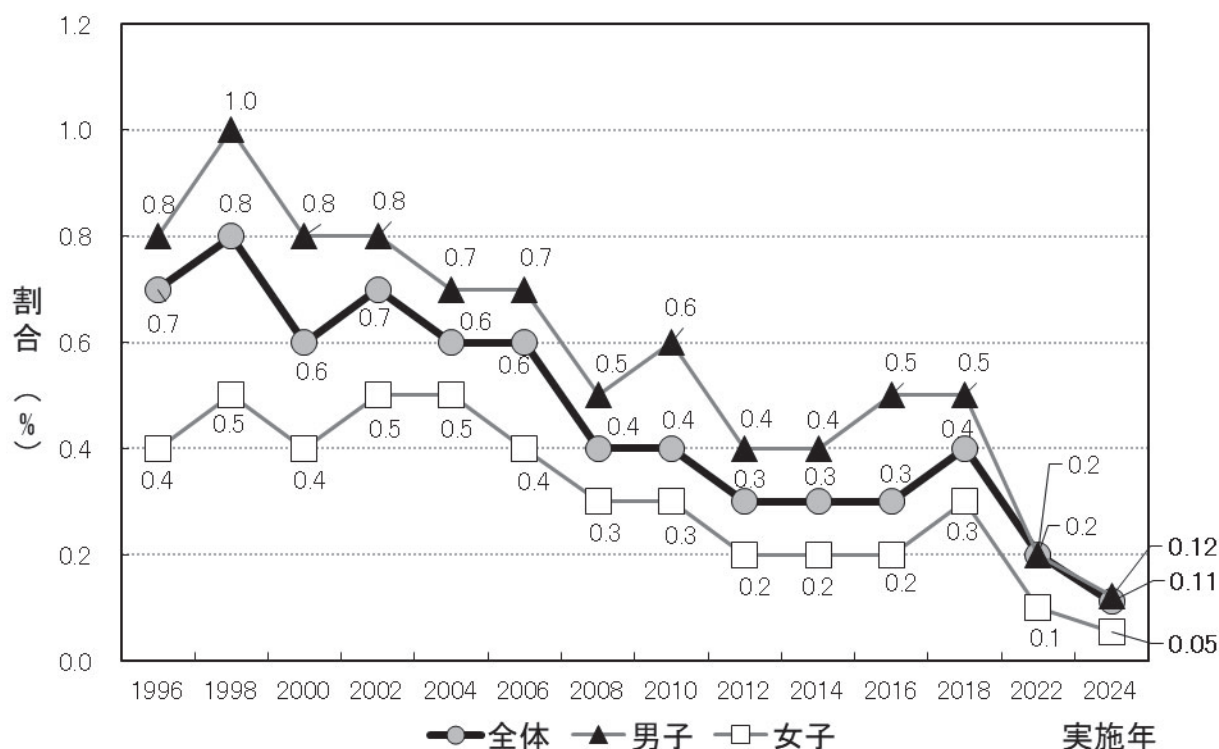


図4. 大麻、覚醒剤および危険ドラッグの生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表5. 大麻の生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	0.7	0.4	0.8	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.4	0.5	0.6	108	53,271
1998	0.9	0.8	0.8	1.0	0.5	0.5	0.4	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	148	70,846
2000	0.6	0.4	0.6	0.7	0.3	0.2	0.4	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	140	61,477
2002	0.6	0.4	0.8	0.7	0.4	0.3	0.6	0.4	0.5	0.4	0.7	0.5	149	62,255
2004	0.6	0.4	0.7	0.7	0.4	0.3	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	147	64,875
2006	0.5	0.4	0.5	0.6	0.4	0.3	0.3	0.5	0.4	0.3	0.4	0.5	138	55,895
2008	0.4	0.3	0.4	0.6	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3	0.2	0.3	0.5	133	51,979
2010	0.5	0.3	0.5	0.6	0.2	0.1	0.2	0.3	0.3	0.2	0.4	0.4	121	47,475
2012	0.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.4	124	54,073
2014	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1	0.0	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	129	55,217
2016	0.4	0.3	0.4	0.6	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	126	52,215
2018	0.5	0.4	0.5	0.5	0.2	0.1	0.4	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3	183	70,463
2022	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	154	53,079
2024	0.07	0.11	0.08	0.03	0.04	0.02	0.05	0.05	0.08	0.09	0.07	0.07	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

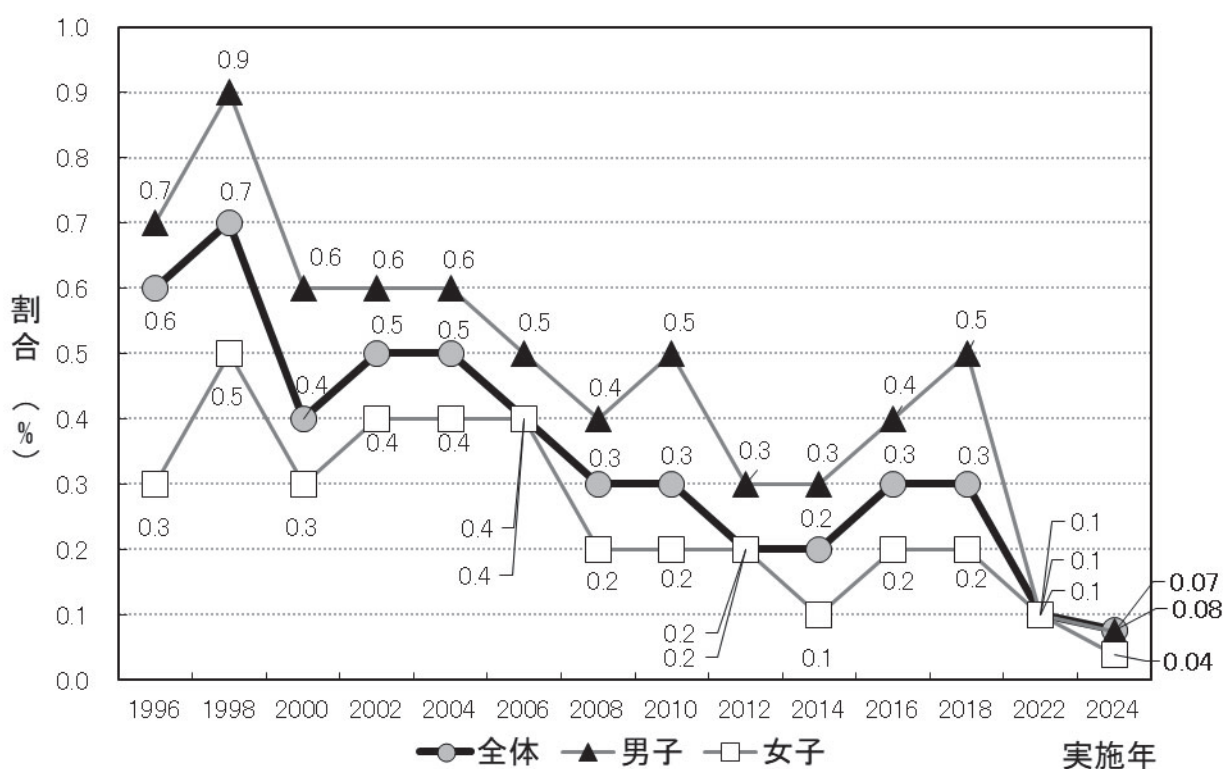


図5. 大麻の生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表6. 有機溶剤の生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	1.4	1.2	1.3	1.7	0.7	0.7	0.6	0.9	1.1	0.9	1.0	1.3	108	53,440
1998	1.7	1.2	1.6	2.3	0.9	0.9	0.8	1.1	1.3	1.1	1.2	1.7	148	71,299
2000	1.6	1.4	1.6	1.9	0.9	0.8	0.8	1.1	1.3	1.1	1.2	1.5	140	61,675
2002	1.4	1.3	1.4	1.5	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.2	1.3	1.3	149	62,413
2004	1.3	1.2	1.1	1.6	1.0	0.9	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	1.3	147	65,110
2006	1.0	1.0	1.0	1.1	0.7	0.6	0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	1.0	138	56,421
2008	0.9	0.7	0.9	1.1	0.6	0.5	0.5	0.9	0.8	0.6	0.7	1.0	133	52,163
2010	0.8	0.7	0.7	0.9	0.6	0.5	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8	121	47,475
2012	0.6	0.6	0.6	0.8	0.4	0.3	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	124	54,174
2014	1.0	1.0	1.0	1.0	0.4	0.4	0.5	0.5	0.7	0.7	0.7	0.8	129	55,270
2016	0.6	0.5	0.5	0.9	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.6	126	52,300
2018	0.6	0.5	0.5	0.7	0.3	0.3	0.4	0.3	0.5	0.4	0.6	0.5	183	70,585
2022	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	154	53,077
2024	0.16	0.19	0.22	0.06	0.07	0.10	0.07	0.05	0.14	0.16	0.15	0.10	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

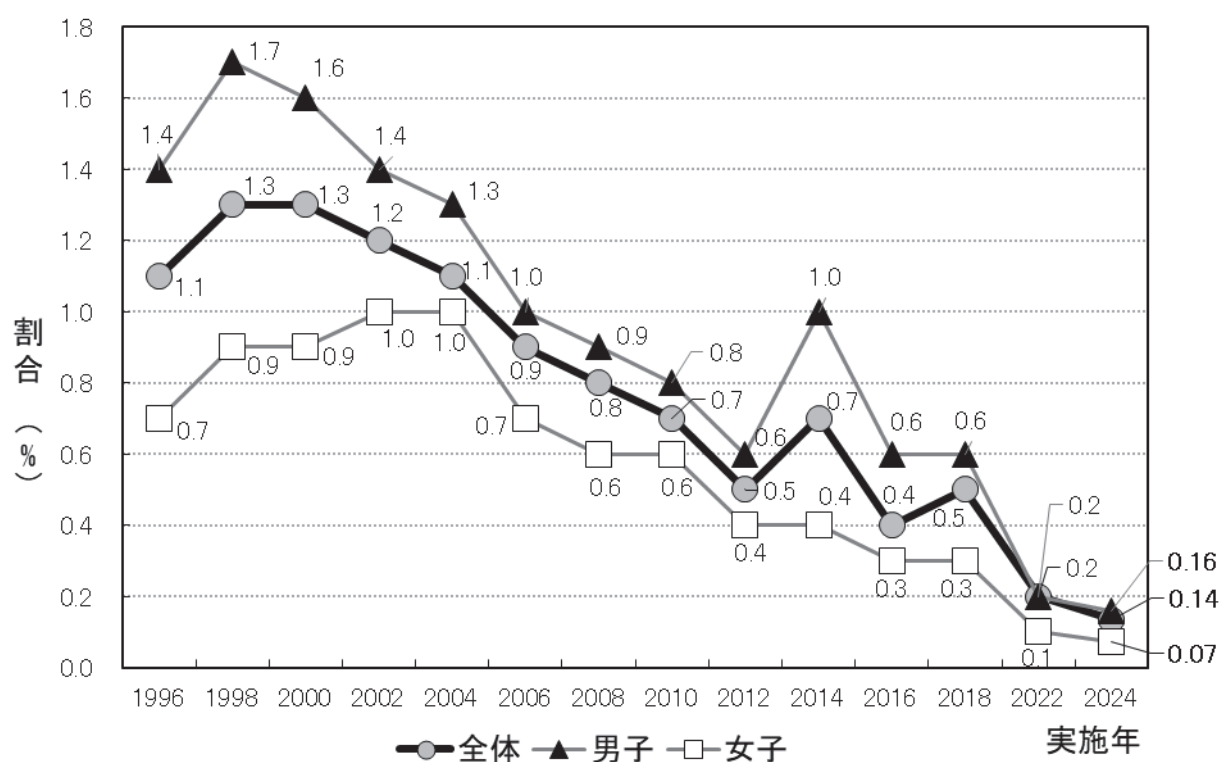


図6. 有機溶剤の生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表7. 覚醒剤の生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	0.4	0.3	0.4	0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	108	53,197
1998	0.7	0.5	0.7	0.8	0.3	0.2	0.3	0.4	0.5	0.4	0.5	0.6	148	70,819
2000	0.5	0.5	0.5	0.6	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	140	61,457
2002	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	149	62,181
2004	0.5	0.4	0.6	0.7	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.3	0.5	0.6	147	64,886
2006	0.5	0.4	0.6	0.6	0.3	0.2	0.2	0.5	0.4	0.3	0.4	0.5	138	55,841
2008	0.4	0.3	0.4	0.5	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3	0.2	0.3	0.4	133	51,972
2010	0.4	0.2	0.4	0.5	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.4	0.4	121	47,475
2012	0.3	0.2	0.2	0.4	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	124	53,908
2014	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	129	55,047
2016	0.4	0.3	0.3	0.6	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	126	52,270
2018	0.4	0.3	0.4	0.4	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4	0.3	183	70,547
2022	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	154	53,060
2024	0.06	0.08	0.08	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.07	0.07	0.06	0.07	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

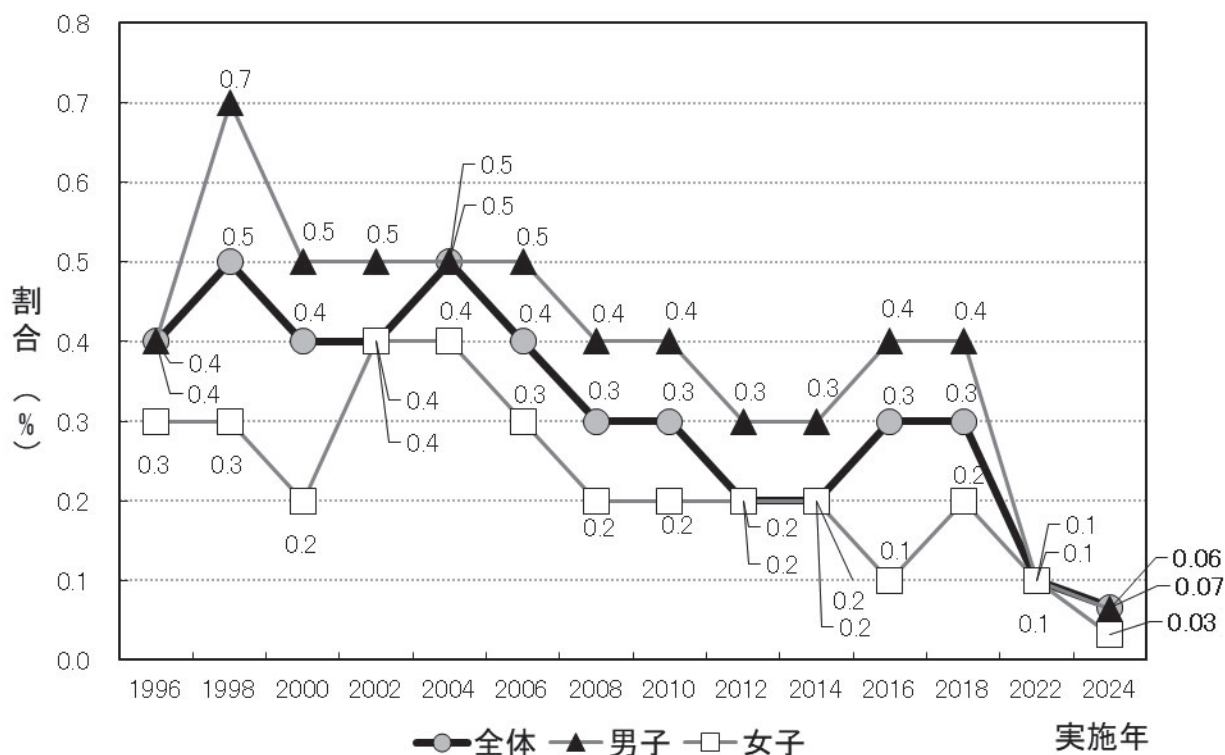


図7. 覚醒剤の生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表8. 危険ドラッグの生涯経験率の推移(2012-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
2012	0.3	0.2	0.2	0.5	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2	0.4	124	54,034
2014	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	129	55,177
2016	0.4	0.2	0.3	0.5	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	126	52,201
2018	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4	0.3	183	70,431
2022	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	154	53,003
2024	0.08	0.14	0.06	0.03	0.02	0.00	0.02	0.03	0.07	0.08	0.06	0.07	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体をさす。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

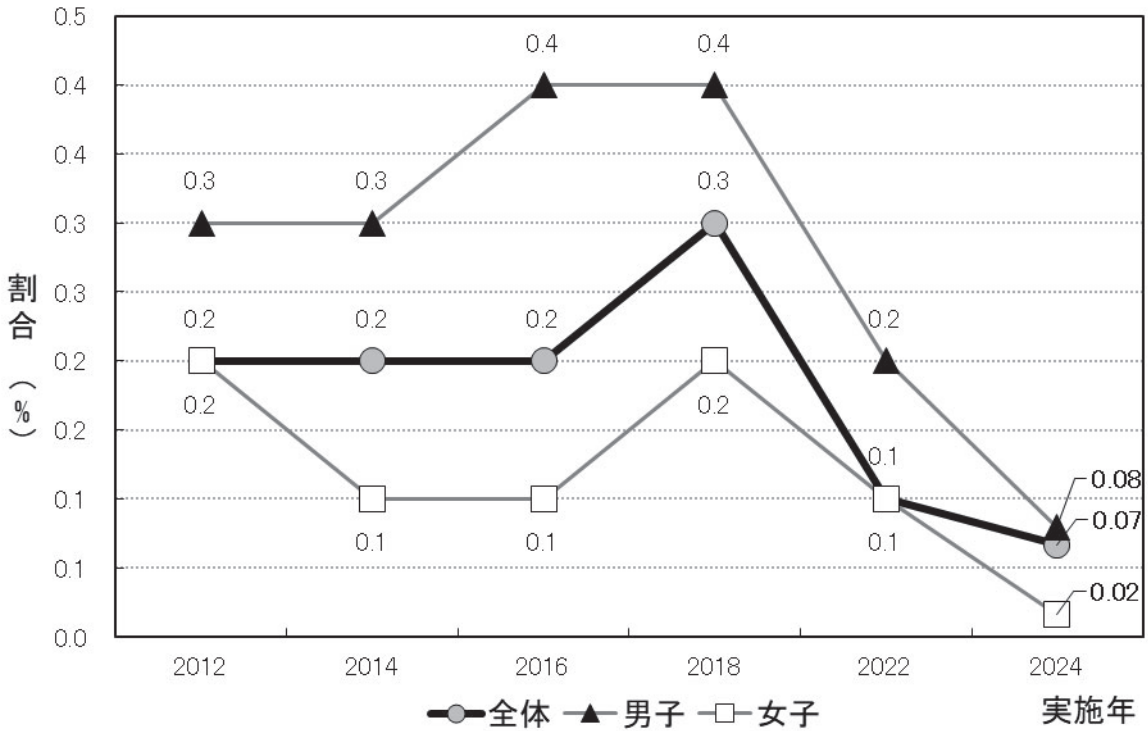


図8. 危険ドラッグの生涯経験率の推移
(2012-2024年)

表9. タバコの生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	29.6	23.6	30.1	34.9	16.9	12.7	17.9	19.9	23.3	18.2	24.1	27.6	108	53,528
1998	31.0	22.0	31.0	39.4	17.5	12.9	18.0	21.4	24.4	17.5	24.7	30.6	148	71,117
2000	27.2	19.4	27.2	34.2	16.5	11.7	15.9	21.6	21.9	15.6	21.7	27.9	140	61,535
2002	20.2	14.6	19.5	26.2	13.7	10.3	13.9	16.7	17.0	12.5	16.8	21.6	149	62,270
2004	14.9	10.0	14.6	20.0	11.2	7.4	11.5	14.3	13.1	8.8	13.1	17.2	147	64,956
2006	11.6	7.3	11.3	16.3	8.4	5.2	8.4	11.5	10.1	6.3	9.8	13.9	138	55,988
2008	9.8	6.7	9.6	13.0	6.9	4.1	7.4	9.3	8.4	5.4	8.5	11.2	133	52,128
2010	8.4	5.7	8.1	11.2	5.5	3.1	5.7	7.7	6.9	4.4	6.9	9.4	121	47,119
2012	6.5	3.6	6.2	9.8	3.5	2.0	3.3	5.2	5.1	2.8	4.8	7.5	124	54,257
2014	4.9	3.6	5.1	5.9	2.4	1.9	2.1	3.1	3.7	2.8	3.7	4.6	129	55,185
2016	2.7	1.7	2.6	3.9	1.5	1.2	1.5	1.9	2.1	1.4	2.0	2.9	126	52,201
2018	2.8	1.9	2.9	3.6	1.5	1.0	1.7	1.9	2.2	1.5	2.3	2.8	183	70,447
2022	1.6	1.2	1.4	2.0	0.7	0.5	0.7	0.9	1.2	1.0	1.1	1.5	154	53,082
2024	1.83	1.73	1.86	1.91	0.89	0.82	1.02	0.82	1.41	1.31	1.47	1.45	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

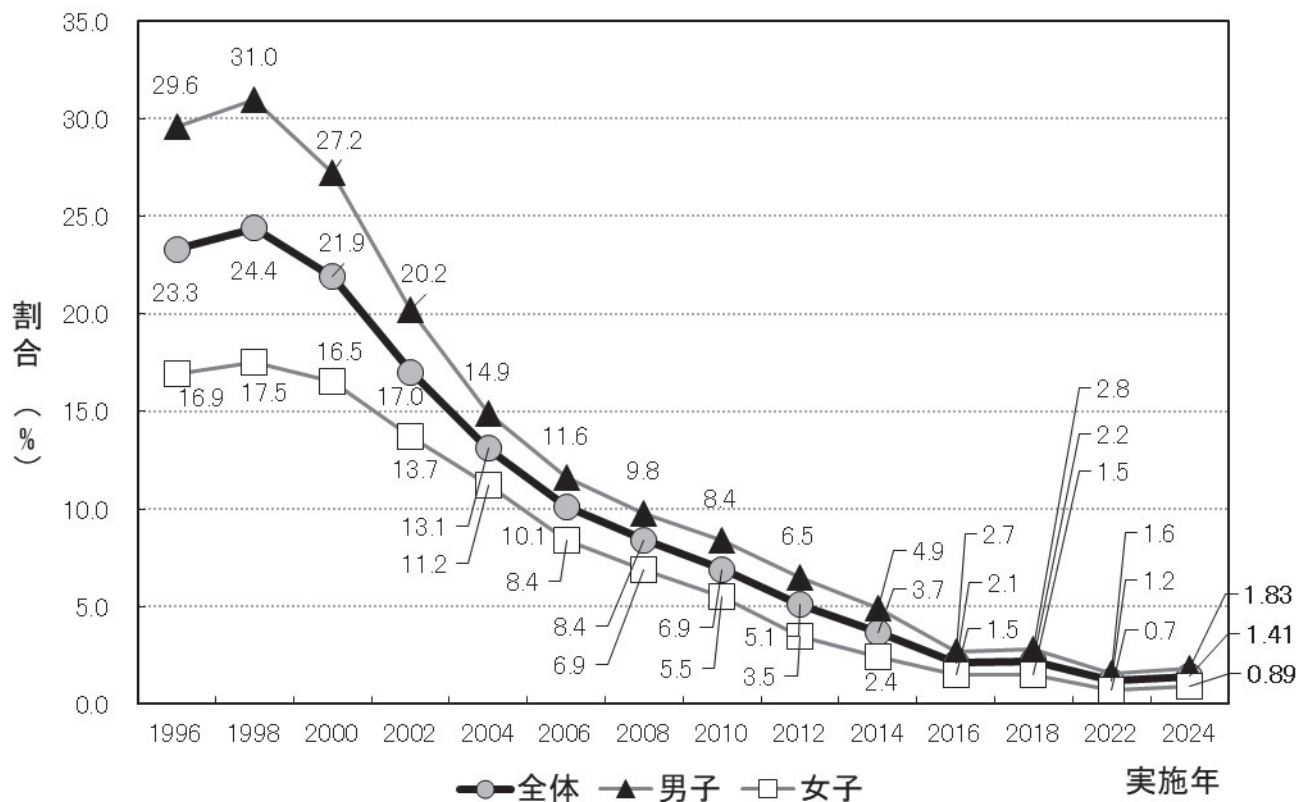


図9. タバコの生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表10. アルコールの生涯経験率の推移(1996-2024年)(%)

調査年	男子	1年生	2年生	3年生	女子	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	回答生徒数
1996	74.2	70.5	73.7	78.3	66.3	60.6	66.8	71.4	70.3	65.6	70.4	74.9	108	53,724
1998	74.9	68.6	75.4	80.3	67.7	61.9	68.5	72.5	71.4	65.3	72.0	76.5	148	71,796
2000	72.9	67.1	72.8	78.2	66.3	59.2	66.1	72.9	69.6	63.2	69.5	75.6	140	61,828
2002	64.4	57.7	65.9	69.5	61.1	53.8	62.2	66.9	62.8	55.9	64.1	68.2	149	62,450
2004	58.3	51.6	58.3	65.0	56.6	49.1	57.6	62.8	57.5	50.4	57.9	63.9	147	65,284
2006	51.3	45.1	51.6	57.4	50.1	42.0	50.6	57.3	50.7	43.6	51.1	57.3	138	56,168
2008	45.7	40.4	45.6	51.0	44.0	35.6	45.7	50.7	44.9	38.0	45.7	50.9	133	52,297
2010	41.4	37.2	41.5	45.4	38.9	32.3	39.3	44.9	40.2	34.8	40.4	45.2	121	47,267
2012	36.5	31.0	35.9	42.6	32.6	26.4	33.1	38.0	34.6	28.8	34.5	40.3	124	54,282
2014	31.5	27.4	31.8	35.0	26.8	23.1	26.5	30.6	29.3	25.4	29.4	32.9	129	55,469
2016	28.6	25.6	27.4	32.8	24.8	21.1	24.5	28.6	26.7	23.3	25.9	30.7	126	52,227
2018	23.6	20.2	23.7	26.7	18.8	15.7	18.6	21.8	21.3	18.1	21.2	24.3	183	70,548
2022	17.0	15.3	17.2	18.4	11.5	10.0	11.4	12.9	14.5	12.8	14.5	15.9	154	53,133
2024	16.87	16.81	17.09	16.71	12.15	12.53	12.37	11.53	14.73	14.87	14.94	14.38	124	37,967

「全体」とは、男性、女性、性別不明の対象者全体を指す。生涯経験率は無回答・無効回答を除いて計算した。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

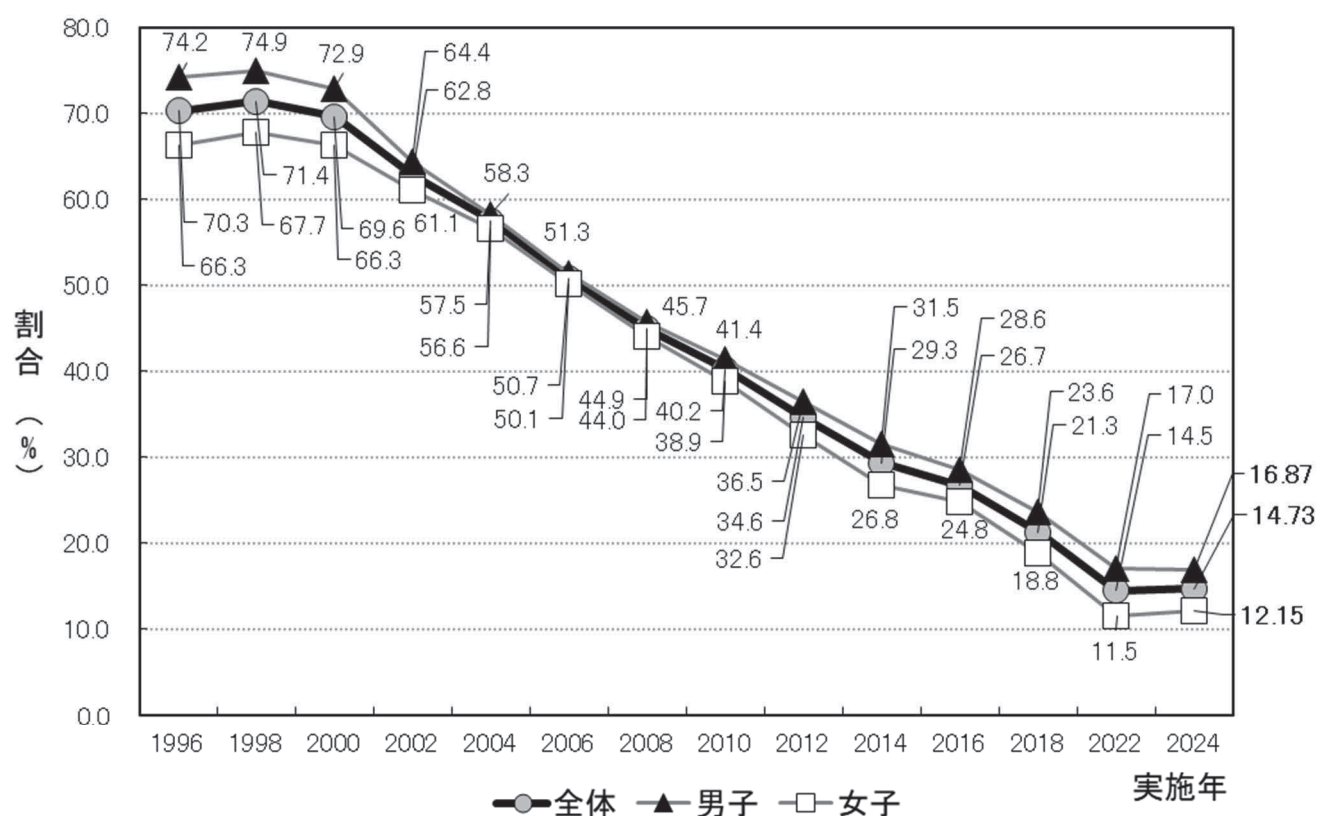


図10. アルコールの生涯経験率の推移
(1996-2024年)

表11. 薬物乱用に誘われた経験の推移(1996-2024年)(%)

調査年	大麻	有機溶剤	覚醒剤	危険ドラッグ	校数	回答生徒数
1996	—	1.7	—	—	108	53,724
1998	—	1.7	—	—	148	71,796
2000	—	1.8	—	—	140	61,828
2002	—	1.6	—	—	149	62,450
2004	—	1.5	—	—	147	65,284
2006	—	1.2	—	—	138	56,168
2008	—	1.0	—	—	133	52,297
2010	—	0.9	—	—	121	47,267
2012	—	0.8	—	0.7	124	54,282
2014	—	0.8	—	0.6	129	55,469
2016	0.3	0.4	0.3	0.3	126	52,227
2018	0.3	0.3	0.3	0.3	183	70,548
2022	0.8	0.7	0.7	0.7	154	53,133
2024	0.82	0.69	0.74	0.69	124	37,967

薬物乱用に誘われた経験は、無回答・無効回答を除いて計算した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(—)とした。

大麻及び覚醒剤は2016年より調査項目に加えた。

危険ドラッグは2012年より調査項目に加えた。

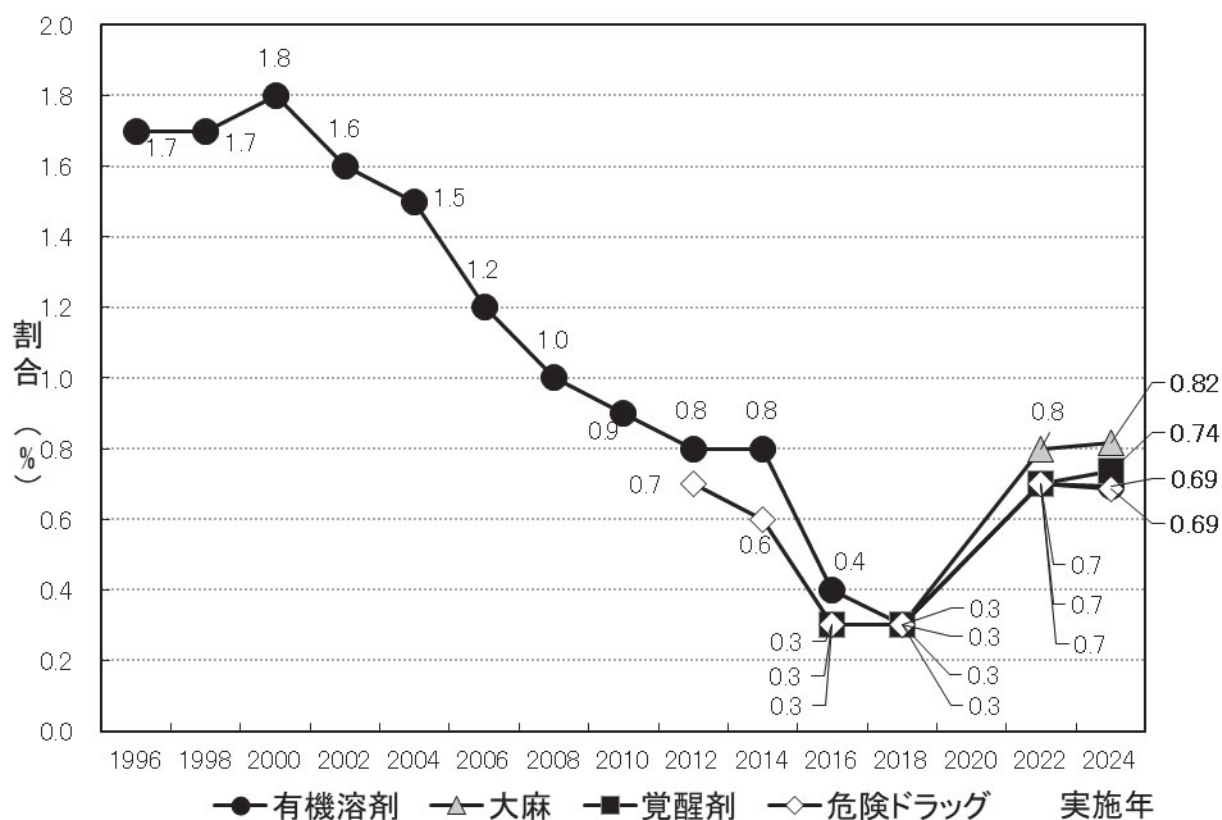


図11. 違法薬物の使用に誘われた経験の推移
(1996-2024年)

表12. 違法薬物を「入手できる」とする回答の推移(1998-2024年)(%)

調査年	大麻	有機溶剤	覚醒剤	危険ドラッグ	校数	回答生徒数
1998	22.2	38.1	23.4	—	148	71,796
2000	23.9	38.4	24.9	—	140	61,828
2002	25.7	37.4	26.4	—	149	62,450
2004	18.0	24.4	18.3	—	147	65,284
2006	14.5	20.7	15.0	—	138	56,168
2008	15.9	21.1	15.8	—	133	52,297
2010	14.7	18.7	14.6	—	121	47,267
2012	12.5	—	12.4	15.6	124	54,282
2014	14.5	—	14.5	17.8	129	55,469
2016	8.8	12.2	9.2	9.4	126	52,227
2018	8.4	11.0	8.5	8.3	183	70,548
2022	6.7	7.8	6.4	5.8	154	53,133
2024	5.90	6.97	5.59	5.10	124	37,967

「簡単に手に入る」「なんとか手に入る」という回答を合計し、「入手できる」とした。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(—)とした。

危険ドラッグは2012年より調査項目に加えた。

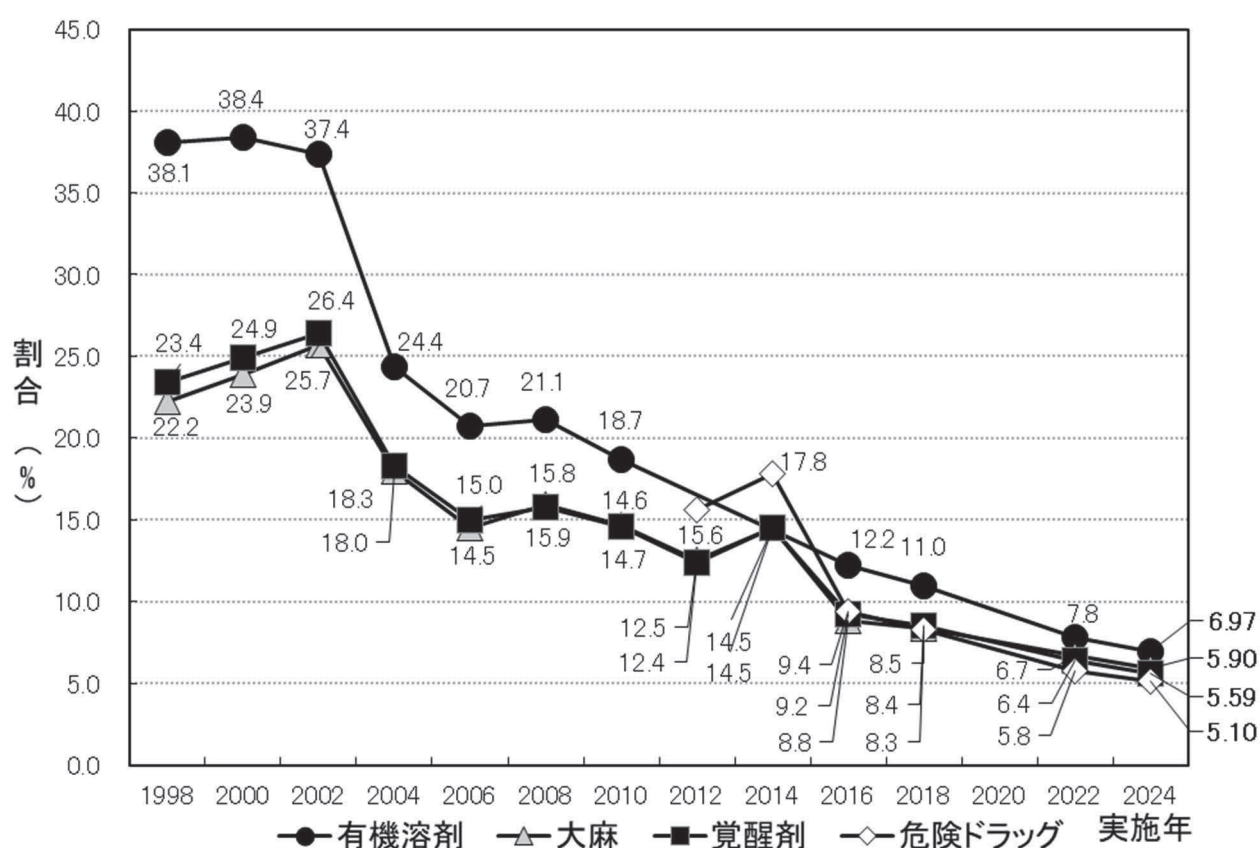


図12. 違法薬物を「入手できる」とする回答の推移(1998-2024年)

「簡単に手に入る」「なんとか手に入る」という回答を合計し、「入手できる」とした人の割合

表13.「薬物乱用に対する肯定回答」の推移(2016-2024年)(%)

調査年	大麻	有機溶剤	覚醒剤	危険ドラッグ	校数	回答生徒数
2016	1.5	1.4	1.2	1.1	126	52,227
2018	1.9	1.6	1.5	1.3	183	70,548
2022	1.9	1.3	1.3	1.1	154	53,133
2024	2.07	1.53	1.72	1.30	124	37,967

「少々なら構わない」「まったく構わない」という回答を合計し、「薬物乱用に対する肯定回答」とした。

2024年から小数点第2位まで表記した。

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

測定されていない場合にはハイフン(―)とした。

2016年から、有機溶剤、大麻、覚醒剤、危険ドラッグに関する本調査項目を加えた。

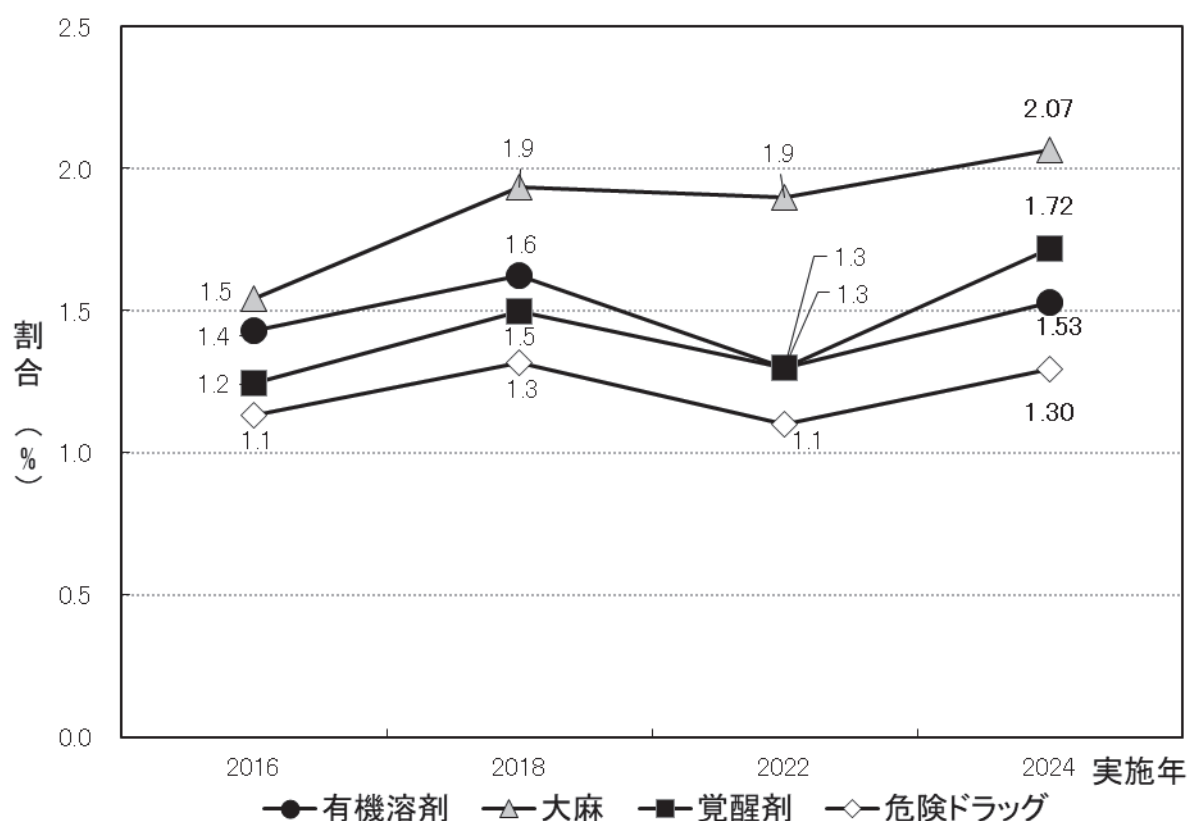


図13.「薬物乱用に対する肯定回答」の推移 (2016-2024年)

「少々なら構わない」「まったく構わない」という回答を合計し、「薬物乱用に対する肯定回答」とした人の割合

表14.性別にみた基本属性・生活属性

	性別										p-value
	男子		女子		その他・不明		無回答・無効回答		合計		
	n=19,007		n=18,462		n=397		n=101		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
学年											0.140
1年生	6,425	(33.8)	6,278	(34.0)	113	(28.5)	31	(30.7)	12,847	(33.8)	
2年生	6,373	(33.5)	6,187	(33.5)	134	(33.8)	32	(31.7)	12,726	(33.5)	
3年生	6,209	(32.7)	5,997	(32.5)	150	(37.8)	38	(37.6)	12,394	(32.6)	
起床時間について											<0.001
ほぼ一定している	15,658	(82.4)	15,189	(82.3)	274	(69.0)	73	(72.3)	31,194	(82.2)	
一定していない	3,310	(17.4)	3,245	(17.6)	120	(30.2)	23	(22.8)	6,698	(17.6)	
無回答・無効回答	39	(.2)	28	(.2)	3	(.8)	5	(5.0)	75	(.2)	
就寝時間について											<0.001
ほぼ一定している	11,821	(62.2)	11,105	(60.2)	173	(43.6)	52	(51.5)	23,151	(61.0)	
一定していない	7,149	(37.6)	7,320	(39.6)	222	(55.9)	44	(43.6)	14,735	(38.8)	
無回答・無効回答	37	(.2)	37	(.2)	2	(.5)	5	(5.0)	81	(.2)	
朝食の摂食頻度											<0.001
ほとんど毎日食べている	16,455	(86.6)	15,696	(85.0)	300	(75.6)	79	(78.2)	32,530	(85.7)	
時々食べる	1,546	(8.1)	1,847	(10.0)	60	(15.1)	11	(10.9)	3,464	(9.1)	
ほとんど食べない	969	(5.1)	905	(4.9)	34	(8.6)	7	(6.9)	1,915	(5.0)	
無回答・無効回答	37	(.2)	14	(.1)	3	(.8)	4	(4.0)	58	(.2)	
学校生活について											<0.001
とても楽しい	9,285	(48.9)	7,735	(41.9)	90	(22.7)	26	(25.7)	17,136	(45.1)	
どちらかといえば楽しい	8,191	(43.1)	8,655	(46.9)	182	(45.8)	42	(41.6)	17,070	(45.0)	
どちらかといえば楽しくない	1,191	(6.3)	1,635	(8.9)	70	(17.6)	16	(15.8)	2,912	(7.7)	
まったく楽しくない	282	(1.5)	350	(1.9)	53	(13.4)	7	(6.9)	692	(1.8)	
無回答・無効回答	58	(.3)	87	(.5)	2	(.5)	10	(9.9)	157	(.4)	
大人不在の状態で過ごす時間(1日あたり)											<0.001
なし、あるいは、ほとんどなし	4,340	(22.8)	4,986	(27.0)	98	(24.7)	25	(24.8)	9,449	(24.9)	
1時間未満	4,485	(23.6)	3,826	(20.7)	65	(16.4)	12	(11.9)	8,388	(22.1)	
1～2時間未満	4,930	(25.9)	4,455	(24.1)	99	(24.9)	26	(25.7)	9,510	(25.0)	
2～3時間未満	2,951	(15.5)	2,960	(16.0)	61	(15.4)	14	(13.9)	5,986	(15.8)	
3時間以上	2,223	(11.7)	2,161	(11.7)	73	(18.4)	19	(18.8)	4,476	(11.8)	
無回答・無効回答	78	(.4)	74	(.4)	1	(.3)	5	(5.0)	158	(.4)	
親しく遊べる友人											<0.001
いる	18,416	(96.9)	17,874	(96.8)	349	(87.9)	86	(85.1)	36,725	(96.7)	
いない	520	(2.7)	516	(2.8)	41	(10.3)	5	(5.0)	1,082	(2.8)	
無回答・無効回答	71	(.4)	72	(.4)	7	(1.8)	10	(9.9)	160	(.4)	
相談事のできる友人											<0.001
いる	17,329	(91.2)	16,485	(89.3)	261	(65.7)	78	(77.2)	34,153	(90.0)	
いない	1,597	(8.4)	1,862	(10.1)	132	(33.2)	15	(14.9)	3,606	(9.5)	
無回答・無効回答	81	(.4)	115	(.6)	4	(1.0)	8	(7.9)	208	(.5)	
悩み事の親への相談											<0.001
よく相談する	3,090	(16.3)	4,779	(25.9)	42	(10.6)	18	(17.8)	7,929	(20.9)	
どちらかといえば相談する	6,784	(35.7)	6,588	(35.7)	88	(22.2)	24	(23.8)	13,484	(35.5)	
どちらかといえば相談しない	4,440	(23.4)	3,531	(19.1)	67	(16.9)	15	(14.9)	8,053	(21.2)	
ほとんど相談しない	4,546	(23.9)	3,462	(18.8)	183	(46.1)	34	(33.7)	8,225	(21.7)	
親がいない(単身赴任・死別・別居・離婚など)	76	(.4)	52	(.3)	17	(4.3)	2	(2.0)	147	(.4)	
無回答・無効回答	71	(.4)	50	(.3)	0	(.0)	8	(7.9)	129	(.3)	
過去1年間の「生きづらさ」											<0.001
かなり感じている	945	(5.0)	1,352	(7.3)	119	(30.0)	17	(16.8)	2,433	(6.4)	
どちらかと言えば感じている	3,357	(17.7)	4,625	(25.1)	126	(31.7)	34	(33.7)	8,142	(21.4)	
どちらかと言えば感じていない	6,625	(34.9)	6,783	(36.7)	84	(21.2)	23	(22.8)	13,515	(35.6)	
まったく感じていない	7,936	(41.8)	5,555	(30.1)	64	(16.1)	16	(15.8)	13,571	(35.7)	
無回答・無効回答	144	(.8)	147	(.8)	4	(1.0)	11	(10.9)	306	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表15.学年別にみた基本属性・生活属性

	学年								p-value
	1年生		2年生		3年生		合計		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
性別									0.140
男子	6,425	(50.0)	6,373	(50.1)	6,209	(50.1)	19,007	(50.1)	
女子	6,278	(48.9)	6,187	(48.6)	5,997	(48.4)	18,462	(48.6)	
その他・不明	113	(.9)	134	(1.1)	150	(1.2)	397	(1.0)	
無回答・無効回答	31	(.2)	32	(.3)	38	(.3)	101	(.3)	
起床時間について									0.310
ほぼ一定している	10,590	(82.4)	10,398	(81.7)	10,206	(82.3)	31,194	(82.2)	
一定していない	2,232	(17.4)	2,297	(18.0)	2,169	(17.5)	6,698	(17.6)	
無回答・無効回答	25	(.2)	31	(.2)	19	(.2)	75	(.2)	
就寝時間について									<0.001
ほぼ一定している	8,009	(62.3)	7,680	(60.3)	7,462	(60.2)	23,151	(61.0)	
一定していない	4,807	(37.4)	5,015	(39.4)	4,913	(39.6)	14,735	(38.8)	
無回答・無効回答	31	(.2)	31	(.2)	19	(.2)	81	(.2)	
朝食の摂食頻度									<0.001
ほとんど毎日食べている	11,222	(87.4)	10,898	(85.6)	10,410	(84.0)	32,530	(85.7)	
時々食べる	1,093	(8.5)	1,169	(9.2)	1,202	(9.7)	3,464	(9.1)	
ほとんど食べない	517	(4.0)	628	(4.9)	770	(6.2)	1,915	(5.0)	
無回答・無効回答	15	(.1)	31	(.2)	12	(.1)	58	(.2)	
学校生活について									<0.001
とても楽しい	5,994	(46.7)	5,441	(42.8)	5,701	(46.0)	17,136	(45.1)	
どちらかといえば楽しい	5,622	(43.8)	5,980	(47.0)	5,468	(44.1)	17,070	(45.0)	
どちらかといえば楽しくない	942	(7.3)	1,017	(8.0)	953	(7.7)	2,912	(7.7)	
まったく楽しくない	228	(1.8)	229	(1.8)	235	(1.9)	692	(1.8)	
無回答・無効回答	61	(.5)	59	(.5)	37	(.3)	157	(.4)	
大人不在の状態で過ごす時間(1日あたり)									<0.001
なし、あるいは、ほとんどなし	3,529	(27.5)	3,134	(24.6)	2,786	(22.5)	9,449	(24.9)	
1時間未満	2,842	(22.1)	3,062	(24.1)	2,484	(20.0)	8,388	(22.1)	
1～2時間未満	3,102	(24.1)	3,228	(25.4)	3,180	(25.7)	9,510	(25.0)	
2～3時間未満	1,844	(14.4)	1,872	(14.7)	2,270	(18.3)	5,986	(15.8)	
3時間以上	1,461	(11.4)	1,382	(10.9)	1,633	(13.2)	4,476	(11.8)	
無回答・無効回答	69	(.5)	48	(.4)	41	(.3)	158	(.4)	
親しく遊べる友人									0.011
いる	12,458	(97.0)	12,306	(96.7)	11,961	(96.5)	36,725	(96.7)	
いない	321	(2.5)	376	(3.0)	385	(3.1)	1,082	(2.8)	
無回答・無効回答	68	(.5)	44	(.3)	48	(.4)	160	(.4)	
相談事のできる友人									0.083
いる	11,518	(89.7)	11,416	(89.7)	11,219	(90.5)	34,153	(90.0)	
いない	1,236	(9.6)	1,250	(9.8)	1,120	(9.0)	3,606	(9.5)	
無回答・無効回答	93	(.7)	60	(.5)	55	(.4)	208	(.5)	
悩み事の親への相談									<0.001
よく相談する	2,790	(21.7)	2,539	(20.0)	2,600	(21.0)	7,929	(20.9)	
どちらかといえば相談する	4,758	(37.0)	4,432	(34.8)	4,294	(34.6)	13,484	(35.5)	
どちらかといえば相談しない	2,630	(20.5)	2,706	(21.3)	2,717	(21.9)	8,053	(21.2)	
ほとんど相談しない	2,579	(20.1)	2,944	(23.1)	2,702	(21.8)	8,225	(21.7)	
親がいない(単身赴任・死別・別居・離婚など)	37	(.3)	61	(.5)	49	(.4)	147	(.4)	
無回答・無効回答	53	(.4)	44	(.3)	32	(.3)	129	(.3)	
過去1年間の「生きづらさ」									<0.001
かなり感じている	787	(6.1)	825	(6.5)	821	(6.6)	2,433	(6.4)	
どちらかと言えば感じている	2,603	(20.3)	2,754	(21.6)	2,785	(22.5)	8,142	(21.4)	
どちらかと言えば感じていない	4,506	(35.1)	4,562	(35.8)	4,447	(35.9)	13,515	(35.6)	
まったく感じていない	4,825	(37.6)	4,480	(35.2)	4,266	(34.4)	13,571	(35.7)	
無回答・無効回答	126	(1.0)	105	(.8)	75	(.6)	306	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表16.過去1年間の大麻使用経験別にみた基本属性・生活属性

過去1年間の大麻使用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=37,677		n=15		n=275		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
性別									<0.001
男子	18,834	(50.0)	9	(60.0)	164	(59.6)	19,007	(50.1)	
女子	18,353	(48.7)	3	(20.0)	106	(38.5)	18,462	(48.6)	
その他・不明	390	(1.0)	3	(20.0)	4	(1.5)	397	(1.0)	
無回答・無効回答	100	(.3)	0	(.0)	1	(.4)	101	(.3)	
学年									0.795
1年生	12,740	(33.8)	5	(33.3)	102	(37.1)	12,847	(33.8)	
2年生	12,631	(33.5)	4	(26.7)	91	(33.1)	12,726	(33.5)	
3年生	12,306	(32.7)	6	(40.0)	82	(29.8)	12,394	(32.6)	
起床時間について									0.035
ほぼ一定している	30,971	(82.2)	9	(60.0)	214	(77.8)	31,194	(82.2)	
一定していない	6,632	(17.6)	6	(40.0)	60	(21.8)	6,698	(17.6)	
無回答・無効回答	74	(.2)	0	(.0)	1	(.4)	75	(.2)	
就寝時間について									0.034
ほぼ一定している	22,991	(61.0)	5	(33.3)	155	(56.4)	23,151	(61.0)	
一定していない	14,610	(38.8)	10	(66.7)	115	(41.8)	14,735	(38.8)	
無回答・無効回答	76	(.2)	0	(.0)	5	(1.8)	81	(.2)	
朝食の摂食頻度									0.001
ほとんど毎日食べている	32,298	(85.7)	10	(66.7)	222	(80.7)	32,530	(85.7)	
時々食べる	3,433	(9.1)	1	(6.7)	30	(10.9)	3,464	(9.1)	
ほとんど食べない	1,888	(5.0)	4	(26.7)	23	(8.4)	1,915	(5.0)	
無回答・無効回答	58	(.2)	0	(.0)	0	(.0)	58	(.2)	
学校生活について									<0.001
とても楽しい	17,027	(45.2)	3	(20.0)	106	(38.5)	17,136	(45.1)	
どちらかといえば楽しい	16,920	(44.9)	8	(53.3)	142	(51.6)	17,070	(45.0)	
どちらかといえば楽しくない	2,894	(7.7)	0	(.0)	18	(6.5)	2,912	(7.7)	
まったく楽しくない	680	(1.8)	4	(26.7)	8	(2.9)	692	(1.8)	
無回答・無効回答	156	(.4)	0	(.0)	1	(.4)	157	(.4)	
大人不在の状態で過ごす時間(1日あたり)									0.035
なし、あるいは、ほとんどなし	9,376	(24.9)	5	(33.3)	68	(24.7)	9,449	(24.9)	
1時間未満	8,334	(22.1)	1	(6.7)	53	(19.3)	8,388	(22.1)	
1～2時間未満	9,441	(25.1)	4	(26.7)	65	(23.6)	9,510	(25.0)	
2～3時間未満	5,947	(15.8)	0	(.0)	39	(14.2)	5,986	(15.8)	
3時間以上	4,429	(11.8)	5	(33.3)	42	(15.3)	4,476	(11.8)	
無回答・無効回答	150	(.4)	0	(.0)	8	(2.9)	158	(.4)	
親しく遊べる友人									0.066
いる	36,453	(96.8)	13	(86.7)	259	(94.2)	36,725	(96.7)	
いない	1,068	(2.8)	2	(13.3)	12	(4.4)	1,082	(2.8)	
無回答・無効回答	156	(.4)	0	(.0)	4	(1.5)	160	(.4)	
相談事のできる友人									0.010
いる	33,902	(90.0)	10	(66.7)	241	(87.6)	34,153	(90.0)	
いない	3,570	(9.5)	5	(33.3)	31	(11.3)	3,606	(9.5)	
無回答・無効回答	205	(.5)	0	(.0)	3	(1.1)	208	(.5)	
悩み事の親への相談									<0.001
よく相談する	7,860	(20.9)	3	(20.0)	66	(24.0)	7,929	(20.9)	
どちらかといえば相談する	13,395	(35.6)	0	(.0)	89	(32.4)	13,484	(35.5)	
どちらかといえば相談しない	7,998	(21.2)	0	(.0)	55	(20.0)	8,053	(21.2)	
ほとんど相談しない	8,155	(21.6)	7	(46.7)	63	(22.9)	8,225	(21.7)	
親がいない(単身赴任・死別・別居・離婚など)	141	(.4)	5	(33.3)	1	(.4)	147	(.4)	
無回答・無効回答	128	(.3)	0	(.0)	1	(.4)	129	(.3)	
過去1年間の「生きづらさ」									<0.001
かなり感じている	2,398	(6.4)	5	(33.3)	30	(10.9)	2,433	(6.4)	
どちらかと言えば感じている	8,085	(21.5)	6	(40.0)	51	(18.5)	8,142	(21.4)	
どちらかと言えば感じていない	13,417	(35.6)	1	(6.7)	97	(35.3)	13,515	(35.6)	
まったく感じていない	13,476	(35.8)	3	(20.0)	92	(33.5)	13,571	(35.7)	
無回答・無効回答	301	(.8)	0	(.0)	5	(1.8)	306	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表17.過去1年間の市販薬乱用経験別にみた基本属性・生活属性

過去1年間の市販薬乱用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=36,915		n=724		n=328		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
性別									<0.001
男子	18,529	(50.2)	289	(39.9)	189	(57.6)	19,007	(50.1)	
女子	17,925	(48.6)	404	(55.8)	133	(40.5)	18,462	(48.6)	
その他・不明	367	(1.0)	26	(3.6)	4	(1.2)	397	(1.0)	
無回答・無効回答	94	(.3)	5	(.7)	2	(.6)	101	(.3)	
学年									0.042
1年生	12,428	(33.7)	271	(37.4)	148	(45.1)	12,847	(33.8)	
2年生	12,383	(33.5)	242	(33.4)	101	(30.8)	12,726	(33.5)	
3年生	12,104	(32.8)	211	(29.1)	79	(24.1)	12,394	(32.6)	
起床時間について									<0.001
ほぼ一定している	30,433	(82.4)	510	(70.4)	251	(76.5)	31,194	(82.2)	
一定していない	6,413	(17.4)	213	(29.4)	72	(22.0)	6,698	(17.6)	
無回答・無効回答	69	(.2)	1	(.1)	5	(1.5)	75	(.2)	
就寝時間について									<0.001
ほぼ一定している	22,621	(61.3)	359	(49.6)	171	(52.1)	23,151	(61.0)	
一定していない	14,218	(38.5)	363	(50.1)	154	(47.0)	14,735	(38.8)	
無回答・無効回答	76	(.2)	2	(.3)	3	(.9)	81	(.2)	
朝食の摂食頻度									<0.001
ほとんど毎日食べている	31,740	(86.0)	532	(73.5)	258	(78.7)	32,530	(85.7)	
時々食べる	3,303	(8.9)	117	(16.2)	44	(13.4)	3,464	(9.1)	
ほとんど食べない	1,819	(4.9)	72	(9.9)	24	(7.3)	1,915	(5.0)	
無回答・無効回答	53	(.1)	3	(.4)	2	(.6)	58	(.2)	
学校生活について									<0.001
とても楽しい	16,753	(45.4)	256	(35.4)	127	(38.7)	17,136	(45.1)	
どちらかといえば楽しい	16,598	(45.0)	318	(43.9)	154	(47.0)	17,070	(45.0)	
どちらかといえば楽しくない	2,781	(7.5)	95	(13.1)	36	(11.0)	2,912	(7.7)	
まったく楽しくない	632	(1.7)	52	(7.2)	8	(2.4)	692	(1.8)	
無回答・無効回答	151	(.4)	3	(.4)	3	(.9)	157	(.4)	
大人不在の状態で過ごす時間(1日あたり)									<0.001
なし、あるいは、ほとんどなし	9,214	(25.0)	156	(21.5)	79	(24.1)	9,449	(24.9)	
1時間未満	8,189	(22.2)	145	(20.0)	54	(16.5)	8,388	(22.1)	
1～2時間未満	9,249	(25.1)	178	(24.6)	83	(25.3)	9,510	(25.0)	
2～3時間未満	5,821	(15.8)	113	(15.6)	52	(15.9)	5,986	(15.8)	
3時間以上	4,301	(11.7)	129	(17.8)	46	(14.0)	4,476	(11.8)	
無回答・無効回答	141	(.4)	3	(.4)	14	(4.3)	158	(.4)	
親しく遊べる友人									<0.001
いる	35,738	(96.8)	677	(93.5)	310	(94.5)	36,725	(96.7)	
いない	1,026	(2.8)	42	(5.8)	14	(4.3)	1,082	(2.8)	
無回答・無効回答	151	(.4)	5	(.7)	4	(1.2)	160	(.4)	
相談事のできる友人									<0.001
いる	33,273	(90.1)	592	(81.8)	288	(87.8)	34,153	(90.0)	
いない	3,443	(9.3)	127	(17.5)	36	(11.0)	3,606	(9.5)	
無回答・無効回答	199	(.5)	5	(.7)	4	(1.2)	208	(.5)	
悩み事の親への相談									<0.001
よく相談する	7,706	(20.9)	145	(20.0)	78	(23.8)	7,929	(20.9)	
どちらかといえば相談する	13,156	(35.6)	222	(30.7)	106	(32.3)	13,484	(35.5)	
どちらかといえば相談しない	7,870	(21.3)	124	(17.1)	59	(18.0)	8,053	(21.2)	
ほとんど相談しない	7,927	(21.5)	220	(30.4)	78	(23.8)	8,225	(21.7)	
親がいない(単身赴任・死別・別居・離婚など)	136	(.4)	10	(1.4)	1	(.3)	147	(.4)	
無回答・無効回答	120	(.3)	3	(.4)	6	(1.8)	129	(.3)	
過去1年間の「生きづらさ」									<0.001
かなり感じている	2,252	(6.1)	153	(21.1)	28	(8.5)	2,433	(6.4)	
どちらかと言えば感じている	7,890	(21.4)	188	(26.0)	64	(19.5)	8,142	(21.4)	
どちらかと言えば感じていない	13,226	(35.8)	182	(25.1)	107	(32.6)	13,515	(35.6)	
まったく感じていない	13,263	(35.9)	195	(26.9)	113	(34.5)	13,571	(35.7)	
無回答・無効回答	284	(.8)	6	(.8)	16	(4.9)	306	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表18.性別にみた飲酒状況

	性別										p-value
	男子		女子		その他・不明		無回答・無効回答		合計		
	n=19.007	(%)	n=18.462	(%)	n=397	(%)	n=101	(%)	n=37.967	(%)	
	n		n		n		n		n		
生涯飲酒経験											<0.001
あり	3,191	(16.8)	2,236	(12.1)	120	(30.2)	24	(23.8)	5,571	(14.7)	
なし	15,723	(82.7)	16,166	(87.6)	276	(69.5)	76	(75.2)	32,241	(84.9)	
無回答・無効回答	93	(.5)	60	(.3)	1	(.3)	1	(1.0)	155	(.4)	
初回飲酒年齢											<0.001
飲酒経験なし	15,723	(82.7)	16,166	(87.6)	276	(69.5)	76	(75.2)	32,241	(84.9)	
10歳以下	1,060	(5.6)	678	(3.7)	39	(9.8)	11	(10.9)	1,788	(4.7)	
11歳	199	(1.0)	124	(.7)	5	(1.3)	1	(1.0)	329	(.9)	
12歳	240	(1.3)	144	(.8)	8	(2.0)	0	(.0)	392	(1.0)	
13歳	181	(1.0)	134	(.7)	1	(.3)	0	(.0)	316	(.8)	
14歳	129	(.7)	76	(.4)	3	(.8)	0	(.0)	208	(.5)	
15歳以上	31	(.2)	19	(.1)	2	(.5)	2	(2.0)	54	(.1)	
年齢は覚えていない	1,351	(7.1)	1,061	(5.7)	62	(15.6)	10	(9.9)	2,484	(6.5)	
無回答・無効回答	93	(.5)	60	(.3)	1	(.3)	1	(1.0)	155	(.4)	
過去1年間の飲酒経験											<0.001
あり	1,265	(6.7)	816	(4.4)	46	(11.6)	12	(11.9)	2,139	(5.6)	
なし	17,632	(92.8)	17,585	(95.2)	348	(87.7)	88	(87.1)	35,653	(93.9)	
無回答・無効回答	110	(.6)	61	(.3)	3	(.8)	1	(1.0)	175	(.5)	
過去1年間の飲酒頻度											<0.001
1度も飲んでいない	17,632	(92.8)	17,585	(95.2)	348	(87.7)	88	(87.1)	35,653	(93.9)	
1年間で1回～数回	1,143	(6.0)	733	(4.0)	33	(8.3)	12	(11.9)	1,921	(5.1)	
月に数回	80	(.4)	58	(.3)	5	(1.3)	0	(.0)	143	(.4)	
週に数回	23	(.1)	16	(.1)	2	(.5)	0	(.0)	41	(.1)	
ほとんど毎日	19	(.1)	9	(.0)	6	(1.5)	0	(.0)	34	(.1)	
無回答・無効回答	110	(.6)	61	(.3)	3	(.8)	1	(1.0)	175	(.5)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用経験											<0.001
あり	1,695	(8.9)	1,390	(7.5)	55	(13.9)	10	(9.9)	3,150	(8.3)	
なし	17,158	(90.3)	16,964	(91.9)	338	(85.1)	90	(89.1)	34,550	(91.0)	
無回答・無効回答	154	(.8)	108	(.6)	4	(1.0)	1	(1.0)	267	(.7)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用頻度											<0.001
1度も飲んでいない	17,158	(90.3)	16,964	(91.9)	338	(85.1)	90	(89.1)	34,550	(91.0)	
1年間で1回～数回	1,388	(7.3)	1,152	(6.2)	40	(10.1)	10	(9.9)	2,590	(6.8)	
月に数回	205	(1.1)	176	(1.0)	5	(1.3)	0	(.0)	386	(1.0)	
週に数回	64	(.3)	41	(.2)	4	(1.0)	0	(.0)	109	(.3)	
ほとんど毎日	38	(.2)	21	(.1)	6	(1.5)	0	(.0)	65	(.2)	
無回答・無効回答	154	(.8)	108	(.6)	4	(1.0)	1	(1.0)	267	(.7)	
20歳未満の飲酒に対する考え											<0.001
飲むべきではないと思う	16,146	(84.9)	16,532	(89.5)	283	(71.3)	83	(82.2)	33,044	(87.0)	
時と場合に応じては構わない	2,110	(11.1)	1,528	(8.3)	68	(17.1)	10	(9.9)	3,716	(9.8)	
全然構わない	584	(3.1)	314	(1.7)	43	(10.8)	3	(3.0)	944	(2.5)	
無回答・無効回答	167	(.9)	88	(.5)	3	(.8)	5	(5.0)	263	(.7)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表19.学年別にみた飲酒状況

	学年								p-value
	1年生		2年生		3年生		合計		
	n=12,847		n=12,726		n=12,394		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
生涯飲酒経験									0.331
あり	1,901	(14.8)	1,894	(14.9)	1,776	(14.3)	5,571	(14.7)	
なし	10,880	(84.7)	10,785	(84.7)	10,576	(85.3)	32,241	(84.9)	
無回答・無効回答	66	(.5)	47	(.4)	42	(.3)	155	(.4)	
初回飲酒年齢									<0.001
飲酒経験なし	10,880	(84.7)	10,785	(84.7)	10,576	(85.3)	32,241	(84.9)	
10歳以下	722	(5.6)	599	(4.7)	467	(3.8)	1,788	(4.7)	
11歳	180	(1.4)	90	(.7)	59	(.5)	329	(.9)	
12歳	179	(1.4)	134	(1.1)	79	(.6)	392	(1.0)	
13歳	61	(.5)	147	(1.2)	108	(.9)	316	(.8)	
14歳	2	(.0)	70	(.6)	136	(1.1)	208	(.5)	
15歳以上	2	(.0)	0	(.0)	52	(.4)	54	(.1)	
年齢は覚えていない	755	(5.9)	854	(6.7)	875	(7.1)	2,484	(6.5)	
無回答・無効回答	66	(.5)	47	(.4)	42	(.3)	155	(.4)	
過去1年間の飲酒経験									0.277
あり	741	(5.8)	729	(5.7)	669	(5.4)	2,139	(5.6)	
なし	12,033	(93.7)	11,942	(93.8)	11,678	(94.2)	35,653	(93.9)	
無回答・無効回答	73	(.6)	55	(.4)	47	(.4)	175	(.5)	
過去1年間の飲酒頻度									0.053
1度も飲んでいない	12,033	(93.7)	11,942	(93.8)	11,678	(94.2)	35,653	(93.9)	
1年間で1回～数回	670	(5.2)	669	(5.3)	582	(4.7)	1,921	(5.1)	
月に数回	50	(.4)	35	(.3)	58	(.5)	143	(.4)	
週に数回	11	(.1)	16	(.1)	14	(.1)	41	(.1)	
ほとんど毎日	10	(.1)	9	(.1)	15	(.1)	34	(.1)	
無回答・無効回答	73	(.6)	55	(.4)	47	(.4)	175	(.5)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用経験									0.003
あり	1,128	(8.8)	1,074	(8.4)	948	(7.6)	3,150	(8.3)	
なし	11,601	(90.3)	11,567	(90.9)	11,382	(91.8)	34,550	(91.0)	
無回答・無効回答	118	(.9)	85	(.7)	64	(.5)	267	(.7)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用頻度									0.021
1度も飲んでいない	11,601	(90.3)	11,567	(90.9)	11,382	(91.8)	34,550	(91.0)	
1年間で1回～数回	931	(7.2)	887	(7.0)	772	(6.2)	2,590	(6.8)	
月に数回	140	(1.1)	131	(1.0)	115	(.9)	386	(1.0)	
週に数回	30	(.2)	40	(.3)	39	(.3)	109	(.3)	
ほとんど毎日	27	(.2)	16	(.1)	22	(.2)	65	(.2)	
無回答・無効回答	118	(.9)	85	(.7)	64	(.5)	267	(.7)	
20歳未満の飲酒に対する考え									<0.001
飲むべきではないと思う	11,236	(87.5)	11,029	(86.7)	10,779	(87.0)	33,044	(87.0)	
時と場合に応じては構わない	1,258	(9.8)	1,283	(10.1)	1,175	(9.5)	3,716	(9.8)	
全然構わない	248	(1.9)	327	(2.6)	369	(3.0)	944	(2.5)	
無回答・無効回答	105	(.8)	87	(.7)	71	(.6)	263	(.7)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が 1.0 以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表20.過去1年間の大麻の使用経験別にみた飲酒状況

	過去1年間の大麻使用経験								p-value
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		
	n=37.677 n	(%)	n=15 n	(%)	n=275 n	(%)	n=37.967 n	(%)	
生涯飲酒経験									<0.001
あり	5,521	(14.7)	14	(93.3)	36	(13.1)	5,571	(14.7)	
なし	32,060	(85.1)	1	(6.7)	180	(65.5)	32,241	(84.9)	
無回答・無効回答	96	(.3)	0	(.0)	59	(21.5)	155	(.4)	
初回飲酒年齢									<0.001
飲酒経験なし	32,060	(85.1)	1	(6.7)	180	(65.5)	32,241	(84.9)	
10歳以下	1,764	(4.7)	8	(53.3)	16	(5.8)	1,788	(4.7)	
11歳	328	(.9)	0	(.0)	1	(.4)	329	(.9)	
12歳	390	(1.0)	0	(.0)	2	(.7)	392	(1.0)	
13歳	313	(.8)	1	(6.7)	2	(.7)	316	(.8)	
14歳	206	(.5)	2	(13.3)	0	(.0)	208	(.5)	
15歳以上	53	(.1)	0	(.0)	1	(.4)	54	(.1)	
年齢は覚えていない	2,467	(6.5)	3	(20.0)	14	(5.1)	2,484	(6.5)	
無回答・無効回答	96	(.3)	0	(.0)	59	(21.5)	155	(.4)	
過去1年間の飲酒経験									<0.001
あり	2,108	(5.6)	13	(86.7)	18	(6.5)	2,139	(5.6)	
なし	35,455	(94.1)	1	(6.7)	197	(71.6)	35,653	(93.9)	
無回答・無効回答	114	(.3)	1	(6.7)	60	(21.8)	175	(.5)	
過去1年間の飲酒頻度									<0.001
1度も飲んでいない	35,455	(94.1)	1	(6.7)	197	(71.6)	35,653	(93.9)	
1年間で1回～数回	1,900	(5.0)	5	(33.3)	16	(5.8)	1,921	(5.1)	
月に数回	140	(.4)	2	(13.3)	1	(.4)	143	(.4)	
週に数回	40	(.1)	0	(.0)	1	(.4)	41	(.1)	
ほとんど毎日	28	(.1)	6	(40.0)	0	(.0)	34	(.1)	
無回答・無効回答	114	(.3)	1	(6.7)	60	(21.8)	175	(.5)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用経験									<0.001
あり	3,125	(8.3)	8	(53.3)	17	(6.2)	3,150	(8.3)	
なし	34,349	(91.2)	7	(46.7)	194	(70.5)	34,550	(91.0)	
無回答・無効回答	203	(.5)	0	(.0)	64	(23.3)	267	(.7)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用頻度									<0.001
1度も飲んでいない	34,349	(91.2)	7	(46.7)	194	(70.5)	34,550	(91.0)	
1年間で1回～数回	2,577	(6.8)	2	(13.3)	11	(4.0)	2,590	(6.8)	
月に数回	381	(1.0)	1	(6.7)	4	(1.5)	386	(1.0)	
週に数回	105	(.3)	2	(13.3)	2	(.7)	109	(.3)	
ほとんど毎日	62	(.2)	3	(20.0)	0	(.0)	65	(.2)	
無回答・無効回答	203	(.5)	0	(.0)	64	(23.3)	267	(.7)	
20歳未満の飲酒に対する考え									<0.001
飲むべきではないと思う	32,870	(87.2)	5	(33.3)	169	(61.5)	33,044	(87.0)	
時と場合に応じては構わない	3,686	(9.8)	2	(13.3)	28	(10.2)	3,716	(9.8)	
全然構わない	921	(2.4)	8	(53.3)	15	(5.5)	944	(2.5)	
無回答・無効回答	200	(.5)	0	(.0)	63	(22.9)	263	(.7)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表21.過去1年間の市販薬乱用経験別にみた飲酒状況

過去1年間の市販薬乱用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=36,915		n=724		n=328		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
生涯飲酒経験									<0.001
あり	5,331	(14.4)	188	(26.0)	52	(15.9)	5,571	(14.7)	
なし	31,504	(85.3)	532	(73.5)	205	(62.5)	32,241	(84.9)	
無回答・無効回答	80	(.2)	4	(.6)	71	(21.6)	155	(.4)	
初回飲酒年齢									<0.001
飲酒経験なし	31,504	(85.3)	532	(73.5)	205	(62.5)	32,241	(84.9)	
10歳以下	1,698	(4.6)	65	(9.0)	25	(7.6)	1,788	(4.7)	
11歳	308	(.8)	15	(2.1)	6	(1.8)	329	(.9)	
12歳	378	(1.0)	10	(1.4)	4	(1.2)	392	(1.0)	
13歳	300	(.8)	13	(1.8)	3	(.9)	316	(.8)	
14歳	198	(.5)	10	(1.4)	0	(.0)	208	(.5)	
15歳以上	48	(.1)	6	(.8)	0	(.0)	54	(.1)	
年齢は覚えていない	2,401	(6.5)	69	(9.5)	14	(4.3)	2,484	(6.5)	
無回答・無効回答	80	(.2)	4	(.6)	71	(21.6)	155	(.4)	
過去1年間の飲酒経験									<0.001
あり	2,011	(5.4)	109	(15.1)	19	(5.8)	2,139	(5.6)	
なし	34,808	(94.3)	611	(84.4)	234	(71.3)	35,653	(93.9)	
無回答・無効回答	96	(.3)	4	(.6)	75	(22.9)	175	(.5)	
過去1年間の飲酒頻度									<0.001
1度も飲んでいない	34,808	(94.3)	611	(84.4)	234	(71.3)	35,653	(93.9)	
1年間で1回～数回	1,824	(4.9)	81	(11.2)	16	(4.9)	1,921	(5.1)	
月に数回	128	(.3)	14	(1.9)	1	(.3)	143	(.4)	
週に数回	34	(.1)	5	(.7)	2	(.6)	41	(.1)	
ほとんど毎日	25	(.1)	9	(1.2)	0	(.0)	34	(.1)	
無回答・無効回答	96	(.3)	4	(.6)	75	(22.9)	175	(.5)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用経験									<0.001
あり	2,997	(8.1)	123	(17.0)	30	(9.1)	3,150	(8.3)	
なし	33,741	(91.4)	597	(82.5)	212	(64.6)	34,550	(91.0)	
無回答・無効回答	177	(.5)	4	(.6)	86	(26.2)	267	(.7)	
過去1年間のノンアルコール飲料使用頻度									<0.001
1度も飲んでいない	33,741	(91.4)	597	(82.5)	212	(64.6)	34,550	(91.0)	
1年間で1回～数回	2,490	(6.7)	78	(10.8)	22	(6.7)	2,590	(6.8)	
月に数回	356	(1.0)	24	(3.3)	6	(1.8)	386	(1.0)	
週に数回	97	(.3)	10	(1.4)	2	(.6)	109	(.3)	
ほとんど毎日	54	(.1)	11	(1.5)	0	(.0)	65	(.2)	
無回答・無効回答	177	(.5)	4	(.6)	86	(26.2)	267	(.7)	
20歳未満の飲酒に対する考え									<0.001
飲むべきではないと思う	32,295	(87.5)	548	(75.7)	201	(61.3)	33,044	(87.0)	
時と場合に応じては構わない	3,576	(9.7)	115	(15.9)	25	(7.6)	3,716	(9.8)	
全然構わない	881	(2.4)	54	(7.5)	9	(2.7)	944	(2.5)	
無回答・無効回答	163	(.4)	7	(1.0)	93	(28.4)	263	(.7)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表22.性別にみた喫煙状況

	性別										p-value
	男子		女子		その他・不明		無回答・ 無効回答		合計		
	n=19,007		n=18,462		n=397		n=101		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
生涯喫煙経験											<0.001
あり	346	(1.8)	163	(.9)	22	(5.5)	1	(1.0)	532	(1.4)	
なし	18,532	(97.5)	18,225	(98.7)	372	(93.7)	99	(98.0)	37,228	(98.1)	
無回答・無効回答	129	(.7)	74	(.4)	3	(.8)	1	(1.0)	207	(.5)	
初めて喫煙した年齢											<0.001
吸ったことがない	18,532	(97.5)	18,225	(98.7)	372	(93.7)	99	(98.0)	37,228	(98.1)	
10歳以下	68	(.4)	37	(.2)	7	(1.8)	1	(1.0)	113	(.3)	
11歳	17	(.1)	8	(.04)	0	(.0)	0	(.0)	25	(.1)	
12歳	42	(.2)	12	(.1)	2	(.5)	0	(.0)	56	(.1)	
13歳	51	(.3)	22	(.1)	2	(.5)	0	(.0)	75	(.2)	
14歳	51	(.3)	13	(.1)	4	(1.0)	0	(.0)	68	(.2)	
15歳以上	7	(.04)	7	(.04)	2	(.5)	0	(.0)	16	(.08)	
年齢は覚えていない	110	(.6)	64	(.3)	5	(1.3)	0	(.0)	179	(.5)	
無回答・無効回答	129	(.7)	74	(.4)	3	(.8)	1	(1.0)	207	(.5)	
過去1年間の喫煙経験											<0.001
あり	196	(1.0)	77	(.4)	18	(4.5)	0	(.0)	291	(.8)	
なし	18,726	(98.5)	18,335	(99.3)	378	(95.2)	100	(99.0)	37,539	(98.9)	
無回答・無効回答	85	(.4)	50	(.3)	1	(.3)	1	(1.0)	137	(.4)	
過去1年間の喫煙頻度											<0.001
一度も吸っていない	18,726	(98.5)	18,335	(99.3)	378	(95.2)	100	(99.0)	37,539	(98.9)	
1年間で1回～数回	136	(.7)	56	(.3)	5	(1.3)	0	(.0)	197	(.5)	
月に数回	29	(.2)	8	(.04)	3	(.8)	0	(.0)	40	(.1)	
週に数回	14	(.1)	7	(.04)	3	(.8)	0	(.0)	24	(.1)	
ほとんど毎日	17	(.1)	6	(.03)	7	(1.8)	0	(.0)	30	(.1)	
無回答・無効回答	85	(.4)	50	(.3)	1	(.3)	1	(1.0)	137	(.4)	
20歳未満の喫煙に対する考え											<0.001
吸うべきでないと思う	17,872	(94.0)	17,703	(95.9)	330	(83.1)	94	(93.1)	35,999	(94.8)	
少々なら構わない	619	(3.3)	479	(2.6)	30	(7.6)	2	(2.0)	1,130	(3.0)	
全然構わない	391	(2.1)	197	(1.1)	32	(8.1)	1	(1.0)	621	(1.6)	
無回答・無効回答	125	(.7)	83	(.4)	5	(1.3)	4	(4.0)	217	(.6)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表23. 学年別にみた喫煙状況

	学年				p-value
	1年生	2年生	3年生	合計	
	n=12,847 n (%)	n=12,726 n (%)	n=12,394 n (%)	n=37,967 n (%)	
生涯喫煙経験					0.498
あり	167 (1.3)	186 (1.5)	179 (1.4)	532 (1.4)	
なし	12,589 (98.0)	12,479 (98.1)	12,160 (98.1)	37,228 (98.1)	
無回答・無効回答	91 (.7)	61 (.5)	55 (.4)	207 (.5)	
初めて喫煙した年齢					<0.001
吸ったことがない	12,589 (98.0)	12,479 (98.1)	12,160 (98.1)	37,228 (98.1)	
10歳以下	42 (.3)	40 (.3)	31 (.3)	113 (.3)	
11歳	14 (.1)	9 (.1)	2 (.02)	25 (.1)	
12歳	34 (.3)	14 (.1)	8 (.1)	56 (.1)	
13歳	18 (.1)	39 (.3)	18 (.1)	75 (.2)	
14歳	2 (.02)	22 (.2)	44 (.4)	68 (.2)	
15歳以上	0 (.0)	0 (.0)	16 (.1)	16 (.12)	
年齢は覚えていない	57 (.4)	62 (.5)	60 (.5)	179 (.5)	
無回答・無効回答	91 (.7)	61 (.5)	55 (.4)	207 (.5)	
過去1年間の喫煙経験					0.861
あり	94 (.7)	100 (.8)	97 (.8)	291 (.8)	
なし	12,697 (98.8)	12,583 (98.9)	12,259 (98.9)	37,539 (98.9)	
無回答・無効回答	56 (.4)	43 (.3)	38 (.3)	137 (.4)	
過去1年間の喫煙頻度					0.080
一度も吸っていない	12,697 (98.8)	12,583 (98.9)	12,259 (98.9)	37,539 (98.9)	
1年間で1回～数回	66 (.5)	73 (.6)	58 (.5)	197 (.5)	
月に数回	18 (.1)	10 (.1)	12 (.1)	40 (.1)	
週に数回	6 (.05)	8 (.1)	10 (.1)	24 (.1)	
ほとんど毎日	4 (.03)	9 (.1)	17 (.1)	30 (.1)	
無回答・無効回答	56 (.4)	43 (.3)	38 (.3)	137 (.4)	
20歳未満の喫煙に対する考え					0.009
吸うべきでないと思う	12,179 (94.8)	12,072 (94.9)	11,748 (94.8)	35,999 (94.8)	
少々なら構わない	397 (3.1)	382 (3.0)	351 (2.8)	1,130 (3.0)	
全然構わない	173 (1.3)	212 (1.7)	236 (1.9)	621 (1.6)	
無回答・無効回答	98 (.8)	60 (.5)	59 (.5)	217 (.6)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表24.過去1年間の大麻の使用経験別にみた喫煙状況

過去1年間の大麻使用経験							p-value
非経験群	経験群	無回答・ 無効回答		合計			
n=37,677 n (%)	n=15 n (%)	n=275 n (%)	n=37,967 n (%)				
生涯喫煙経験							<0.001
あり	514 (1.4)	11 (73.3)	7 (2.5)	532 (1.4)			
なし	37,017 (98.2)	4 (26.7)	207 (75.3)	37,228 (98.1)			
無回答・無効回答	146 (.4)	0 (.0)	61 (22.2)	207 (.5)			
初めて喫煙した年齢							<0.001
吸ったことがない	37,017 (98.2)	4 (26.7)	207 (75.3)	37,228 (98.1)			
10歳以下	107 (.3)	5 (33.3)	1 (.4)	113 (.3)			
11歳	23 (.1)	1 (6.7)	1 (.4)	25 (.1)			
12歳	53 (.1)	2 (13.3)	1 (.4)	56 (.1)			
13歳	74 (.2)	0 (.0)	1 (.4)	75 (.2)			
14歳	65 (.2)	2 (13.3)	1 (.4)	68 (.2)			
15歳以上	16 (.04)	0 (.0)	0 (.0)	16 (.04)			
年齢は覚えていない	176 (.5)	1 (6.7)	2 (.7)	179 (.5)			
無回答・無効回答	146 (.4)	0 (.0)	61 (22.2)	207 (.5)			
過去1年間の喫煙経験							<0.001
あり	276 (.7)	11 (73.3)	4 (1.5)	291 (.8)			
なし	37,324 (99.1)	4 (26.7)	211 (76.7)	37,539 (98.9)			
無回答・無効回答	77 (.2)	0 (.0)	60 (21.8)	137 (.4)			
過去1年間の喫煙頻度							<0.001
一度も吸っていない	37,324 (99.1)	4 (26.7)	211 (76.7)	37,539 (98.9)			
1年間で1回～数回	191 (.5)	3 (20.0)	3 (1.1)	197 (.5)			
月に数回	39 (.1)	1 (6.7)	0 (.0)	40 (.1)			
週に数回	22 (.1)	1 (6.7)	1 (.4)	24 (.1)			
ほとんど毎日	24 (.1)	6 (40.0)	0 (.0)	30 (.1)			
無回答・無効回答	77 (.2)	0 (.0)	60 (21.8)	137 (.4)			
20歳未満の喫煙に対する考え							<0.001
吸うべきでないと思う	35,805 (95.0)	5 (33.3)	189 (68.7)	35,999 (94.8)			
少々なら構わない	1,117 (3.0)	1 (6.7)	12 (4.4)	1,130 (3.0)			
全然構わない	601 (1.6)	9 (60.0)	11 (4.0)	621 (1.6)			
無回答・無効回答	154 (.4)	0 (.0)	63 (22.9)	217 (.6)			

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表25.過去1年間の市販薬乱用経験別にみた喫煙状況

過去1年間の市販薬乱用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=36,915		n=724		n=328		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
生涯喫煙経験									<0.001
あり	487	(1.3)	37	(5.1)	8	(2.4)	532	(1.4)	
なし	36,327	(98.4)	684	(94.5)	217	(66.2)	37,228	(98.1)	
無回答・無効回答	101	(.3)	3	(.4)	103	(31.4)	207	(.5)	
初めて喫煙した年齢									<0.001
吸ったことがない	36,327	(98.4)	684	(94.5)	217	(66.2)	37,228	(98.1)	
10歳以下	100	(.3)	11	(1.5)	2	(.6)	113	(.3)	
11歳	23	(.1)	2	(.3)	0	(.0)	25	(.1)	
12歳	50	(.1)	5	(.7)	1	(.3)	56	(.1)	
13歳	71	(.2)	3	(.4)	1	(.3)	75	(.2)	
14歳	64	(.2)	4	(.6)	0	(.0)	68	(.2)	
15歳以上	12	(.03)	4	(.6)	0	(.0)	16	(.04)	
年齢は覚えていない	167	(.5)	8	(1.1)	4	(1.2)	179	(.5)	
無回答・無効回答	101	(.3)	3	(.4)	103	(31.4)	207	(.5)	
過去1年間の喫煙経験									<0.001
あり	260	(.7)	27	(3.7)	4	(1.2)	291	(.8)	
なし	36,622	(99.2)	695	(96.0)	222	(67.7)	37,539	(98.9)	
無回答・無効回答	33	(.1)	2	(.3)	102	(31.1)	137	(.4)	
過去1年間の喫煙頻度									<0.001
一度も吸っていない	36,622	(99.2)	695	(96.0)	222	(67.7)	37,539	(98.9)	
1年間で1回～数回	185	(.5)	10	(1.4)	2	(.6)	197	(.5)	
月に数回	36	(.1)	3	(.4)	1	(.3)	40	(.1)	
週に数回	21	(.1)	3	(.4)	0	(.0)	24	(.1)	
ほとんど毎日	18	(.0)	11	(1.5)	1	(.3)	30	(.1)	
無回答・無効回答	33	(.1)	2	(.3)	102	(31.1)	137	(.4)	
20歳未満の喫煙に対する考え									<0.001
吸うべきでないと思う	35,189	(95.3)	617	(85.2)	193	(58.8)	35,999	(94.8)	
少々なら構わない	1,060	(2.9)	61	(8.4)	9	(2.7)	1,130	(3.0)	
全然構わない	574	(1.6)	41	(5.7)	6	(1.8)	621	(1.6)	
無回答・無効回答	92	(.2)	5	(.7)	120	(36.6)	217	(.6)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表26.性別にみた違法薬物の生涯経験・1年経験・誘われた経験

	性別										p-value
	男子		女子		その他・不明		無回答・無効回答		合計		
	n=19,007		n=18,462		n=397		n=101		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
違法薬物経験（生涯）											
大麻	14	(.1)	7	(.04)	8	(2.0)	0	(.0)	29	(.1)	<0.001
有機溶剤	30	(.2)	13	(.1)	8	(2.0)	0	(.0)	51	(.1)	<0.001
覚醒剤	12	(.1)	6	(.03)	7	(1.8)	0	(.0)	25	(.1)	<0.001
危険ドラッグ	15	(.1)	3	(.02)	7	(1.8)	0	(.0)	25	(.1)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	23	(.1)	10	(.1)	9	(2.3)	0	(.0)	42	(.1)	<0.001
いずれかの違法薬物	43	(.2)	19	(.1)	10	(2.5)	0	(.0)	72	(.2)	<0.001
違法薬物経験（過去1年間）											
大麻	9	(.05)	3	(.02)	3	(.76)	0	(.00)	15	(.04)	<0.001
有機溶剤	16	(.08)	9	(.05)	5	(1.26)	0	(.00)	30	(.08)	<0.001
覚醒剤	7	(.04)	2	(.01)	3	(.76)	0	(.00)	12	(.03)	<0.001
危険ドラッグ	8	(.04)	1	(.01)	3	(.76)	0	(.00)	12	(.03)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	14	(.07)	4	(.02)	4	(1.01)	0	(.00)	22	(.06)	<0.001
いずれかの違法薬物	26	(.14)	12	(.06)	5	(1.26)	0	(.00)	43	(.11)	<0.001
違法薬物の誘われ経験											
大麻	189	(1.0)	102	(.6)	15	(3.8)	2	(2.0)	308	(.8)	<0.001
有機溶剤	166	(.9)	83	(.4)	10	(2.5)	2	(2.0)	261	(.7)	<0.001
覚醒剤	172	(.9)	92	(.5)	10	(2.5)	3	(3.0)	277	(.7)	<0.001
危険ドラッグ	161	(.8)	86	(.5)	10	(2.5)	1	(1.0)	258	(.7)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	222	(1.2)	113	(.6)	18	(4.5)	4	(4.0)	357	(.9)	<0.001
いずれかの違法薬物	238	(1.3)	116	(.6)	18	(4.5)	5	(5.0)	377	(1.0)	<0.001

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

違法薬物の過去一年間の経験率については、小数点第2位まで記載した。

表27.学年別にみた違法薬物の生涯経験・1年経験・誘われた経験

	学年								p-value
	1年生		2年生		3年生		合計		
	n=12,847		n=12,726		n=12,394		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
違法薬物経験（生涯）									
大麻	11	(.1)	9	(.1)	9	(.1)	29	(.1)	0.895
有機溶剤	20	(.2)	19	(.1)	12	(.1)	51	(.1)	0.375
覚醒剤	9	(.1)	8	(.1)	8	(.1)	25	(.1)	0.972
危険ドラッグ	10	(.1)	7	(.1)	8	(.1)	25	(.1)	0.773
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	17	(.1)	15	(.1)	10	(.1)	42	(.1)	0.443
いずれかの違法薬物	29	(.2)	29	(.2)	14	(.1)	72	(.2)	0.057
違法薬物経験（過去1年間）									
大麻	5	(.04)	4	(.03)	6	(.05)	15	(.12)	0.795
有機溶剤	10	(.1)	13	(.1)	7	(.1)	30	(.1)	0.435
覚醒剤	4	(.03)	4	(.03)	4	(.03)	12	(.09)	0.999
危険ドラッグ	4	(.03)	3	(.02)	5	(.04)	12	(.09)	0.757
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	9	(.1)	6	(.05)	7	(.1)	22	(.1)	0.745
いずれかの違法薬物	16	(.1)	17	(.1)	10	(.1)	43	(.1)	0.410
違法薬物の誘われ経験									
大麻	97	(.8)	100	(.8)	111	(.9)	308	(.8)	0.434
有機溶剤	86	(.7)	89	(.7)	86	(.7)	261	(.7)	0.957
覚醒剤	93	(.7)	90	(.7)	94	(.8)	277	(.7)	0.892
危険ドラッグ	90	(.7)	82	(.6)	86	(.7)	258	(.7)	0.836
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	119	(.9)	114	(.9)	124	(1.0)	357	(.9)	0.686
いずれかの違法薬物	124	(1.0)	123	(1.0)	130	(1.0)	377	(1.0)	0.757

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表28.過去1年間の大麻の使用経験別にみた薬物乱用の生涯経験・1年経験・誘われた経験

過去1年間の大麻使用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=37,677		n=15		n=275		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
違法薬物経験(生涯)									
大麻	14	(.04)	15	(100.0)	0	(.0)	29	(.1)	<0.001
有機溶剤	42	(.1)	9	(60.0)	0	(.0)	51	(.1)	<0.001
覚醒剤	16	(.04)	9	(60.0)	0	(.0)	25	(.1)	<0.001
危険ドラッグ	16	(.04)	9	(60.0)	0	(.0)	25	(.1)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	27	(.1)	15	(100.0)	0	(.0)	42	(.1)	<0.001
いずれかの違法薬物	57	(.2)	15	(100.0)	0	(.0)	72	(.2)	<0.001
違法薬物経験(過去1年間)									
有機溶剤	22	(.1)	8	(53.3)	0	(.0)	30	(.1)	<0.001
覚醒剤	4	(.01)	8	(53.3)	0	(.0)	12	(.0)	<0.001
危険ドラッグ	3	(.01)	9	(60.0)	0	(.0)	12	(.0)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	7	(.02)	15	(100.0)	0	(.0)	22	(.1)	<0.001
いずれかの違法薬物	28	(.1)	15	(100.0)	0	(.0)	43	(.1)	<0.001
違法薬物の誘われ経験									
大麻	298	(.8)	8	(53.3)	2	(.7)	308	(.8)	<0.001
有機溶剤	254	(.7)	6	(40.0)	1	(.4)	261	(.7)	<0.001
覚醒剤	270	(.7)	6	(40.0)	1	(.4)	277	(.7)	<0.001
危険ドラッグ	250	(.7)	7	(46.7)	1	(.4)	258	(.7)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	345	(.9)	10	(66.7)	2	(.7)	357	(.9)	<0.001
いずれかの違法薬物	365	(1.0)	10	(66.7)	2	(.7)	377	(1.0)	<0.001

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表29.過去1年間の市販薬乱用経験別にみた薬物乱用の生涯経験・1年経験・誘われた経験

過去1年間の市販薬乱用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=36,915		n=724		n=328		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
違法薬物経験（生涯）									
大麻	18	(.05)	11	(1.5)	0	(.0)	29	(.1)	<0.001
有機溶剤	36	(.1)	12	(1.7)	3	(.9)	51	(.1)	<0.001
覚醒剤	15	(.04)	10	(1.4)	0	(.0)	25	(.1)	<0.001
危険ドラッグ	16	(.04)	9	(1.2)	0	(.0)	25	(.1)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	28	(.1)	14	(1.9)	0	(.0)	42	(.1)	<0.001
いずれかの違法薬物	52	(.1)	17	(2.3)	3	(.9)	72	(.2)	<0.001
違法薬物経験（過去1年間）									
大麻	8	(.02)	7	(1.0)	0	(.0)	15	(.04)	<0.001
有機溶剤	23	(.1)	7	(1.0)	0	(.0)	30	(.1)	<0.001
覚醒剤	6	(.02)	6	(.8)	0	(.0)	12	(.03)	<0.001
危険ドラッグ	6	(.02)	6	(.8)	0	(.0)	12	(.03)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	12	(.03)	10	(1.4)	0	(.0)	22	(.1)	<0.001
いずれかの違法薬物	31	(.1)	12	(1.7)	0	(.0)	43	(.1)	<0.001
違法薬物の誘われ経験									
大麻	281	(.8)	26	(3.6)	1	(.3)	308	(.8)	<0.001
有機溶剤	241	(.7)	19	(2.6)	1	(.3)	261	(.7)	<0.001
覚醒剤	253	(.7)	22	(3.0)	2	(.6)	277	(.7)	<0.001
危険ドラッグ	235	(.6)	21	(2.9)	2	(.6)	258	(.7)	<0.001
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ	322	(.9)	32	(4.4)	3	(.9)	357	(.9)	<0.001
いずれかの違法薬物	341	(.9)	33	(4.6)	3	(.9)	377	(1.0)	<0.001

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表30.性別にみた薬物の入手可能性・薬物乱用に対する考え

	性別										p-value
	男子		女子		その他・不明		無回答・無効回答		合計		
	n=19,007		n=18,462		n=397		n=101		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物の入手可能性											
＜大麻＞											<0.001
絶対不可能	14,650	(77.1)	15,774	(85.4)	251	(63.2)	70	(69.3)	30,745	(81.0)	
ほとんど不可能	2,607	(13.7)	1,613	(8.7)	64	(16.1)	16	(15.8)	4,300	(11.3)	
なんとか手に入る	974	(5.1)	562	(3.0)	34	(8.6)	1	(1.0)	1,571	(4.1)	
簡単に手に入る	414	(2.2)	169	(.9)	39	(9.8)	3	(3.0)	625	(1.6)	
無回答・無効回答	362	(1.9)	344	(1.9)	9	(2.3)	11	(10.9)	726	(1.9)	
＜有機溶剤＞											<0.001
絶対不可能	14,305	(75.3)	15,654	(84.8)	243	(61.2)	67	(66.3)	30,269	(79.7)	
ほとんど不可能	2,622	(13.8)	1,650	(8.9)	63	(15.9)	15	(14.9)	4,350	(11.5)	
なんとか手に入る	1,052	(5.5)	575	(3.1)	41	(10.3)	3	(3.0)	1,671	(4.4)	
簡単に手に入る	645	(3.4)	233	(1.3)	39	(9.8)	5	(5.0)	922	(2.4)	
無回答・無効回答	383	(2.0)	350	(1.9)	11	(2.8)	11	(10.9)	755	(2.0)	
＜覚醒剤＞											<0.001
絶対不可能	14,719	(77.4)	15,754	(85.3)	253	(63.7)	69	(68.3)	30,795	(81.1)	
ほとんど不可能	2,624	(13.8)	1,634	(8.9)	63	(15.9)	15	(14.9)	4,336	(11.4)	
なんとか手に入る	916	(4.8)	553	(3.0)	40	(10.1)	3	(3.0)	1,512	(4.0)	
簡単に手に入る	367	(1.9)	170	(.9)	30	(7.6)	3	(3.0)	570	(1.5)	
無回答・無効回答	381	(2.0)	351	(1.9)	11	(2.8)	11	(10.9)	754	(2.0)	
＜危険ドラッグ＞											<0.001
絶対不可能	14,764	(77.7)	15,831	(85.7)	255	(64.2)	71	(70.3)	30,921	(81.4)	
ほとんど不可能	2,655	(14.0)	1,643	(8.9)	69	(17.4)	14	(13.9)	4,381	(11.5)	
なんとか手に入る	847	(4.5)	489	(2.6)	32	(8.1)	2	(2.0)	1,370	(3.6)	
簡単に手に入る	350	(1.8)	145	(.8)	30	(7.6)	3	(3.0)	528	(1.4)	
無回答・無効回答	391	(2.1)	354	(1.9)	11	(2.8)	11	(10.9)	767	(2.0)	
薬物乱用に対する考え											
＜大麻＞											<0.001
使うべきではない	18,338	(96.5)	18,143	(98.3)	351	(88.4)	95	(94.1)	36,927	(97.3)	
少々なら構わない	369	(1.9)	158	(.9)	24	(6.0)	2	(2.0)	553	(1.5)	
まったく構わない	154	(.8)	52	(.3)	18	(4.5)	2	(2.0)	226	(.6)	
無回答・無効回答	146	(.8)	109	(.6)	4	(1.0)	2	(2.0)	261	(.7)	
＜有機溶剤＞											<0.001
使うべきではない	18,491	(97.3)	18,162	(98.4)	357	(89.9)	98	(97.0)	37,108	(97.7)	
少々なら構わない	231	(1.2)	135	(.7)	20	(5.0)	0	(.0)	386	(1.0)	
まったく構わない	128	(.7)	47	(.3)	15	(3.8)	1	(1.0)	191	(.5)	
無回答・無効回答	157	(.8)	118	(.6)	5	(1.3)	2	(2.0)	282	(.7)	
＜覚醒剤＞											<0.001
使うべきではない	18,465	(97.1)	18,115	(98.1)	356	(89.7)	96	(95.0)	37,032	(97.5)	
少々なら構わない	254	(1.3)	178	(1.0)	23	(5.8)	1	(1.0)	456	(1.2)	
まったく構わない	132	(.7)	46	(.2)	13	(3.3)	1	(1.0)	192	(.5)	
無回答・無効回答	156	(.8)	123	(.7)	5	(1.3)	3	(3.0)	287	(.8)	
＜危険ドラッグ＞											<0.001
使うべきではない	18,540	(97.5)	18,180	(98.5)	358	(90.2)	97	(96.0)	37,175	(97.9)	
少々なら構わない	179	(.9)	107	(.6)	20	(5.0)	0	(.0)	306	(.8)	
まったく構わない	122	(.6)	46	(.2)	13	(3.3)	1	(1.0)	182	(.5)	
無回答・無効回答	166	(.9)	129	(.7)	6	(1.5)	3	(3.0)	304	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表31.学年別にみた薬物の入手可能性・薬物乱用に対する考え

	学年								p-value
	1年生		2年生		3年生		合計		
	n=12,847		n=12,726		n=12,394		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物の入手可能性									
<大麻>									
絶対不可能	10,399	(80.9)	10,165	(79.9)	10,181	(82.1)	30,745	(81.0)	<0.001
ほとんど不可能	1,488	(11.6)	1,528	(12.0)	1,284	(10.4)	4,300	(11.3)	
なんとか手に入る	512	(4.0)	571	(4.5)	488	(3.9)	1,571	(4.1)	
簡単に手に入る	176	(1.4)	245	(1.9)	204	(1.6)	625	(1.6)	
無回答・無効回答	272	(2.1)	217	(1.7)	237	(1.9)	726	(1.9)	
<有機溶剤>									
絶対不可能	10,233	(79.7)	9,995	(78.5)	10,041	(81.0)	30,269	(79.7)	<0.001
ほとんど不可能	1,531	(11.9)	1,532	(12.0)	1,287	(10.4)	4,350	(11.5)	
なんとか手に入る	547	(4.3)	599	(4.7)	525	(4.2)	1,671	(4.4)	
簡単に手に入る	251	(2.0)	371	(2.9)	300	(2.4)	922	(2.4)	
無回答・無効回答	285	(2.2)	229	(1.8)	241	(1.9)	755	(2.0)	
<覚醒剤>									
絶対不可能	10,381	(80.8)	10,184	(80.0)	10,230	(82.5)	30,795	(81.1)	<0.001
ほとんど不可能	1,500	(11.7)	1,549	(12.2)	1,287	(10.4)	4,336	(11.4)	
なんとか手に入る	505	(3.9)	538	(4.2)	469	(3.8)	1,512	(4.0)	
簡単に手に入る	177	(1.4)	224	(1.8)	169	(1.4)	570	(1.5)	
無回答・無効回答	284	(2.2)	231	(1.8)	239	(1.9)	754	(2.0)	
<危険ドラッグ>									
絶対不可能	10,480	(81.6)	10,191	(80.1)	10,250	(82.7)	30,921	(81.4)	<0.001
ほとんど不可能	1,490	(11.6)	1,586	(12.5)	1,305	(10.5)	4,381	(11.5)	
なんとか手に入る	435	(3.4)	499	(3.9)	436	(3.5)	1,370	(3.6)	
簡単に手に入る	153	(1.2)	214	(1.7)	161	(1.3)	528	(1.4)	
無回答・無効回答	289	(2.2)	236	(1.9)	242	(2.0)	767	(2.0)	
薬物乱用に対する考え									
<大麻>									
使うべきではない	12,504	(97.3)	12,372	(97.2)	12,051	(97.2)	36,927	(97.3)	0.050
少々なら構わない	161	(1.3)	203	(1.6)	189	(1.5)	553	(1.5)	
まったく構わない	84	(.7)	62	(.5)	80	(.6)	226	(.6)	
無回答・無効回答	98	(.8)	89	(.7)	74	(.6)	261	(.7)	
<有機溶剤>									
使うべきではない	12,536	(97.6)	12,438	(97.7)	12,134	(97.9)	37,108	(97.7)	0.319
少々なら構わない	134	(1.0)	138	(1.1)	114	(.9)	386	(1.0)	
まったく構わない	70	(.5)	53	(.4)	68	(.5)	191	(.5)	
無回答・無効回答	107	(.8)	97	(.8)	78	(.6)	282	(.7)	
<覚醒剤>									
使うべきではない	12,502	(97.3)	12,401	(97.4)	12,129	(97.9)	37,032	(97.5)	0.018
少々なら構わない	165	(1.3)	172	(1.4)	119	(1.0)	456	(1.2)	
まったく構わない	74	(.6)	55	(.4)	63	(.5)	192	(.5)	
無回答・無効回答	106	(.8)	98	(.8)	83	(.7)	287	(.8)	
<危険ドラッグ>									
使うべきではない	12,562	(97.8)	12,453	(97.9)	12,160	(98.1)	37,175	(97.9)	0.258
少々なら構わない	108	(.8)	114	(.9)	84	(.7)	306	(.8)	
まったく構わない	64	(.5)	54	(.4)	64	(.5)	182	(.5)	
無回答・無効回答	113	(.9)	105	(.8)	86	(.7)	304	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が 1.0 以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表32.過去1年間の大麻の使用経験別にみた薬物の入手可能性・薬物乱用に対する考え

過去1年間の大麻使用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=37,677		n=15		n=275		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物の入手可能性									
<大麻>									
絶対不可能	30,723	(81.5)	1	(6.7)	21	(7.6)	30,745	(81.0)	<0.001
ほとんど不可能	4,292	(11.4)	1	(6.7)	7	(2.5)	4,300	(11.3)	
なんとか手に入る	1,566	(4.2)	3	(20.0)	2	(.7)	1,571	(4.1)	
簡単に手に入る	614	(1.6)	10	(66.7)	1	(.4)	625	(1.6)	
無回答・無効回答	482	(1.3)	0	(.0)	244	(88.7)	726	(1.9)	
<有機溶剤>									
絶対不可能	30,244	(80.3)	3	(20.0)	22	(8.0)	30,269	(79.7)	<0.001
ほとんど不可能	4,348	(11.5)	0	(.0)	2	(.7)	4,350	(11.5)	
なんとか手に入る	1,663	(4.4)	4	(26.7)	4	(1.5)	1,671	(4.4)	
簡単に手に入る	912	(2.4)	8	(53.3)	2	(.7)	922	(2.4)	
無回答・無効回答	510	(1.4)	0	(.0)	245	(89.1)	755	(2.0)	
<覚醒剤>									
絶対不可能	30,769	(81.7)	4	(26.7)	22	(8.0)	30,795	(81.1)	<0.001
ほとんど不可能	4,331	(11.5)	0	(.0)	5	(1.8)	4,336	(11.4)	
なんとか手に入る	1,505	(4.0)	4	(26.7)	3	(1.1)	1,512	(4.0)	
簡単に手に入る	562	(1.5)	7	(46.7)	1	(.4)	570	(1.5)	
無回答・無効回答	510	(1.4)	0	(.0)	244	(88.7)	754	(2.0)	
<危険ドラッグ>									
絶対不可能	30,898	(82.0)	3	(20.0)	20	(7.3)	30,921	(81.4)	<0.001
ほとんど不可能	4,374	(11.6)	2	(13.3)	5	(1.8)	4,381	(11.5)	
なんとか手に入る	1,362	(3.6)	4	(26.7)	4	(1.5)	1,370	(3.6)	
簡単に手に入る	521	(1.4)	6	(40.0)	1	(.4)	528	(1.4)	
無回答・無効回答	522	(1.4)	0	(.0)	245	(89.1)	767	(2.0)	
薬物乱用に対する考え									
<大麻>									
使うべきではない	36,876	(97.9)	4	(26.7)	47	(17.1)	36,927	(97.3)	<0.001
少々なら構わない	544	(1.4)	6	(40.0)	3	(1.1)	553	(1.5)	
まったく構わない	217	(.6)	5	(33.3)	4	(1.5)	226	(.6)	
無回答・無効回答	40	(.1)	0	(.0)	221	(80.4)	261	(.7)	
<有機溶剤>									
使うべきではない	37,055	(98.3)	4	(26.7)	49	(17.8)	37,108	(97.7)	<0.001
少々なら構わない	379	(1.0)	5	(33.3)	2	(.7)	386	(1.0)	
まったく構わない	184	(.5)	5	(33.3)	2	(.7)	191	(.5)	
無回答・無効回答	59	(.2)	1	(6.7)	222	(80.7)	282	(.7)	
<覚醒剤>									
使うべきではない	36,977	(98.1)	6	(40.0)	49	(17.8)	37,032	(97.5)	<0.001
少々なら構わない	449	(1.2)	5	(33.3)	2	(.7)	456	(1.2)	
まったく構わない	186	(.5)	4	(26.7)	2	(.7)	192	(.5)	
無回答・無効回答	65	(.2)	0	(.0)	222	(80.7)	287	(.8)	
<危険ドラッグ>									
使うべきではない	37,120	(98.5)	5	(33.3)	50	(18.2)	37,175	(97.9)	<0.001
少々なら構わない	300	(.8)	5	(33.3)	1	(.4)	306	(.8)	
まったく構わない	175	(.5)	5	(33.3)	2	(.7)	182	(.5)	
無回答・無効回答	82	(.2)	0	(.0)	222	(80.7)	304	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表33.過去1年間の市販薬乱用経験別にみた薬物の入手可能性・薬物乱用に対する考え

過去1年間の市販薬乱用経験									
非経験群			経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
n=36,915			n=724		n=328		n=37,967		
n	(%)		n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物の入手可能性									
<大麻>									<0.001
絶対不可能	30,006	(81.3)	537	(74.2)	202	(61.6)	30,745	(81.0)	
ほとんど不可能	4,186	(11.3)	88	(12.2)	26	(7.9)	4,300	(11.3)	
なんとか手に入る	1,502	(4.1)	57	(7.9)	12	(3.7)	1,571	(4.1)	
簡単に手に入る	590	(1.6)	29	(4.0)	6	(1.8)	625	(1.6)	
無回答・無効回答	631	(1.7)	13	(1.8)	82	(25.0)	726	(1.9)	
<有機溶剤>									<0.001
絶対不可能	29,546	(80.0)	525	(72.5)	198	(60.4)	30,269	(79.7)	
ほとんど不可能	4,230	(11.5)	93	(12.8)	27	(8.2)	4,350	(11.5)	
なんとか手に入る	1,607	(4.4)	52	(7.2)	12	(3.7)	1,671	(4.4)	
簡単に手に入る	877	(2.4)	37	(5.1)	8	(2.4)	922	(2.4)	
無回答・無効回答	655	(1.8)	17	(2.3)	83	(25.3)	755	(2.0)	
<覚醒剤>									<0.001
絶対不可能	30,065	(81.4)	530	(73.2)	200	(61.0)	30,795	(81.1)	
ほとんど不可能	4,221	(11.4)	87	(12.0)	28	(8.5)	4,336	(11.4)	
なんとか手に入る	1,439	(3.9)	59	(8.1)	14	(4.3)	1,512	(4.0)	
簡単に手に入る	534	(1.4)	32	(4.4)	4	(1.2)	570	(1.5)	
無回答・無効回答	656	(1.8)	16	(2.2)	82	(25.0)	754	(2.0)	
<危険ドラッグ>									<0.001
絶対不可能	30,178	(81.7)	540	(74.6)	203	(61.9)	30,921	(81.4)	
ほとんど不可能	4,271	(11.6)	85	(11.7)	25	(7.6)	4,381	(11.5)	
なんとか手に入る	1,306	(3.5)	52	(7.2)	12	(3.7)	1,370	(3.6)	
簡単に手に入る	492	(1.3)	30	(4.1)	6	(1.8)	528	(1.4)	
無回答・無効回答	668	(1.8)	17	(2.3)	82	(25.0)	767	(2.0)	
薬物乱用に対する考え									
<大麻>									<0.001
使うべきではない	36,001	(97.5)	674	(93.1)	252	(76.8)	36,927	(97.3)	
少々なら構わない	521	(1.4)	27	(3.7)	5	(1.5)	553	(1.5)	
まったく構わない	207	(.6)	17	(2.3)	2	(.6)	226	(.6)	
無回答・無効回答	186	(.5)	6	(.8)	69	(21.0)	261	(.7)	
<有機溶剤>									<0.001
使うべきではない	36,177	(98.0)	679	(93.8)	252	(76.8)	37,108	(97.7)	
少々なら構わない	360	(1.0)	19	(2.6)	7	(2.1)	386	(1.0)	
まったく構わない	174	(.5)	17	(2.3)	0	(.0)	191	(.5)	
無回答・無効回答	204	(.6)	9	(1.2)	69	(21.0)	282	(.7)	
<覚醒剤>									<0.001
使うべきではない	36,112	(97.8)	667	(92.1)	253	(77.1)	37,032	(97.5)	
少々なら構わない	421	(1.1)	30	(4.1)	5	(1.5)	456	(1.2)	
まったく構わない	173	(.5)	18	(2.5)	1	(.3)	192	(.5)	
無回答・無効回答	209	(.6)	9	(1.2)	69	(21.0)	287	(.8)	
<危険ドラッグ>									<0.001
使うべきではない	36,245	(98.2)	676	(93.4)	254	(77.4)	37,175	(97.9)	
少々なら構わない	277	(.8)	24	(3.3)	5	(1.5)	306	(.8)	
まったく構わない	167	(.5)	15	(2.1)	0	(.0)	182	(.5)	
無回答・無効回答	226	(.6)	9	(1.2)	69	(21.0)	304	(.8)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が 1.0 以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表34.性別にみた薬物乱用の害知識の周知状況・誘いを断る自信

	性別										p-value
	男子		女子		その他・不明		無回答・無効回答		合計		
	n=19,007		n=18,462		n=397		n=101		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物依存症は精神疾患(心の病気)であること											<0.001
知っている	16,458	(86.6)	16,786	(90.9)	340	(85.6)	87	(86.1)	33,671	(88.7)	
知らない	2,264	(11.9)	1,480	(8.0)	52	(13.1)	13	(12.9)	3,809	(10.0)	
無回答・無効回答	285	(1.5)	196	(1.1)	5	(1.3)	1	(1.0)	487	(1.3)	
薬物乱用によるフラッシュバック											<0.001
知っている	14,398	(75.8)	14,987	(81.2)	326	(82.1)	81	(80.2)	29,792	(78.5)	
知らない	4,327	(22.8)	3,287	(17.8)	68	(17.1)	19	(18.8)	7,701	(20.3)	
無回答・無効回答	282	(1.5)	188	(1.0)	3	(.8)	1	(1.0)	474	(1.2)	
大麻使用の認知・運動機能低下による交通事故の危険性											<0.001
知っている	15,782	(83.0)	16,022	(86.8)	343	(86.4)	85	(84.2)	32,232	(84.9)	
知らない	2,941	(15.5)	2,227	(12.1)	50	(12.6)	15	(14.9)	5,233	(13.8)	
無回答・無効回答	284	(1.5)	213	(1.2)	4	(1.0)	1	(1.0)	502	(1.3)	
大麻の長期使用による記憶障害											<0.001
知っている	14,342	(75.5)	14,578	(79.0)	320	(80.6)	77	(76.2)	29,317	(77.2)	
知らない	4,382	(23.1)	3,679	(19.9)	74	(18.6)	23	(22.8)	8,158	(21.5)	
無回答・無効回答	283	(1.5)	205	(1.1)	3	(.8)	1	(1.0)	492	(1.3)	
18歳未満からの大麻使用で依存症になる危険性											<0.001
知っている	13,118	(69.0)	13,578	(73.5)	293	(73.8)	70	(69.3)	27,059	(71.3)	
知らない	5,609	(29.5)	4,671	(25.3)	101	(25.4)	30	(29.7)	10,411	(27.4)	
無回答・無効回答	280	(1.5)	213	(1.2)	3	(.8)	1	(1.0)	497	(1.3)	
大麻の繰り返し使用による学業への悪影響											<0.001
知っている	14,786	(77.8)	15,159	(82.1)	329	(82.9)	79	(78.2)	30,353	(79.9)	
知らない	3,921	(20.6)	3,096	(16.8)	64	(16.1)	20	(19.8)	7,101	(18.7)	
無回答・無効回答	300	(1.6)	207	(1.1)	4	(1.0)	2	(2.0)	513	(1.4)	
市販薬の乱用による薬物依存症											<0.001
知っている	14,242	(74.9)	14,439	(78.2)	310	(78.1)	80	(79.2)	29,071	(76.6)	
知らない	4,453	(23.4)	3,798	(20.6)	82	(20.7)	19	(18.8)	8,352	(22.0)	
無回答・無効回答	312	(1.6)	225	(1.2)	5	(1.3)	2	(2.0)	544	(1.4)	
市販薬の過量服薬による急性中毒死											<0.001
知っている	14,417	(75.9)	14,938	(80.9)	331	(83.4)	81	(80.2)	29,767	(78.4)	
知らない	4,307	(22.7)	3,312	(17.9)	62	(15.6)	18	(17.8)	7,699	(20.3)	
無回答・無効回答	283	(1.5)	212	(1.1)	4	(1.0)	2	(2.0)	501	(1.3)	
薬物乱用の誘いを断る自信											<0.001
大変ある	14,615	(76.9)	13,944	(75.5)	234	(58.9)	63	(62.4)	28,856	(76.0)	
どちらかといえばある	2,952	(15.5)	3,424	(18.5)	101	(25.4)	22	(21.8)	6,499	(17.1)	
どちらかといえない	423	(2.2)	520	(2.8)	27	(6.8)	7	(6.9)	977	(2.6)	
まったくない	735	(3.9)	365	(2.0)	30	(7.6)	4	(4.0)	1,134	(3.0)	
無回答・無効回答	282	(1.5)	209	(1.1)	5	(1.3)	5	(5.0)	501	(1.3)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表35.学年別にみた薬物乱用の害知識の周知状況・誘いを断る自信

	学年				p-value
	1年生	2年生	3年生	合計	
	n=12,847 n (%)	n=12,726 n (%)	n=12,394 n (%)	n=37,967 n (%)	
薬物依存症は精神疾患(心の病気)であること					<0.001
知っている	11,156 (86.8)	11,294 (88.7)	11,221 (90.5)	33,671 (88.7)	
知らない	1,538 (12.0)	1,283 (10.1)	988 (8.0)	3,809 (10.0)	
無回答・無効回答	153 (1.2)	149 (1.2)	185 (1.5)	487 (1.3)	
薬物乱用によるフラッシュバック					<0.001
知っている	9,087 (70.7)	10,045 (78.9)	10,660 (86.0)	29,792 (78.5)	
知らない	3,602 (28.0)	2,530 (19.9)	1,569 (12.7)	7,701 (20.3)	
無回答・無効回答	158 (1.2)	151 (1.2)	165 (1.3)	474 (1.2)	
大麻使用の認知・運動機能低下による交通事故の危険性					<0.001
知っている	10,333 (80.4)	10,843 (85.2)	11,056 (89.2)	32,232 (84.9)	
知らない	2,346 (18.3)	1,723 (13.5)	1,164 (9.4)	5,233 (13.8)	
無回答・無効回答	168 (1.3)	160 (1.3)	174 (1.4)	502 (1.3)	
大麻の長期使用による記憶障害					<0.001
知っている	9,176 (71.4)	9,820 (77.2)	10,321 (83.3)	29,317 (77.2)	
知らない	3,512 (27.3)	2,748 (21.6)	1,898 (15.3)	8,158 (21.5)	
無回答・無効回答	159 (1.2)	158 (1.2)	175 (1.4)	492 (1.3)	
18歳未満からの大麻使用で依存症になる危険性					<0.001
知っている	8,172 (63.6)	9,078 (71.3)	9,809 (79.1)	27,059 (71.3)	
知らない	4,505 (35.1)	3,492 (27.4)	2,414 (19.5)	10,411 (27.4)	
無回答・無効回答	170 (1.3)	156 (1.2)	171 (1.4)	497 (1.3)	
大麻の繰り返し使用による学業への悪影響					<0.001
知っている	9,410 (73.2)	10,216 (80.3)	10,727 (86.5)	30,353 (79.9)	
知らない	3,267 (25.4)	2,337 (18.4)	1,497 (12.1)	7,101 (18.7)	
無回答・無効回答	170 (1.3)	173 (1.4)	170 (1.4)	513 (1.4)	
市販薬の乱用による薬物依存症					<0.001
知っている	9,158 (71.3)	9,690 (76.1)	10,223 (82.5)	29,071 (76.6)	
知らない	3,497 (27.2)	2,860 (22.5)	1,995 (16.1)	8,352 (22.0)	
無回答・無効回答	192 (1.5)	176 (1.4)	176 (1.4)	544 (1.4)	
市販薬の過量服薬による急性中毒死					<0.001
知っている	9,386 (73.1)	9,887 (77.7)	10,494 (84.7)	29,767 (78.4)	
知らない	3,287 (25.6)	2,680 (21.1)	1,732 (14.0)	7,699 (20.3)	
無回答・無効回答	174 (1.4)	159 (1.2)	168 (1.4)	501 (1.3)	
薬物乱用の誘いを断る自信					<0.001
大変ある	9,868 (76.8)	9,497 (74.6)	9,491 (76.6)	28,856 (76.0)	
どちらかといえばある	2,028 (15.8)	2,388 (18.8)	2,083 (16.8)	6,499 (17.1)	
どちらかといえばない	306 (2.4)	334 (2.6)	337 (2.7)	977 (2.6)	
まったくない	468 (3.6)	358 (2.8)	308 (2.5)	1,134 (3.0)	
無回答・無効回答	177 (1.4)	149 (1.2)	175 (1.4)	501 (1.3)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表36.過去1年間の大麻の使用経験別にみた薬物乱用の害知識の周知状況・誘いを断る自信

	過去1年間の大麻使用経験								p-value
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		
	n=37,677		n=15		n=275		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物依存症は精神疾患(心の病気)であること									0.057
知っている	33,462	(88.8)	11	(73.3)	198	(72.0)	33,671	(88.7)	
知らない	3,751	(10.0)	4	(26.7)	54	(19.6)	3,809	(10.0)	
無回答・無効回答	464	(1.2)	0	(.0)	23	(8.4)	487	(1.3)	
薬物乱用によるフラッシュバック									0.526
知っている	29,602	(78.6)	11	(73.3)	179	(65.1)	29,792	(78.5)	
知らない	7,627	(20.2)	4	(26.7)	70	(25.5)	7,701	(20.3)	
無回答・無効回答	448	(1.2)	0	(.0)	26	(9.5)	474	(1.2)	
大麻使用の認知・運動機能低下による交通事故の危険性									0.047
知っている	32,021	(85.0)	10	(66.7)	201	(73.1)	32,232	(84.9)	
知らない	5,180	(13.7)	5	(33.3)	48	(17.5)	5,233	(13.8)	
無回答・無効回答	476	(1.3)	0	(.0)	26	(9.5)	502	(1.3)	
大麻の長期使用による記憶障害									0.342
知っている	29,137	(77.3)	10	(66.7)	170	(61.8)	29,317	(77.2)	
知らない	8,077	(21.4)	5	(33.3)	76	(27.6)	8,158	(21.5)	
無回答・無効回答	463	(1.2)	0	(.0)	29	(10.5)	492	(1.3)	
18歳未満からの大麻使用で依存症になる危険性									0.385
知っている	26,887	(71.4)	9	(60.0)	163	(59.3)	27,059	(71.3)	
知らない	10,321	(27.4)	6	(40.0)	84	(30.5)	10,411	(27.4)	
無回答・無効回答	469	(1.2)	0	(.0)	28	(10.2)	497	(1.3)	
大麻の繰り返し使用による学業への悪影響									0.003
知っている	30,168	(80.1)	7	(46.7)	178	(64.7)	30,353	(79.9)	
知らない	7,024	(18.6)	8	(53.3)	69	(25.1)	7,101	(18.7)	
無回答・無効回答	485	(1.3)	0	(.0)	28	(10.2)	513	(1.4)	
市販薬の乱用による薬物依存症									0.348
知っている	28,887	(76.7)	10	(66.7)	174	(63.3)	29,071	(76.6)	
知らない	8,276	(22.0)	5	(33.3)	71	(25.8)	8,352	(22.0)	
無回答・無効回答	514	(1.4)	0	(.0)	30	(10.9)	544	(1.4)	
市販薬の過量服薬による急性中毒死									0.049
知っている	29,591	(78.5)	8	(53.3)	168	(61.1)	29,767	(78.4)	
知らない	7,616	(20.2)	6	(40.0)	77	(28.0)	7,699	(20.3)	
無回答・無効回答	470	(1.2)	1	(6.7)	30	(10.9)	501	(1.3)	
薬物乱用の誘いを断る自信									<0.001
大変ある	28,696	(76.2)	3	(20.0)	157	(57.1)	28,856	(76.0)	
どちらかといえばある	6,448	(17.1)	3	(20.0)	48	(17.5)	6,499	(17.1)	
どちらかといえばない	959	(2.5)	4	(26.7)	14	(5.1)	977	(2.6)	
まったくない	1,108	(2.9)	4	(26.7)	22	(8.0)	1,134	(3.0)	
無回答・無効回答	466	(1.2)	1	(6.7)	34	(12.4)	501	(1.3)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表37.過去1年間の市販薬の乱用経験別にみた薬物乱用の害知識の周知状況・誘いを断る自信

過去1年間の市販薬乱用経験									
	非経験群		経験群		無回答・ 無効回答		合計		p-value
	n=36,915		n=724		n=328		n=37,967		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
薬物依存症は精神疾患(心の病気)であること									0.099
知っている	32,770	(88.8)	622	(85.9)	279	(85.1)	33,671	(88.7)	
知らない	3,685	(10.0)	85	(11.7)	39	(11.9)	3,809	(10.0)	
無回答・無効回答	460	(1.2)	17	(2.3)	10	(3.0)	487	(1.3)	
薬物乱用によるフラッシュバック									0.324
知っている	29,016	(78.6)	554	(76.5)	222	(67.7)	29,792	(78.5)	
知らない	7,451	(20.2)	156	(21.5)	94	(28.7)	7,701	(20.3)	
無回答・無効回答	448	(1.2)	14	(1.9)	12	(3.7)	474	(1.2)	
大麻使用の認知・運動機能低下による交通事故の危険性									0.205
知っている	31,373	(85.0)	595	(82.2)	264	(80.5)	32,232	(84.9)	
知らない	5,070	(13.7)	110	(15.2)	53	(16.2)	5,233	(13.8)	
無回答・無効回答	472	(1.3)	19	(2.6)	11	(3.4)	502	(1.3)	
大麻の長期使用による記憶障害									0.436
知っている	28,533	(77.3)	547	(75.6)	237	(72.3)	29,317	(77.2)	
知らない	7,915	(21.4)	163	(22.5)	80	(24.4)	8,158	(21.5)	
無回答・無効回答	467	(1.3)	14	(1.9)	11	(3.4)	492	(1.3)	
18歳未満からの大麻使用で依存症になる危険性									0.613
知っている	26,336	(71.3)	506	(69.9)	217	(66.2)	27,059	(71.3)	
知らない	10,113	(27.4)	203	(28.0)	95	(29.0)	10,411	(27.4)	
無回答・無効回答	466	(1.3)	15	(2.1)	16	(4.9)	497	(1.3)	
大麻の繰り返し使用による学業への悪影響									<0.001
知っている	29,575	(80.1)	534	(73.8)	244	(74.4)	30,353	(79.9)	
知らない	6,859	(18.6)	170	(23.5)	72	(22.0)	7,101	(18.7)	
無回答・無効回答	481	(1.3)	20	(2.8)	12	(3.7)	513	(1.4)	
市販薬の乱用による薬物依存症									0.001
知っている	28,337	(76.8)	513	(70.9)	221	(67.4)	29,071	(76.6)	
知らない	8,065	(21.8)	196	(27.1)	91	(27.7)	8,352	(22.0)	
無回答・無効回答	513	(1.4)	15	(2.1)	16	(4.9)	544	(1.4)	
市販薬の過量服薬による急性中毒死									0.033
知っている	29,006	(78.6)	541	(74.7)	220	(67.1)	29,767	(78.4)	
知らない	7,440	(20.2)	168	(23.2)	91	(27.7)	7,699	(20.3)	
無回答・無効回答	469	(1.3)	15	(2.1)	17	(5.2)	501	(1.3)	
薬物乱用の誘いを断る自信									<0.001
大変ある	28,191	(76.4)	435	(60.1)	230	(70.1)	28,856	(76.0)	
どちらかといえばある	6,293	(17.0)	154	(21.3)	52	(15.9)	6,499	(17.1)	
どちらかといえばない	898	(2.4)	67	(9.3)	12	(3.7)	977	(2.6)	
まったくない	1,065	(2.9)	52	(7.2)	17	(5.2)	1,134	(3.0)	
無回答・無効回答	468	(1.3)	16	(2.2)	17	(5.2)	501	(1.3)	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表38.性別にみた過去1年間の市販薬乱用の経験及び市販薬乱用時に用いた市販薬の入手先

	性別										p-value	
	男子		女子		その他・不明		無回答・無効回答		合計			
	n=19,007		n=18,462		n=397		n=101		n=37,967			
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
過去1年間の市販薬乱用経験												<0.001
あり	289	(1.5)	404	(2.2)	26	(6.5)	5	(5.0)	724	(1.9)		
なし	18,529	(97.5)	17,925	(97.1)	367	(92.4)	94	(93.1)	36,915	(97.2)		
無回答・無効回答	189	(1.0)	133	(.7)	4	(1.0)	2	(2.0)	328	(.9)		
市販薬乱用経験者が乱用時に用いた市販薬の入手先(乱用経験のある者を分母として割合を算出した、複数回答可)												
薬局・ドラッグストア等の実店舗	186	(64.4)	265	(65.6)	10	(38.5)	4	(80.0)	465	(64.2)	0.001	
インターネット	9	(3.1)	13	(3.2)	3	(11.5)	0	(0.0)	25	(3.5)	0.105	
友人・恋人・知人	5	(1.7)	18	(4.5)	3	(11.5)	0	(0.0)	26	(3.6)	0.028	
家の常備薬	65	(22.5)	162	(40.1)	12	(46.2)	2	(40.0)	241	(33.3)	<0.001	
その他	16	(5.5)	17	(4.2)	4	(15.4)	0	(0.0)	37	(5.1)	0.050	
入手先不明	17	(5.9)	12	(3.0)	1	(3.8)	0	(0.0)	30	(4.1)	0.101	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表39.学年別にみた過去1年間の市販薬乱用の経験及び市販薬乱用時に用いた市販薬の入手先

	学年										p-value	
	1年生		2年生		3年生		合計					
	n=12,847		n=12,726		n=12,394		n=37,967					
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)				
過去1年間の市販薬乱用経験												0.053
あり	271	(2.1)	242	(1.9)	211	(1.7)	724	(1.9)				
なし	12,428	(96.7)	12,383	(97.3)	12,104	(97.7)	36,915	(97.2)				
無回答・無効回答	148	(1.2)	101	(.8)	79	(.6)	328	(.9)				
市販薬乱用経験者が乱用時に用いた市販薬の入手先(乱用経験のある者を分母として割合を算出した、複数回答可)												
薬局・ドラッグストア等の実店舗	175	(64.6)	155	(64.0)	135	(64.0)	465	(64.2)			0.993	
インターネット	4	(1.5)	9	(3.7)	12	(5.7)	25	(3.5)			0.037	
友人・恋人・知人	7	(2.6)	4	(1.7)	15	(7.1)	26	(3.6)			0.004	
家の常備薬	85	(31.4)	83	(34.3)	73	(34.6)	241	(33.3)			0.612	
その他	14	(5.2)	14	(5.8)	9	(4.3)	37	(5.1)			0.773	
入手先不明	10	(3.7)	9	(3.7)	11	(5.2)	30	(4.1)			0.630	

検定は、無回答・無効回答を除外して行った。

割合(%)が1.0以下となる場合、小数点の表記は、例えば「0.1」であれば「(.1)」と記載した。

表40.全国中学生の推定値：違法薬物生涯経験率（性別）の推移

調査年	中学生全体			男子中学生			女子中学生		
	点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI	
		下限	上限		下限	上限		下限	上限
大麻									
2010年	0.30	0.22	0.39	0.40	0.30	0.53	0.18	0.13	0.25
2012年	0.25	0.20	0.30	0.30	0.24	0.39	0.19	0.13	0.27
2014年	0.18	0.14	0.22	0.24	0.19	0.31	0.10	0.06	0.15
2016年	0.25	0.20	0.32	0.37	0.28	0.48	0.14	0.09	0.21
2018年	0.34	0.29	0.40	0.43	0.35	0.51	0.25	0.18	0.33
2022年	0.12	0.09	0.17	0.13	0.07	0.22	0.08	0.05	0.11
2024年	0.07	0.05	0.11	0.08	0.04	0.14	0.04	0.02	0.07
有機溶剤									
2010年	0.67	0.57	0.79	0.75	0.61	0.91	0.59	0.48	0.71
2012年	0.52	0.44	0.61	0.62	0.51	0.75	0.41	0.31	0.52
2014年	0.74	0.64	0.84	0.99	0.85	1.14	0.46	0.34	0.61
2016年	0.40	0.33	0.49	0.54	0.42	0.69	0.27	0.20	0.35
2018年	0.47	0.41	0.55	0.58	0.49	0.68	0.36	0.27	0.47
2022年	0.20	0.16	0.26	0.23	0.16	0.32	0.12	0.08	0.17
2024年	0.13	0.09	0.18	0.16	0.09	0.26	0.07	0.04	0.12
覚醒剤									
2010年	0.31	0.24	0.38	0.35	0.26	0.46	0.25	0.18	0.34
2012年	0.23	0.18	0.29	0.29	0.20	0.40	0.17	0.11	0.24
2014年	0.24	0.17	0.32	0.30	0.20	0.41	0.17	0.10	0.25
2016年	0.22	0.17	0.28	0.32	0.23	0.43	0.12	0.08	0.19
2018年	0.33	0.27	0.40	0.40	0.32	0.50	0.25	0.18	0.34
2022年	0.11	0.08	0.15	0.10	0.06	0.15	0.07	0.05	0.11
2024年	0.06	0.03	0.09	0.05	0.02	0.11	0.03	0.02	0.06
危険ドラッグ									
2012年	0.22	0.17	0.28	0.27	0.19	0.37	0.15	0.11	0.20
2014年	0.19	0.14	0.25	0.28	0.20	0.38	0.09	0.05	0.14
2016年	0.22	0.17	0.27	0.31	0.23	0.41	0.12	0.08	0.19
2018年	0.30	0.25	0.37	0.37	0.30	0.46	0.23	0.16	0.32
2022年	0.13	0.10	0.18	0.13	0.08	0.18	0.09	0.05	0.15
2024年	0.06	0.04	0.09	0.07	0.03	0.13	0.02	0.01	0.04
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ									
2010年	0.40	0.32	0.49	0.50	0.38	0.64	0.29	0.21	0.38
2012年	0.32	0.26	0.39	0.40	0.30	0.51	0.24	0.17	0.33
2014年	0.30	0.23	0.39	0.38	0.28	0.50	0.21	0.14	0.31
2016年	0.28	0.22	0.34	0.41	0.32	0.53	0.15	0.10	0.21
2018年	0.38	0.32	0.45	0.47	0.39	0.57	0.28	0.21	0.37
2022年	0.12	0.08	0.19	0.19	0.12	0.30	0.18	0.10	0.30
2024年	0.10	0.07	0.14	0.11	0.06	0.19	0.05	0.03	0.09
いずれかの違法薬物									
2010年	0.87	0.75	1.01	1.01	0.85	1.20	0.72	0.59	0.87
2012年	0.78	0.67	0.91	0.97	0.82	1.15	0.58	0.47	0.72
2014年	1.01	0.87	1.17	1.38	1.17	1.61	0.61	0.47	0.78
2016年	0.46	0.38	0.55	0.63	0.50	0.78	0.29	0.22	0.38
2018年	0.55	0.47	0.63	0.67	0.57	0.78	0.42	0.33	0.53
2022年	0.18	0.12	0.26	0.26	0.17	0.37	0.31	0.20	0.45
2024年	0.18	0.13	0.24	0.22	0.14	0.33	0.10	0.06	0.15

危険ドラッグは2012年から調査対象となった。

「大麻、覚醒剤または危険ドラッグ」のデータは、2022年調査より危険ドラッグのデータを含んだ。

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表41.全国中学生の推定値：違法薬物生涯経験率(学年別)の推移

調査年	1年生			2年生			3年生		
	点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI	
		下限	上限		下限	上限		下限	上限
大麻									
2010年	0.18	0.12	0.26	0.31	0.18	0.49	0.39	0.25	0.57
2012年	0.18	0.12	0.27	0.17	0.11	0.27	0.38	0.28	0.49
2014年	0.12	0.07	0.19	0.21	0.14	0.30	0.21	0.14	0.29
2016年	0.18	0.10	0.30	0.22	0.16	0.29	0.36	0.27	0.48
2018年	0.29	0.20	0.40	0.41	0.31	0.54	0.32	0.23	0.42
2022年	0.10	0.06	0.16	0.11	0.06	0.17	0.15	0.08	0.27
2024年	0.09	0.04	0.16	0.07	0.03	0.14	0.05	0.02	0.12
有機溶剤									
2010年	0.63	0.48	0.80	0.68	0.51	0.88	0.71	0.54	0.90
2012年	0.42	0.32	0.55	0.47	0.36	0.60	0.65	0.51	0.82
2014年	0.65	0.49	0.84	0.77	0.59	0.98	0.79	0.63	0.99
2016年	0.34	0.23	0.46	0.32	0.24	0.43	0.54	0.42	0.69
2018年	0.39	0.29	0.52	0.54	0.43	0.68	0.48	0.36	0.63
2022年	0.15	0.09	0.23	0.18	0.13	0.25	0.27	0.18	0.39
2024年	0.14	0.08	0.23	0.16	0.09	0.27	0.09	0.04	0.17
覚醒剤									
2010年	0.19	0.12	0.27	0.33	0.21	0.50	0.38	0.27	0.53
2012年	0.16	0.10	0.25	0.19	0.12	0.27	0.33	0.24	0.44
2014年	0.20	0.12	0.31	0.28	0.16	0.45	0.24	0.16	0.33
2016年	0.16	0.08	0.28	0.19	0.13	0.26	0.31	0.23	0.42
2018年	0.27	0.18	0.38	0.39	0.28	0.52	0.33	0.23	0.45
2022年	0.08	0.05	0.13	0.11	0.06	0.17	0.12	0.07	0.20
2024年	0.07	0.03	0.13	0.06	0.03	0.10	0.04	0.01	0.11
危険ドラッグ									
2012年	0.11	0.07	0.17	0.16	0.10	0.24	0.37	0.27	0.49
2014年	0.14	0.07	0.25	0.23	0.14	0.34	0.20	0.13	0.28
2016年	0.14	0.07	0.25	0.20	0.14	0.28	0.30	0.22	0.41
2018年	0.27	0.18	0.38	0.37	0.27	0.50	0.27	0.19	0.38
2022年	0.09	0.05	0.13	0.17	0.10	0.27	0.14	0.08	0.22
2024年	0.07	0.04	0.13	0.05	0.03	0.09	0.05	0.01	0.11
大麻、覚醒剤および危険ドラッグ									
2010年	0.25	0.17	0.34	0.44	0.29	0.63	0.49	0.34	0.69
2012年	0.25	0.16	0.37	0.24	0.17	0.34	0.46	0.35	0.59
2014年	0.26	0.17	0.37	0.35	0.23	0.52	0.31	0.22	0.42
2016年	0.20	0.11	0.34	0.24	0.17	0.32	0.39	0.30	0.51
2018年	0.30	0.21	0.41	0.46	0.35	0.59	0.38	0.28	0.50
2022年	0.12	0.08	0.19	0.19	0.12	0.30	0.18	0.10	0.30
2024年	0.12	0.07	0.21	0.11	0.06	0.19	0.05	0.02	0.12
いずれかの違法薬物									
2010年	0.75	0.59	0.93	0.93	0.73	1.16	0.92	0.71	1.16
2012年	0.65	0.51	0.82	0.68	0.55	0.82	1.00	0.81	1.22
2014年	0.90	0.69	1.15	1.09	0.83	1.40	1.04	0.86	1.26
2016年	0.38	0.26	0.52	0.36	0.28	0.47	0.62	0.49	0.78
2018年	0.43	0.33	0.56	0.64	0.51	0.78	0.56	0.43	0.72
2022年	0.18	0.12	0.26	0.26	0.17	0.37	0.31	0.20	0.45
2024年	0.20	0.13	0.31	0.23	0.14	0.36	0.10	0.04	0.18

危険ドラッグは2012年から調査対象となった。

「大麻、覚醒剤または危険ドラッグ」のデータは、2022年調査より危険ドラッグのデータを含んだ。

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を使い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表42.全国中学生の推定値:アルコール・タバコの経験率(生涯、過去1年間)(性別)の推移

調査年	中学生全体			男子中学生			女子中学生		
	点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI	
		下限	上限		下限	上限		下限	上限
アルコール使用(生涯)									
2010年	41.0	39.8	42.3	42.3	41.0	43.6	39.7	38.1	41.3
2012年	35.6	34.4	36.9	37.7	36.3	39.2	33.5	32.2	34.8
2014年	29.9	28.9	31.0	32.4	31.2	33.6	27.2	26.0	28.4
2016年	27.8	26.7	29.0	29.5	28.1	30.9	26.2	24.9	27.5
2018年	21.9	21.0	22.8	24.0	23.0	25.0	19.6	18.7	20.6
2022年	14.8	14.1	15.5	17.3	16.4	18.3	11.8	11.1	12.6
2024年	14.9	14.0	15.8	17.4	16.2	18.6	12.0	11.0	13.0
アルコール使用(過去1年間)									
2010年	24.7	23.8	25.7	25.0	24.0	26.1	24.4	23.2	25.8
2012年	20.9	19.7	22.1	21.5	20.2	22.9	20.2	19.0	21.5
2014年	17.5	16.7	18.2	18.6	17.8	19.5	16.2	15.3	17.1
2016年	15.2	14.2	16.2	16.8	15.6	18.0	13.6	12.7	14.6
2018年	11.9	11.3	12.5	13.5	12.8	14.3	10.1	9.5	10.8
2022年	7.4	7.0	7.8	8.9	8.3	9.5	5.7	5.3	6.2
2024年	5.7	5.3	6.1	6.9	6.3	7.5	4.3	3.8	4.8
タバコ使用(生涯)									
2010年	7.2	6.5	7.9	8.9	8.0	9.9	5.5	4.8	6.2
2012年	5.3	4.7	5.9	7.0	6.1	8.0	3.5	3.1	4.0
2014年	3.7	3.4	4.1	5.0	4.5	5.6	2.3	2.0	2.7
2016年	2.2	1.9	2.5	2.8	2.4	3.2	1.6	1.3	2.0
2018年	2.2	2.0	2.5	2.8	2.5	3.2	1.6	1.4	1.8
2022年	1.3	1.1	1.4	1.6	1.4	1.9	0.8	0.6	0.9
2024年	1.3	1.1	1.6	1.7	1.4	2.1	0.9	0.7	1.1
タバコ使用(過去1年間)									
2010年	3.4	3.0	3.9	4.0	3.5	4.6	2.8	2.3	3.3
2012年	2.3	1.9	2.7	3.1	2.5	3.8	1.5	1.2	1.8
2014年	1.5	1.3	1.7	2.1	1.7	2.5	0.8	0.7	1.0
2016年	1.0	0.9	1.2	1.4	1.2	1.7	0.6	0.5	0.8
2018年	1.0	0.9	1.2	1.4	1.2	1.6	0.7	0.5	0.8
2022年	0.6	0.5	0.7	0.8	0.7	1.0	0.3	0.3	0.4
2024年	0.7	0.6	0.9	1.0	0.7	1.3	0.4	0.3	0.5

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表43.全国中学生の推定値:アルコール・タバコの経験率(生涯、過去1年間)(学年別)の推移

調査年	1年生			2年生			3年生		
	点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI		点推定値 (%)	95%CI	
		下限	上限		下限	上限		下限	上限
アルコール使用(生涯)									
2010年	35.7	34.1	37.4	40.3	39.0	41.6	46.6	44.8	48.4
2012年	29.2	28.0	30.4	35.5	34.1	36.9	41.6	39.5	43.8
2014年	25.7	24.5	27.0	29.9	28.4	31.3	33.8	32.5	35.2
2016年	24.5	22.8	26.3	26.2	25.0	27.5	32.6	30.9	34.3
2018年	18.3	17.2	19.3	21.9	20.6	23.2	25.0	23.7	26.3
2022年	12.8	11.9	13.7	15.3	14.2	16.4	15.9	15.0	16.9
2024年	15.5	14.2	16.8	13.9	12.8	15.1	15.3	13.6	17.2
アルコール使用(過去1年間)									
2010年	19.9	18.5	21.3	24.0	23.0	25.1	29.9	28.6	31.2
2012年	14.7	13.6	15.8	20.9	19.6	22.2	26.5	24.6	28.5
2014年	13.6	12.8	14.5	17.6	16.6	18.7	20.9	19.8	22.0
2016年	13.0	11.9	14.2	13.9	13.0	14.9	18.4	17.0	19.9
2018年	9.8	9.1	10.6	11.6	10.9	12.4	13.9	12.8	15.0
2022年	6.7	6.1	7.4	7.4	6.8	8.1	7.9	7.3	8.6
2024年	5.9	5.3	6.6	5.2	4.6	5.8	6.0	5.1	7.0
タバコ使用(生涯)									
2010年	4.5	4.0	5.1	6.7	6.0	7.5	10.1	8.7	11.6
2012年	2.9	2.5	3.4	4.9	4.3	5.5	7.8	6.7	8.9
2014年	2.8	2.4	3.3	3.9	3.4	4.6	4.4	4.0	4.9
2016年	1.7	1.3	2.1	2.0	1.7	2.3	2.9	2.5	3.4
2018年	1.5	1.3	1.7	2.3	2.0	2.6	2.9	2.5	3.3
2022年	1.0	0.8	1.2	1.2	0.9	1.4	1.6	1.3	2.0
2024年	1.2	0.9	1.5	1.4	1.1	1.7	1.5	1.1	1.8
タバコ使用(過去1年間)									
2010年	1.9	1.5	2.2	2.9	2.5	3.4	5.3	4.3	6.4
2012年	1.0	0.7	1.3	2.2	1.8	2.7	3.6	3.0	4.4
2014年	1.1	0.8	1.4	1.6	1.2	2.0	1.8	1.6	2.1
2016年	0.8	0.6	1.2	0.9	0.7	1.1	1.4	1.2	1.7
2018年	0.6	0.5	0.8	1.0	0.8	1.2	1.4	1.1	1.6
2022年	0.5	0.4	0.7	0.6	0.4	0.7	0.8	0.6	1.0
2024年	0.6	0.4	0.8	0.7	0.5	1.0	0.8	0.5	1.2

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

2020年調査はCOVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表44. 全国中学生の推定値(全体、性別、学年別): 違法薬物の生涯経験率

生涯経験(Lifetime use)									
	中学生全体 (Total)			男子 (Male)			女子 (Female)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
大麻 (Marijuana)	0.07	0.05	0.11	0.08	0.04	0.14	0.04	0.02	0.07
有機溶剤 (Inhalants)	0.13	0.09	0.18	0.16	0.09	0.26	0.07	0.04	0.12
覚醒剤 (Methamphetamine)	0.06	0.03	0.09	0.05	0.02	0.11	0.03	0.02	0.06
危険ドラッグ (NPS)	0.06	0.04	0.09	0.07	0.03	0.13	0.02	0.01	0.04
大・覚・危のいずれか (Any of Marijuana, Methamphetamine and NPS)	0.10	0.07	0.14	0.11	0.06	0.19	0.05	0.03	0.09
いずれかの違法薬物 (Any illicit drugs)	0.18	0.13	0.24	0.22	0.14	0.33	0.10	0.06	0.15
	1年生 (First year)			2年生 (Second year)			3年生 (Third year)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
大麻 (Marijuana)	0.09	0.04	0.16	0.07	0.03	0.14	0.05	0.02	0.12
有機溶剤 (Inhalants)	0.14	0.08	0.23	0.16	0.09	0.27	0.09	0.04	0.17
覚醒剤 (Methamphetamine)	0.07	0.03	0.13	0.06	0.03	0.10	0.04	0.01	0.11
危険ドラッグ (NPS)	0.07	0.04	0.13	0.05	0.03	0.09	0.05	0.01	0.11
大・覚・危のいずれか (Any of Marijuana, Methamphetamine and NPS)	0.12	0.07	0.21	0.11	0.06	0.19	0.05	0.02	0.12
いずれかの違法薬物 (Any illicit drugs)	0.20	0.13	0.31	0.23	0.14	0.36	0.10	0.04	0.18

NPS: New Psychoactive Substances

大・覚・危のいずれか: 大麻・覚醒剤・危険ドラッグのいずれか (Any of Marijuana, Methamphetamine and NPS)

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表45. 全国中学生の推定値(全体、性別、学年別): 違法薬物の過去1年間の経験率

過去1年間の経験 (Use in the past year)									
	中学生全体 (Total)			男子 (Male)			女子 (Female)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
大麻 (Marijuana)	0.04	0.02	0.07	0.05	0.02	0.10	0.02	0.00	0.05
有機溶剤 (Inhalants)	0.08	0.04	0.13	0.09	0.04	0.17	0.05	0.02	0.09
覚醒剤 (Methamphetamine)	0.03	0.01	0.05	0.03	0.01	0.07	0.01	0.00	0.03
危険ドラッグ (NPS)	0.03	0.01	0.05	0.04	0.02	0.09	0.01	0.00	0.03
大・覚・危のいずれか (Any of Marijuana, Methamphetamine and NPS)	0.05	0.03	0.08	0.07	0.03	0.12	0.02	0.00	0.05
いずれかの違法薬物 (Any illicit drugs)	0.11	0.07	0.16	0.13	0.07	0.22	0.06	0.03	0.11
	1年生 (First year)			2年生 (Second year)			3年生 (Third year)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
大麻 (Marijuana)	0.05	0.02	0.10	0.02	0.01	0.06	0.04	0.01	0.09
有機溶剤 (Inhalants)	0.08	0.04	0.15	0.10	0.05	0.19	0.05	0.02	0.13
覚醒剤 (Methamphetamine)	0.03	0.02	0.06	0.02	0.01	0.05	0.02	0.00	0.07
危険ドラッグ (NPS)	0.04	0.02	0.06	0.02	0.00	0.05	0.03	0.01	0.09
大・覚・危のいずれか (Any of Marijuana, Methamphetamine and NPS)	0.08	0.04	0.13	0.03	0.01	0.07	0.04	0.01	0.10
いずれかの違法薬物 (Any illicit drugs)	0.12	0.07	0.21	0.12	0.06	0.21	0.07	0.03	0.15

NPS: New Psychoactive Substances

大・覚・危のいずれか: 大麻・覚醒剤・危険ドラッグのいずれか (Any of Marijuana, Methamphetamine and NPS)

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表46.全国中学生の推定値(全体、性別、学年別):市販薬乱用の過去1年間の経験率

市販薬乱用(Over-the-counter drug abuse)									
	中学生全体 (Total)			男子 (Male)			女子 (Female)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
過去1年(Past year)	1.8	1.6	2.0	1.5	1.3	1.7	2.0	1.7	2.3
	1年生 (First year)			2年生 (Second year)			3年生 (Third year)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
過去1年(Past year)	2.1	1.8	2.4	1.8	1.5	2.1	1.6	1.3	1.9

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表47.全国中学生の推定値(全体、性別、学年別):アルコールの経験率(生涯、過去1年間)

アルコール使用(Alcohol use)

	中学生全体 (Total)			男子 (Male)			女子 (Female)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
生涯 (Lifetime)	14.9	14.0	15.8	17.4	16.2	18.6	12.0	11.0	13.0
過去1年 (Past year)	5.7	5.3	6.1	6.9	6.3	7.5	4.3	3.8	4.8
	1年生 (First year)			2年生 (Second year)			3年生 (Third year)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
生涯 (Lifetime)	15.5	14.2	16.8	13.9	12.8	15.1	15.3	13.6	17.2
過去1年 (Past year)	5.9	5.3	6.6	5.2	4.6	5.8	6.0	5.1	7.0

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表48.全国中学生の推定値(全体、性別、学年別):タバコの経験率(生涯、過去1年間)

タバコの使用(Tobacco use)

	中学生全体 (Total)			男子 (Male)			女子 (Female)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
生涯 (Lifetime)	1.3	1.1	1.6	1.7	1.4	2.1	0.9	0.7	1.1
過去1年 (Past year)	0.7	0.6	0.9	1.0	0.7	1.3	0.4	0.3	0.5
	1年生 (First year)			2年生 (Second year)			3年生 (Third year)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
生涯 (Lifetime)	1.2	0.9	1.5	1.4	1.1	1.7	1.5	1.1	1.8
過去1年 (Past year)	0.6	0.4	0.8	0.7	0.5	1.0	0.8	0.5	1.2

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

表49.全国中学生の推定値(全体、性別、学年別):ノンアルコール飲料の過去1年間の経験率

ノンアルコール飲料(Non-alcoholic beverages)

	中学生全体 (Total)			男子 (Male)			女子 (Female)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
過去1年 (Past year)	8.2	7.7	8.7	8.9	8.2	9.5	7.3	6.7	8.0
	1年生 (First year)			2年生 (Second year)			3年生 (Third year)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (%)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
過去1年 (Past year)	8.9	8.2	9.6	8.2	7.5	8.8	7.4	6.6	8.2

95%CI: 95%信頼区間 (95% confidence interval)

推定値の算出には、R (ver. 4.4.1), survey (ver. 4.4-2) を用い、点推定値および95%信頼区間を算出した。

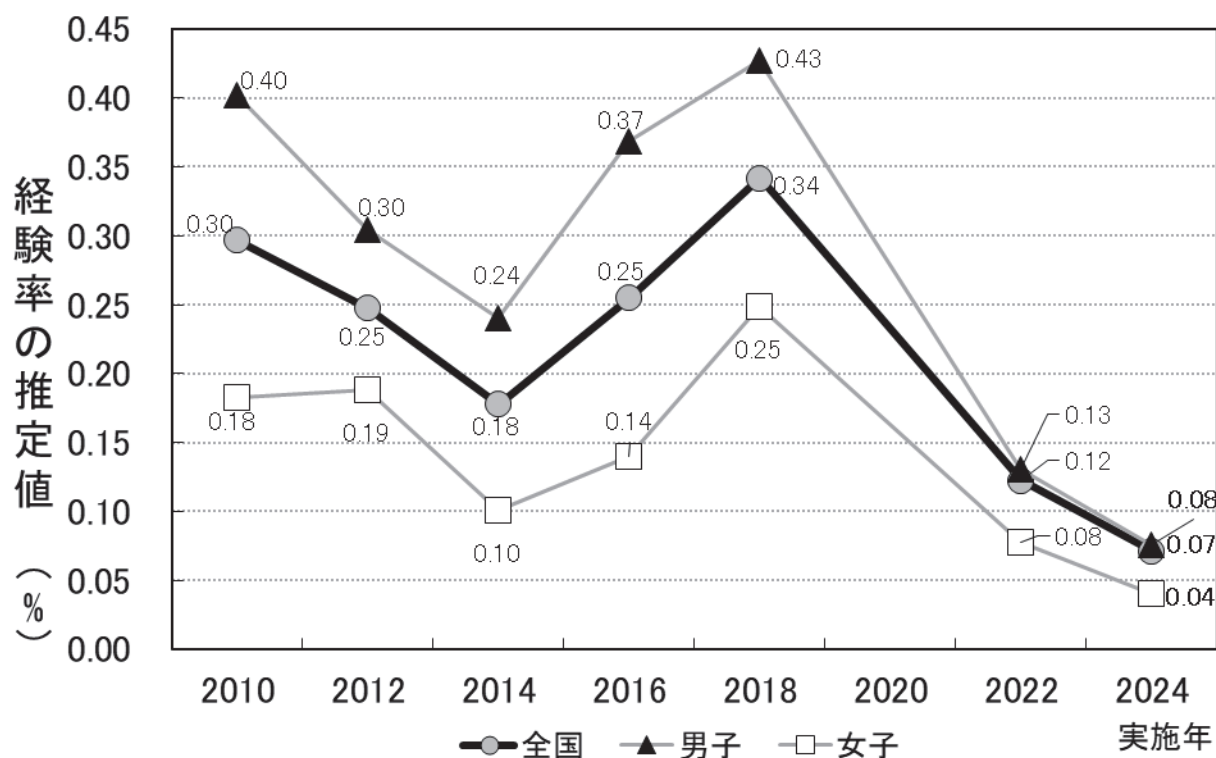


図14. 大麻生涯経験率の推定値の推移（2010-2024年）

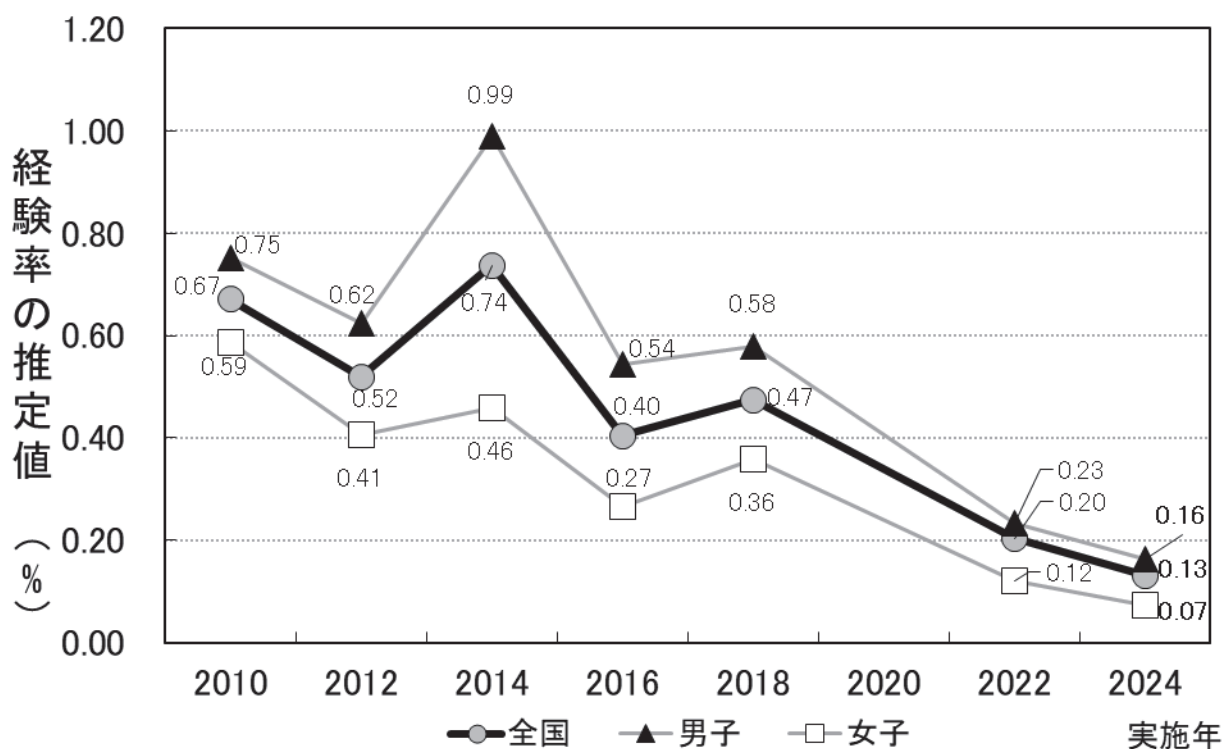


図15. 有機溶剤生涯経験率の推定値の推移（2010-2024年）

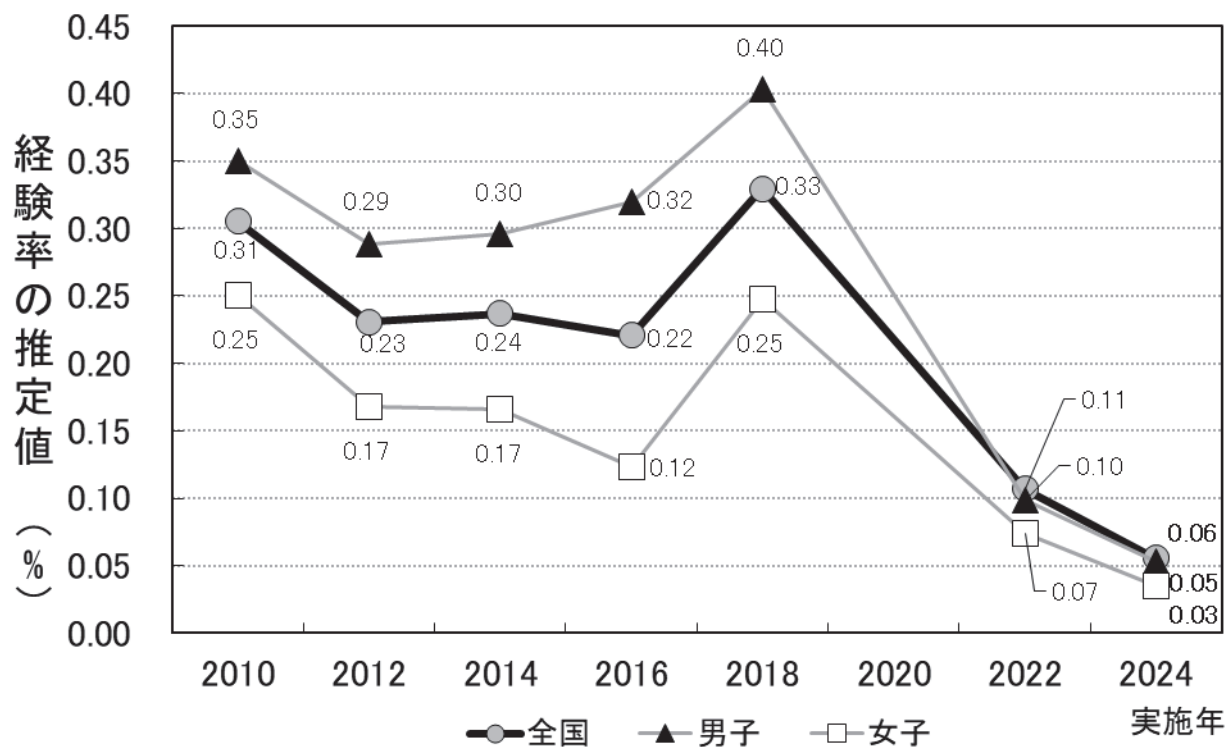


図16. 覚醒剤生涯経験率の推定値の推移（2010-2024年）

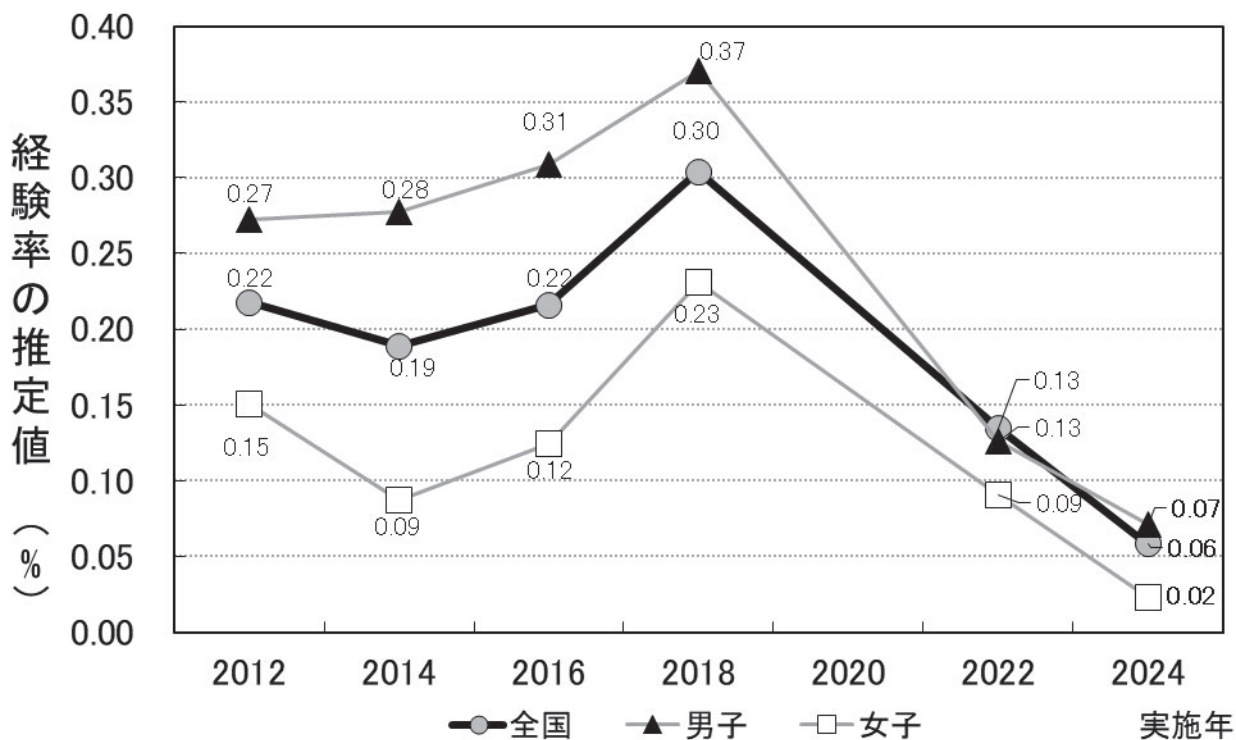


図17. 危険ドラッグ生涯経験率の推定値の推移（2012-2024年）

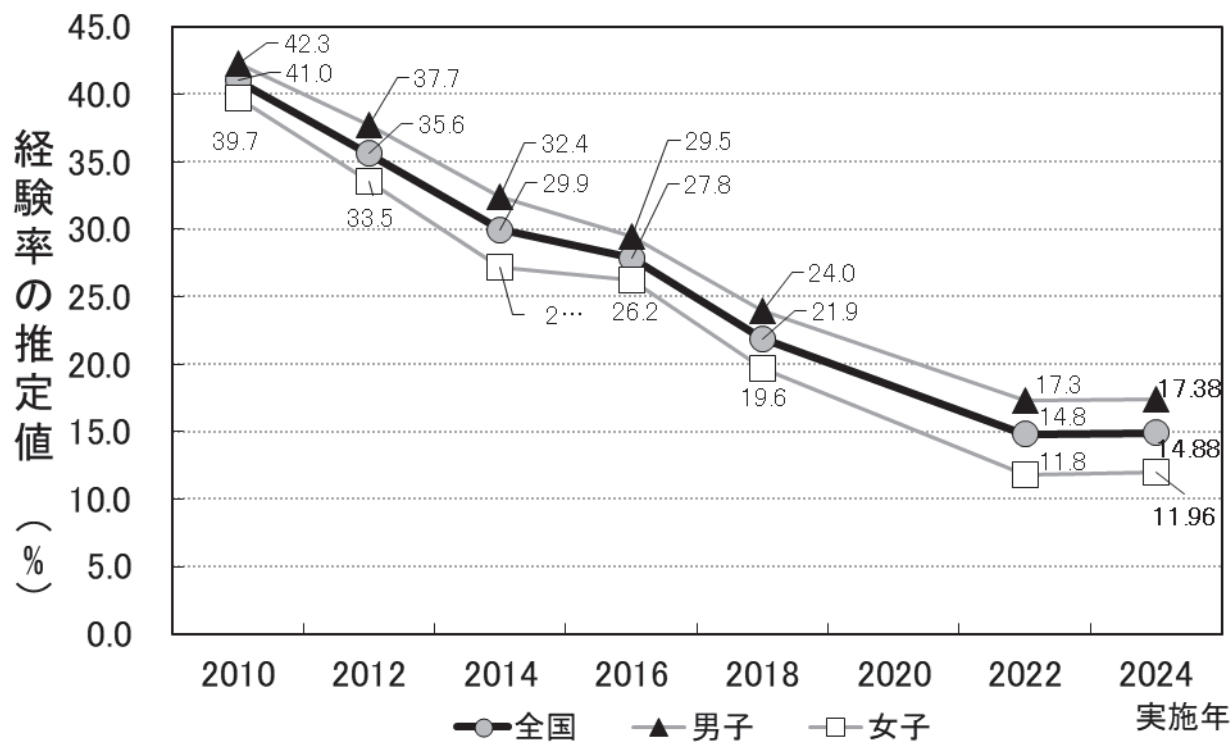


図18. アルコール生涯経験率の推定値の推移（2010-2024年）

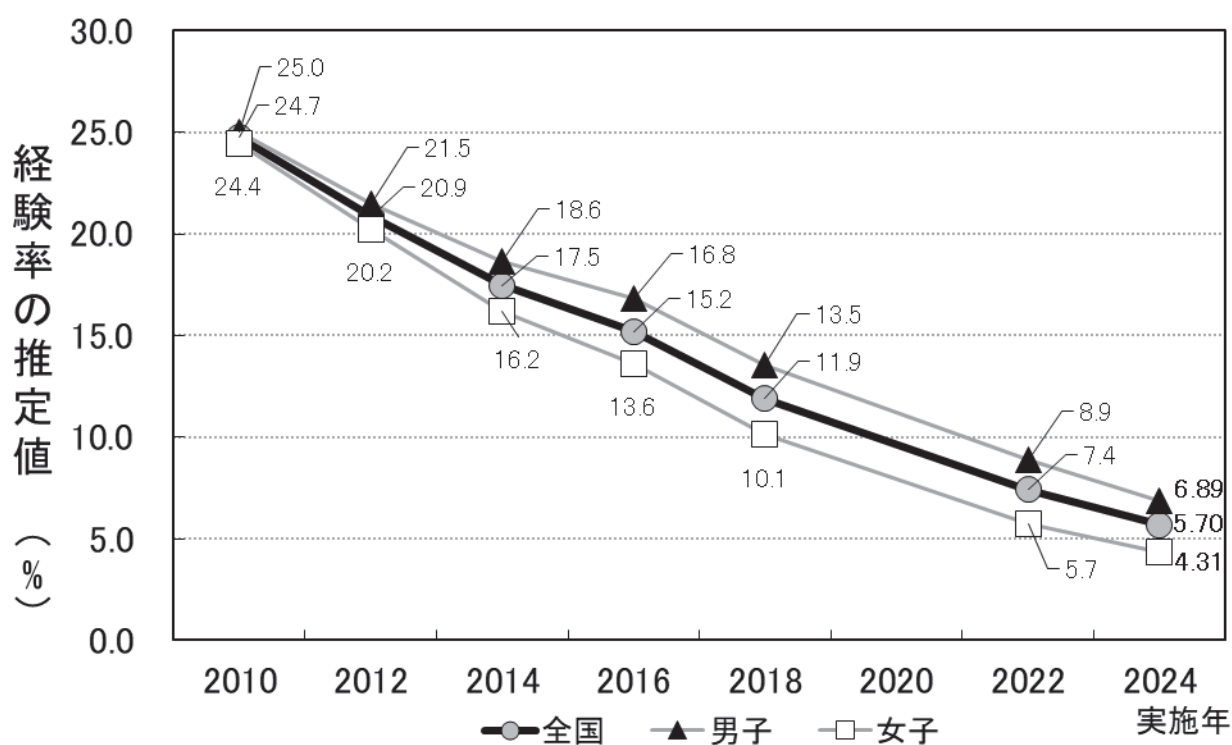


図19. アルコール過去1年経験率の推定値の推移（2010-2024年）

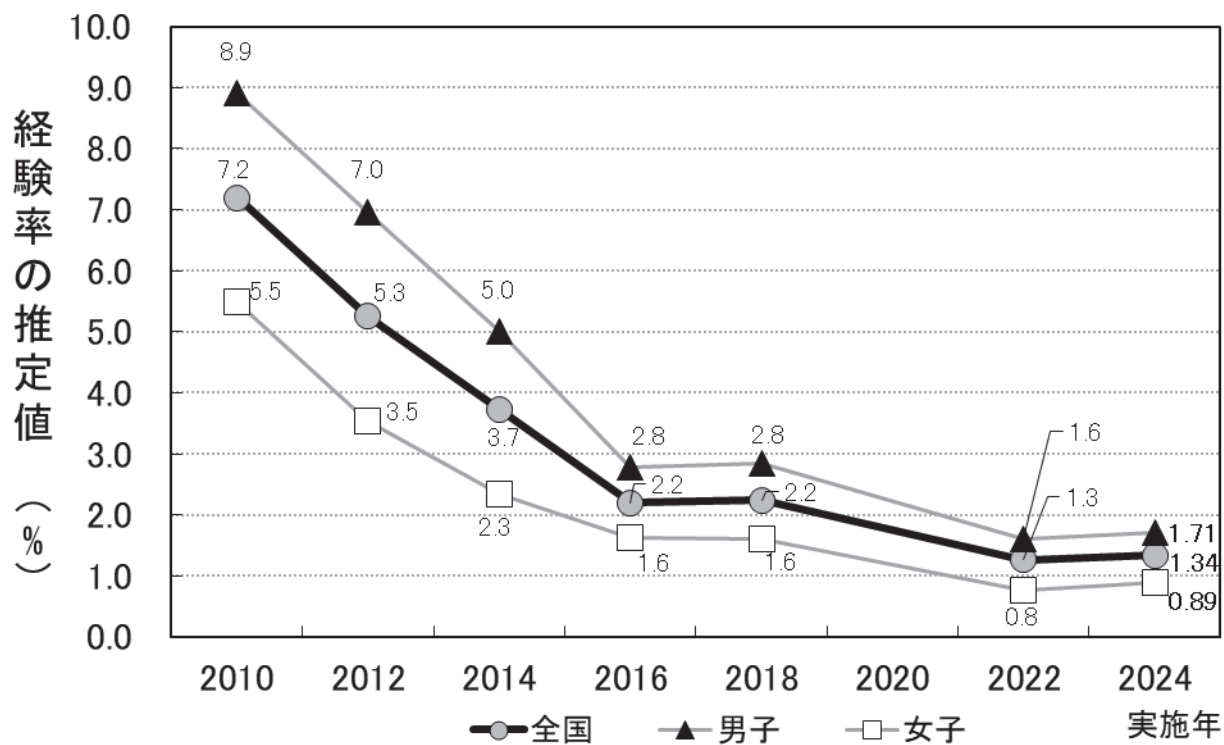


図20. タバコ生涯経験率の推定値の推移（2010-2024年）

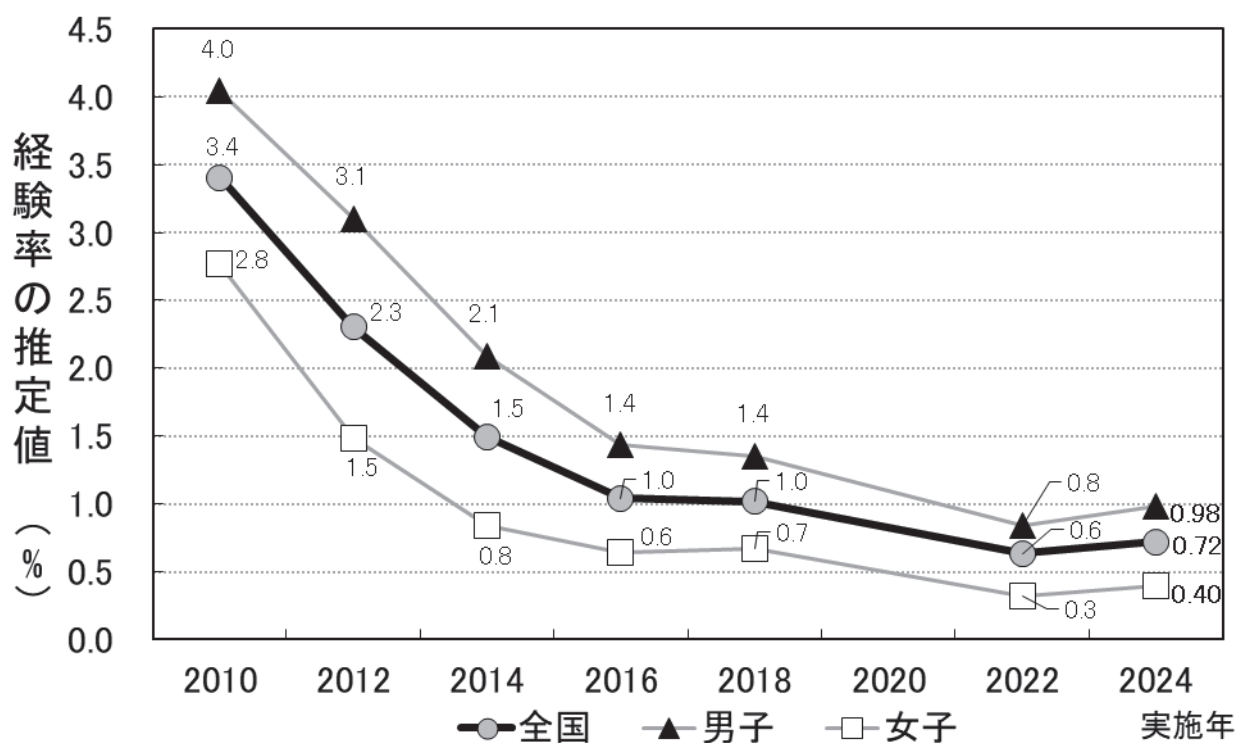


図21. タバコ過去1年経験率の推定値の推移（2010-2024年）

飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査2024 (第14版-24)

このアンケートは、全国の中中学生を対象に飲酒、喫煙を含めた薬物乱用に関する実態を調べ、中学生を含む青少年に対する予防教育などの対策を考えるために役立てます。あなたのプライバシーを守るために、次の項目をご覧ください。

- (1) 各質問に対する回答は、ことわりのない限り、自分の場合に最も近いものの数字を1つだけ、丸で囲んでください。
- (2) このアンケートは無記名で実施します。あなたの名前、住所などの個人情報は記入しないでください。
調査結果は全体をまとめて処理しますので、個人名や学校名が特定されることはありません。
- (3) あなたの自由意志に基づいてアンケートにお答えください。答えたくない質問には答えなくても結構です。
また、アンケートに協力しないことで成績が下がるなど、何らかの不利益が生じることはありません。
- (4) アンケートが終わったら、一緒に配られた封筒にアンケート用紙を入れてから封をして提出してください。アンケートの開封は学校では行いません。
アンケートの集計は下記の研究機関が行います。
- (5) 全体を集計した結果は、こちらのホームページで公開されます。 <https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/index.html>

実施機関

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 (東京都小平市小川東町 4-1-1)

アンケートにお答えいただける場合は、下記の同意欄(同意する)に○をつけてください。
お答えいただけない場合は、白紙のままご提出ください。
無記名のため、アンケート用紙の提出後に同意を撤回することはできません。



同意する

※こちらに○が付いていない場合は、アンケートの回答状況を確認の上、同意と判断させていただく場合がございますので、予めご承知おさください。

調査主体

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
薬物依存研究部(東京都小平市)



国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

- 質問1 あなたの性別をお答えください。 1. 男性 2. 女性 3. その他・不明
- 質問2 あなたは中学何年生ですか? 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生
- 質問3 起床時間は、ほぼ一定していますか? 1. はい 2. いいえ
- 質問4 就寝時間は、ほぼ一定していますか? 1. はい 2. いいえ
- 質問5 毎朝、朝食を食べていますか? 1. ほとんど毎日食べている 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
- 質問6 現在、あなたにとっての学校生活は次のどれに当てはまりますか?
1. とても楽しい 2. どちらかと言えば楽しい 3. どちらかと言えば楽しくない 4. まったく楽しくない
- 質問7 学校・塾・習い事・運動での時間以外、大人が不在の状態で、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか?
1. なし、あるいは、ほとんどなし 2. 1時間未満 3. 1～2時間未満 4. 2～3時間未満 5. 3時間以上
- 質問8 あなたは、親しく遊べる友人がいますか? 1. いる 2. いない
- 質問9 あなたは、相談事のできる友人がいますか? 1. いる 2. いない
- 質問10 あなたは、悩みごとがある時、親に相談する方だと思いますか?
1. よく相談する 2. どちらかと言えば相談する 3. どちらかと言えば相談しない
4. ほとんど相談しない 5. 両親がいない(単身赴任・死別・別居・離婚など)
- 質問11 この1年間についてお答えください。あなたは日常生活や学校生活などの様々な場面で「生きづらさ」をどのくらい感じていますか?
1. かなり感じている 2. どちらかといえば感じている
3. どちらかといえば感じていない 4. まったく感じていない

質問12 これまでに1回でも、アルコールを飲んだことがありますか？ある場合は、初めて飲んだ時の年齢を選んでください。

1. 飲んだことがない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳
6. 14歳 7. 15歳以上 8. 飲んだことはあるが、年齢は覚えていない

質問13 この1年間に、どのくらいの頻度で、アルコールを飲みましたか？

1. 一度も飲まなかった 2. 1年間で1回～数回 3. 月に数回
4. 週に数回 5. ほとんど毎日

質問14 この1年間に、どのくらいの頻度で、アルコールを含まないノンアルコール飲料（ノンアルコールビールやノンアルコールチューハイなど）を飲みましたか？

1. 一度も飲まなかった 2. 1年間で1回～数回 3. 月に数回
4. 週に数回 5. ほとんど毎日

質問15 20歳未満の飲酒は禁止されていますが、あなたは20歳未満の飲酒をどう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、飲むべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、時と場合に応じては、かまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、全然かまわないと思う

質問16 これまでに1回でも、タバコを吸ったことがありますか？ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。

※ここでいうタバコとは、紙巻きタバコのみならず、ニコチンを含有する電子タバコ、加熱式タバコも含めます。

1. 吸ったことがない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳
6. 14歳 7. 15歳以上 8. 吸ったことはあるが、年齢は覚えていない

質問17 この1年間に、どのくらいの頻度でタバコを吸いましたか？

※ここでいうタバコとは、紙巻きタバコのみならず、ニコチンを含有する電子タバコ、加熱式タバコも含めます。

1. 一度も吸わなかった 2. 1年間で1回～数回 3. 月に数回
4. 週に数回 5. ほとんど毎日

質問18 20歳未満の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは20歳未満の喫煙をどう思いますか？

1. 法律で禁じられているから、吸うべきでないと思う
2. 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁じられてはいるが、全然かまわないと思う

質問19 この1年間に、あなたは市販薬（咳止め薬、風邪薬、解熱鎮痛薬など）を乱用目的（治療目的ではなく）で使用したことがありますか？ここでいう乱用目的とは「ハイになるために、気分をかえるために決められた量や回数を超えて使用すること」と定義します。

1. ある 2. ない

質問19-1 この1年間に、市販薬の乱用経験がある人のみお答えください。

乱用に用いた市販薬をどのように入手しましたか？（当てはまるものすべてに○）

1. 一度も乱用経験がない 2. 薬局・ドラッグストア等の実店舗で購入した 3. インターネットで購入した
4. 友人・恋人・知人から譲り受けた 5. 家の常備薬から
6. その他の方法で入手した（具体的に：_____）

質問20 あなたは、次の薬物の使用に誘われたことがありますか？

※ここでいう「シンナー（有機溶剤）」の使用とは、乱用目的での自己摂取を指します。

※ここでいう危険ドラッグとは、法律で禁止されている薬物の一部を変えた薬物のことを指します。

「脱法ドラッグ」「合法ハーブ」と呼ばれることもあります。

	1. ない	2. ある
たいま 大麻（マリファナ）	1	2
ゆうきようざい シンナー（有機溶剤）	1	2
かくせいざい 覚醒剤	1	2
危険ドラッグ	1	2

質問21 あなたが次の薬物を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいですか？

	1. 絶対不可能	2. ほとんど不可能	3. なんとか手に入る	4. 簡単に手に入る
たいま 大麻（マリファナ）	1	2	3	4
ゆうきようざい シンナー（有機溶剤）	1	2	3	4
かくせいざい 覚醒剤	1	2	3	4
危険ドラッグ	1	2	3	4

質問22 あなたは、これまでに、次の薬物を使ったことがありますか？

※私たちが薬物使用の事実を知ったとしても警察等に通報することはありません。また、そのような義務がないことも確認しています。

	1. 1回も使ったことがない	2. 過去1年以内に使った	3. 過去1年より前に使った
たいま 大麻（マリファナ）	1	2	3
ゆうきようざい シンナー（有機溶剤）	1	2	3
かくせいざい 覚醒剤	1	2	3
危険ドラッグ	1	2	3

質問23 薬物乱用は法律で禁止されていますが、あなたは、次の薬物を使うことについて、どう思いますか？

	1. 使うべきではない	2. 少々ならかまわない	3. まったくかまわない
たいま 大麻（マリファナ）	1	2	3
ゆうきようざい シンナー（有機溶剤）	1	2	3
かくせいざい 覚醒剤	1	2	3
危険ドラッグ	1	2	3

質問24 薬物乱用を繰り返すと、やめたくてもやめられない状態となる薬物依存症が精神疾患(心の病気)であることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問25 薬物乱用の結果、精神病状態になってしまうと、それを治療して治っても、その後、薬物乱用をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出ること(フラッシュバック)があるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問26 大麻を使うと、認知機能や運動機能が低下し、交通事故の危険性が高くなることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問27 大麻を長期間に渡って使用すると、脳の記憶に関する神経(海馬)が減少し、記憶に悪影響が出ることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問28 若年期(13～18歳)から大麻を使い始めた人は、成人してから大麻を使い始めた人に比べて、薬物依存症になる危険性が何倍も高くなること知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問29 大麻を繰り返し使う人ほど、学業に悪影響(学校の卒業ができない、単位を取得できない、IQが低下するなど)が生じる可能性が高くなることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問30 市販薬(ドラッグストア等で売られている医薬品)の中には、決められた量や回数を超えて使うことで(乱用することで)、薬物依存症になる可能性があることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問31 市販薬(ドラッグストア等で売られている医薬品)の中には、一度に大量の薬を飲むことで(オーバードーズ)、意識を失ってしまったり(意識障害)、呼吸ができなくなったりして(呼吸障害)、最悪の場合、死に至る可能性があることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

質問32 友人や知り合いに薬物の乱用を誘われたとしたら、あなたは断る自信がどのくらいありますか？

1. 大変ある 2. どちらかと言えばある 3. どちらかと言えばない 4. まったくない

アンケート用紙を三つ折りにし、一緒に配った封筒に入れ、
封をしてから先生に提出してください。ご協力ありがとうございました。

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
薬物乱用・依存状況の実態把握のための全国調査と
近年の動向を踏まえた大麻等の乱用に関する研究 (23KC2006)
令和 6 年度 総括・分担研究報告書

2025 年 3 月 31 日 発行

編著者 嶋根 卓也

発行者 嶋根 卓也

発行所 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

<https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/index.html>

印刷・製本 株式会社 アトミ

<引用>

嶋根卓也、ほか、令和 6 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握のための全国調査と近年の動向を踏まえた大麻等の乱用に関する研究 (23KC2006)」総括・分担研究報告書, 2025.

Takuya Shimane, et al, A nationwide epidemiological survey to understand the actual situation of drug abuse and addiction in Japan, and research on the abuse of cannabis and other drugs based on recent drug use trends, Research on Regulatory Science of Pharmaceuticals and Medical Devices, Health, Labour and Welfare Policy Research Grants, 23KC2006, 2025.